

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
（販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No	備考
1	B-02001634	男性	1歳	25mg	アミノフィリン 塩酸ツロブテロール カルボシステイン 塩酸アンブロキシール オキサトミド ブランルカスト水和物 エリスロマイシン コハク酸ヒドロロチゾンナトリウム	興奮	回復	気管支炎のため入院、酸素テント収容。朝よりやや興奮傾向あり。インフルエンザ予防のため、夕方から本剤を投与。本剤投与後、一日中声を出して騒ぐ状態であった。本剤服用5日目、投与中止。翌日興奮回復しその翌日退院となる。	異常-1	
2	B-05000689	女性	1歳	39 mg	セフジトレンピボキシル アセトアミノフェン ヒベンズ酸チペピジン カルボシステイン ジアゼパム	激越	軽快	4日前から発熱し、感冒薬を投与するも解熱せず受診。確定検査でインフルエンザAと診断。急性肺炎を危惧し、感染予防薬と共にリン酸オセルタミビルを投与。2回投与後に解熱するが、興奮状態で泣きわめく。翌朝本剤内服後歩行ふらつき状態。午後目覚めてから号泣、異常な興奮状態。ジアゼパム投与し、本剤の投与を中止した。2日後に軽快、睡眠良好。	異常-2	
3	B-05022379	男性	1歳	20mg	カルボシステイン 塩酸シプロヘパタジン	異常行動 低体温	回復	本剤2回投与後に低体温発現。 その後、異常行動発現(急に走り出して変な姿勢で止まる)し、入院となり経過観察となる。 入院中に異常行動なし。 翌日、低体温回復し、退院。異常行動も回復。	異常-3	
4	B-06025418	女性	2歳	17.5mg	メロベナム三水合物 塩酸ツロブテロール トラネキサム酸 カルボシステイン 酒石酸アリメマジン ヒベンズ酸チペピジン セネガ 耐性乳酸菌製剤(2) 維持液(3)	異常行動 激越	回復 回復	体温41℃。インフルエンザA型治療の為、リン酸オセルタミビル投与開始。服用約30分後、異常行動、興奮状態発現。ベッド欄に頭をガンガンぶつける。翌朝、本剤服用。本剤のんで30分ぐらいから、気嫌が悪くなり、頭をベッド欄にぶつけたりする。以後本剤中止。内服中止してからは同症状認めず。異常行動、興奮回復。体温:37℃	異常-4	
5	B-07010111	男性	2歳	25mg	アセトアミノフェン	異常行動	回復	インフルエンザ確定診断を行い、リン酸オセルタミビル処方。夕方より服用開始。寝ていたはずなのに突然起き上がって部屋を走り回った。けがはなかった。服用開始から5日目、異常行動回復。	異常-5	
6	B-08019530	男性	2歳	4 mg/kg		異常行動	軽快	数日前より発熱し、インフルエンザB型と診断され、リン酸オセルタミビルを2回服用。 服用2日目、本剤2回服用し、解熱した。異常行動発現。泣きわめいて、走り回る、寝転がる、壁に頭を打ち付ける、気に入らないことがあると頭を壁に打ち付けたり、ぐずりが今までより激しくなったため、本剤投与中止。 本剤服用中止2日目、日中は問題なかったが、真夜中にまたぐずりが激しくなった。 本剤服用中止3日目、気に入らない事があると頭を壁に打ち付けたり、ぐずったりする。 夜泣きが多い、地面に頭を打ち付けるなどの異常行動が続くため、入院。 意識清明で、神経学的その他の身体所見で異常所見は認められなかった。 脳波では異常所見は認められなかった。 本剤服用中止から3日目、退院。 その後、経過、予後は良好であった。		2008/4/1以降 新規報告

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
 （販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No	備考
7	B-03003860	女性	3歳	60mg	テオフィリン 塩酸プロカテロール 塩酸ブロムヘキシン ツブテロール オウヒエキス	失見当識	回復	インフルエンザA型と診断されリン酸オセルタミビルを投与開始（投与期間不明）。投与後、少しボーッとしたりした感じあり。その日の夜より落ち着きなく動き回る。呼んでも返事なし。焦点も定まらない。検査を行ったところ、テオフィリンの血中濃度がやや高値をしめすもEEG、MRI、髄液検査に異常なし。投与開始8日後、症状回復し退院。	異常-6	
8	B-06001533	男性	3歳	60mg	塩酸シプロヘプタジン カルボシステイン ヒベンズ酸チベジン	意識変容 状態	回復	A型インフルエンザ治療のためリン酸オセルタミビルの服用を開始した。服用開始から3日目に午前中分のリン酸オセルタミビルを服用した約1時間後に意識障害（奇声を発死、頭を壁へぶつけるなど）が発現し、約5時間持続した。その後、意識障害は回復し、再燃しなかった。	異常-7	
9	B-07013311	女性	3歳	45 mg		異常行動	回復	インフルエンザA型の診断にてリン酸オセルタミビル処方。1回目服用約4時間後、急に階段を駆け上がった、普段置いていない場所に走っておもちゃを探しにいったりといつもはみられない行動あり。 服用2日目 、前日同様、熱が高くぐったりしているのに突然動き出すなど、いつもと違う行動が見られた。午前中、体温は38℃台。午後には体温低下。その後症状なし。	異常-8	
10	B-07013419	男性	3歳	60 mg		異常行動	回復	39.6℃の発熱。A型インフルエンザに対し、リン酸オセルタミビル処方。本剤服用30分後、2階で昼寝していたが、いつもの発熱時同様、少し四肢をピクピクとする。服用2時間30分後、2階の大きい窓を開けて上半身を乗り出すようにしていた。母親が注意すると素直に従う。10分程度で異常行動疑いは回復。	異常-9	
11	B-07027596	男性	3歳	25 mg	塩酸プロカテロール カルボシステイン ツブテロール	激越 幻覚	回復 回復	夜、A型インフルエンザに対して、リン酸オセルタミビル服用。服用約1時間後、体熱感あり。寝たかと思うとわーっと叫んで「何かがある」と言う。テレビを指差して「あーあー」「まーまー」と訳のわからないことを言いガクガクふるえる。10分位でおさまって入眠。服用約2時間後、ふとんに入っていたのが起きて走り出す。10分程度でおさまる。服用6時間後、また騒ぐ。服用2日目、朝、起きてすぐまた「わーっ」と騒ぐ。本剤半量を服用し、（苦味のため半分をやめた）以後、異常行動なし。	異常-10	
12	B-08001381	男性	3歳	33 mg	塩酸シプロヘプタジン ラクタミン	譫妄	回復	インフルエンザA型治療のため、本剤投与開始。発症時体温39℃。リン酸オセルタミビル1回のみ服用。服用3時間後、突然起き上がり机の上へあがる。その後柱に登ろうとした。その後5分程度ボーとした感じであった。夜間せん妄発現。その後眠っていた。10分後、夜間せん妄回復。		2008/4/1以降 新規報告
13	B-02001480	男性	4歳	75mg	トシル酸トスフロキサシン ザルトプロフェン	妄想 幻覚	回復	インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビルを投与。投与1時間後（夜間）に幻覚・妄想が出現。その後、回復したが、翌朝の服用（2時間）後に再び幻覚・妄想が出現し、包丁を持ち出す。来院後、投与を中止。症状は回復。併用薬の投与量・時点は不明。	異常-11	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
 （販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No.	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No	備考
14	B-05000876	男性	4歳	60mg	アセトアミノフェン	尿失禁	回復	約1ヶ月前、インフルエンザAの診断で、本剤51mg、5日間投与。異常なし。発熱、嘔吐にて来院。流行状況よりインフルエンザと診断し本剤60mg投与開始。 3日目、発熱は継続し、意識もうろう状態で意味不明言葉を発し、泣き、尿失禁する。10分後に落ち着く。 4日目、朝から本剤の服用を中止していたが、夜、睡眠中に突然起き上がり、壁をガンガン叩く等の興奮状態。10～15分で再入眠。1時間ごとに4～5回繰り返した。 翌日回復。	異常-12	
15	B-06024911	男性	4歳	60 mg	アセトアミノフェン	激越	軽快	夕方より、インフルエンザA型に対して、リン酸オセルタミビル服用開始。夜、体温38.5℃。異常な興奮がみられ、不眠となった。 服用2日目、夜、体温:37.5℃。異常な興奮状態の程度が強くなった。服用3日目、夕方、興奮状態3～40分経過後に続いて、大声で奇声を発し、おびえたように走り回り、大人二人でかろうじておさえるという異常な行動が深夜まで持続した。服用4日目、本剤服用中止。	異常-13	
16	B-07000057	男性	4歳	30 mg	ヒベンズ酸チベピジン 塩酸シプロヘプタジン 塩酸フロムヘキシ ン セフロキサジン 耐性乳酸菌製剤(2)	異常行動	回復	インフルエンザA型のため、リン酸オセルタミビル服用開始。服用30分後、異常行動(公道を走っており、家につれて帰った後は2階のベランダから身を乗り出そうとした)発現。聞くと「下を見てたの」との事。服用は1回で中止。翌日、異常行動回復。	異常-14	
17	B-07000106	男性	4歳	不明	カルボシステイン	激越	回復	午前中から39～40℃台の発熱があり、インフルエンザ抗原検査でA型陽性のため、リン酸オセルタミビル処方。服用1時間後、大声をあげて、一点を凝視した。その後、ぼーっとして入眠した。服用4時間後、大声をあげて、押さえつけていないと動き出そう暴れた様子で、救急車で当院救急外来に搬送された。来院時、意識は清明で興奮状態になかった。	異常-15	
18	B-07000286	男性	4歳	132 mg	臭化水素酸デキストロメト ルファン d-マレイン酸クロルフェ ニラミン フマル酸ケトチフェン	異常行動	回復	インフルエンザA型に対して、リン酸オセルタミビル処方。うわごとを言って、表情もこわばり、走り出すため、親が抱きかかえていた。服用後6～7時間後に症状消失。再度本剤服用後、同症状出現し、繰り返した。 4回目の服用中止。症状全て回復。	異常-16	
19	B-07004784	女性	4歳	60 mg		異常行動	軽快	検査にてインフルエンザA型と診断、リン酸オセルタミビル処方。本剤2回目服用後、寝ている夜中に突然起き上がり、同じ部屋のTVの方へ歩いていった。眼は開いていたがうつろであった。口を動かし、もごもごしていたが、意味は不明であった。 服用2日目、朝、覚醒し、以降、異常なし。本剤服用中止。	異常-17	
20	B-07018038	男性	4歳	不明	オキサトミド d-マレイン酸クロルフェ ニラミン dl-塩酸メチルエフェ ドリン 塩酸フロムヘキシ ン 塩化リゾチーム ツロブテロール	異常行動	回復	2年前、体温:39℃にて、受診し、リン酸オセルタミビル処方。服用2日目、夕方には解熱。この間、大声で叫ぶという異常行動を起こしている。 本年、体温:40.1℃。本剤服用開始2回目、深夜、体温:37.9℃。目を開いたまま、立ったり、すわったり、走ったりが、10～15分続いた。その後、意識ははっきりしてもこのことは覚えていない。	異常-18	
21	B-07025219	女性	4歳	不明		異常行動	軽快	リン酸オセルタミビル処方。服用1日目から服用3日目まで、夜間にうろろろしていた。異常行動発現。	異常-19	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
 （販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No	備考
22	B-08001240	男性	4歳	69 mg		幻覚 異常行動	回復 回復	発熱あり。インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル服用。 服用2日目、朝、体温38.5℃から体温36.3℃に。 服用3日目、朝、本剤服用30分後、「物が2つに見える」、「キヤーキヤー大きな 声をあげて走り回る」といった幻覚、異常行動が発現。体温36.7℃。		2008/4/1以降 新規報告
23	B-08002520	男性	4歳	36 mg	塩酸シプロヘパタジン フマル酸ケチフェン イブプロフェン	異常行動	回復 回復	前シーズンにリン酸オセルタミビル服用し、副作用なし。インフルエンザ予防 接種2回接種していた。 発熱し、休日急患センター受診したところ、インフルエンザA型と診断され、リン 酸オセルタミビル服用開始。 服用3日目、朝、本剤服用。就寝1時間半後に目覚めて、ギョアギョア、「イ ヤダイヤダ」と叫び、どうしようもない様に人を蹴る。泣き疲れて眠るといった 異常行動が発現。深夜、再び急に起き上がって窓際の台に上るといった異常 行動発現したため、本剤の投与中止。 以後同様の行動なし。その後インフルエンザA型回復。		2008/4/1以降 新規報告
24	B-08028418	女性	4歳	102 mg	硫酸サルブタモール カルボシステイン 塩酸アンブロキシロール	異常行動	回復	インフルエンザA型発症し、インフルエンザA型と診断。リン酸オセルタミビル、 吸入β2刺激薬、去痰薬等投与。 突然走り出す、おびえる、わめく、手を振り回す等無意味な動作、寝られない （寝れない）といった異常行動発現。突然走りまわり、おびえたり、わめいたり した。手をふりまわす様な意味のない行動をくり返した。		2008/4/1以降 新規報告
25	B-08031694	男性	4歳	36 mg	塩酸アンブロキシロール	異常行動	回復	インフルエンザA型治療のためリン酸オセルタミビル服用。服用後寝込む。 異常行動発現。午後起床し、椅子に座り、水を飲んだり、父親と話した後、突 然室内を走り回る。父の問いかけに我に戻る。その時点では体温38℃。その 後は37℃台維持しかぜ症状残る。		2008/4/1以降 新規報告
26	B-04008530	男性	5歳	78mg	塩酸プロムヘキシジン ヒベンズ酸チベピジン 酒石酸アリメマジン	譫妄	回復	インフルエンザA型と診断、リン酸オセルタミビル78mg/日他を処方。2回服用 後、夜から翌明け方にかけて40℃の高熱が続く。明け方、異常な発音があり、 興奮して家の中を走り回り、譫妄状態に陥った。同日も本剤を服用。同日、 譫妄回復。その後も2日間服用し、母親が投与中止。その後譫妄状態は おきなかった。	異常-21	
27	B-05024964	女性	5歳	30mg	ヒベンズ酸チベピジン カルボシステイン 塩酸シプロヘパタジン 塩酸アンブロキシロール ツロプテロール	譫妄	回復	A型インフルエンザに対し発症の翌日よりリン酸オセルタミビル服用開始 (38℃)。服用2時間後より譫妄状態(突然起きあがる、目つきがおかしい、異 常な発音、毛布をくわえる等)が8時間ほど続き、朝4時頃就眠。その後6時に 覚醒、意識は清明で発熱(39℃台)はあったが譫妄はその後出現せず。イン フルエンザ発症12日後インフルエンザ軽快。	異常-22	
28	B-05025585	男性	5歳	120mg	ヒベンズ酸チベピジン カルボシステイン フマル酸クレマستن	譫妄	軽快	既往歴として、高熱時奇声をあげたことあり。また、前回本剤服用時に、異常 行動発現あり。 発熱あり、インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル服用開始。 昼、本剤服用後、30分ほど混迷状態(奇声、走り回る、ないものをあると言う) となった。その2時間後、数分同様の状態となった。本剤2回目服用2時間後、 30分ほど混迷状態となり、入院。入院時意識清明、胸腹部所見異常なし、咽 頭発赤なし、臍腹刺激症状なし。本剤服用は中止。入院後はせん妄なし。	異常-23	
29	B-06025200	女性	5歳	69 mg	ヒベンズ酸チベピジン カルボシステイン フマル酸クレマستن セフテラムピボキシシル	異常行動	回復	インフルエンザA型のため、リン酸オセルタミビル投与開始。 朝は嘔吐してしまったため、その日の夜に服用。服用1時間後くらいから異常 行動(わけのわからない行動が続き、一晩中眠れなかった。うつろうつろして いる状態でフンを投げ出ししたりするなど)が続く。翌日、異常行動回復	異常-24	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）

（販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No	備考
30	B-06025337	女性	5歳	42 mg	dl-塩酸メチルエフェドリン 塩酸アンブロキシオール メキサジン	異常行動 痙攣	回復 回復	インフルエンザに対して、リン酸オセルタミビル内服。本剤服用2時間半後、就寝。本剤服用から5時間後、急に起き上がり、嘔吐し、トイレへ駆け込んだ。その後、便座や自分の太ももを必要以上にさすっていた。心配になった両親が救急車を呼び、搬送。その後、就寝。熱も下がり、退院。	異常-25	
31	B-07000128	女性	5歳	33 mg	塩酸シプロヘパタジン ヒベンズ酸チペビジン アセトアミノフェン	異常行動 意識変容 状態	回復 回復	A型インフルエンザ治療のためリン酸オセルタミビル処方。同日夜、異常行動（急にかけだし意識消失して眼が上転し転倒）。翌日、トイレに行こうとして眼がうつろになってたおれた。	異常-26	
32	B-07003175	男性	5歳	127.8mg	アセトアミノフェン アセトアミノフェン	異常行動 異常行動 異常行動	回復 回復 回復	インフルエンザA型の診断にてリン酸オセルタミビル処方。本剤1回目服用後、就寝。夕方、本剤2回目服用。布団から急に立ち上がりカニのように歩き回る。カーテンを開けて外を見、痙攣し倒れた。投与開始2日目、一時入院。入院中も本剤継続。投与開始3日目、4日目、「死にたい」との発現あり。投与開始5日目、本剤服用中止。	異常-27	
33	B-07013260	女性	5歳	132 mg	ヒベンズ酸チペビジン カルボシステイン トラネキサム酸 アセトアミノフェン	異常行動	回復	リン酸オセルタミビル服用開始。服用2日目に、異常行動（走りまわって壁にぶつかる。表情がおかしい）が発現。	異常-28	
34	B-07022413	女性	5歳	120mg	ヒベンズ酸チペビジン 硫酸テルブタリン カルボシステイン 塩酸アンブロキシオール 塩酸シプロヘパタジン ツロプテロール	痙攣 幻覚 異常行動 幻聴 譫妄	回復 回復 不明 回復 回復	インフルエンザA型の診断にて、リン酸オセルタミビル服用。服用2日目早朝、入眠していたが急に起き上がり、走り回る。友達の名前を呼ぶ。母の背中に虫が見えると言いだした。母の背中によじのぼったり、友人の声が聞こえると言った。母に抱かれてガクガク硬直発作(?)を繰り返す。母は認識可能。救急車で病院を受診。受診時、異常行動消失、意識清明。	異常-29	
35	B-07025220	男性	5歳	36 mg	ヒベンズ酸チペビジン 塩酸シプロヘパタジン アセトアミノフェン	異常行動	回復	インフルエンザA型にてリン酸オセルタミビル処方。夕食後、本剤服用。一度眠った後、目を覚まし、何かにおびえるように「いやだいやだ」と叫び、洗面台によじ登ろうとする、蛇口をじっと見つめ指で押さえる。こうした行動を繰り返し行った。異常行動発現。服用から2日目、朝、起床時もやや興奮した様子。異常行動回復。	異常-30	
36	B-07025660	女性	5歳	92mg	ヒベンズ酸チペビジン カルボシステイン 塩酸アンブロキシオール トラネキサム酸	熱性譫妄	回復	インフルエンザ検査でA型陽性。リン酸オセルタミビル処方。午後より本剤服用開始。服用約1時間後、視線が合わず、1分間程ではあるが、ぐるぐると同じ所をまわる様に走る動作をした。熱せんでも発現。夜間、鼻出血も出現。服用2日目、熱せんでも回復。解熱後の同事象の再現性はなし。けいれん歴なし。服用6日目、本剤服用終了。	異常-31	
37	B-00013386	不明	6歳	150mg	なし	易興奮性	軽快	インフルエンザ治療にリン酸オセルタミビル服用開始。母親から医師への連絡では、服用した夜、就寝中に暴れた。患者は薬を飲むのが嫌いで、以前にも他剤で夜中に暴れたことがあった。本剤投与中止し興奮軽快。	異常-32	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
 （販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No	備考
38	B-05021887	男性	6歳	60mg	セフトラムピボキシル ヒベンズ酸チペビジン 塩酸シプロヘプタジン カルボシステイン 耐性乳酸菌製剤	激越 幻覚	回復	小児科受診時、トミロン、アスベリン、ベリアクテン、ムコダイン、エンテロノール処方。 夕刻、発熱(39.0℃)のため来院、脱水症状あり。 発症時所見で発熱(38.3℃)、意識障害あり。 本剤服用後、幻覚、興奮状態発現(異常な発言あり、暴れ出す)。 救急車にて来院、すぐにおとなしくなり、けいれんも発現なし。神経学的異常なし。 その後、幻覚、興奮状態発現なしのまま本剤投与終了。	異常-33	
39	B-05023789	女性	6歳	33 mg	ヒベンズ酸チペビジン 塩酸シプロヘプタジン カルボシステイン 塩酸セフトラムピボキシル アセトアミノフェン	異常行動 幻覚	回復 回復	高熱のためリン酸オセルタミビル並びにヒベンズ酸チペビジン、塩酸シプロヘプタジン及びカルボシステインを服用数時間後、意味不明な言葉を話して部屋から走って出てくる。異常行動としてはいかいも見られた。次の日に再度リン酸オセルタミビル並びにヒベンズ酸チペビジン、塩酸シプロヘプタジン及びカルボシステインを服用するも、直後に嘔吐する。リン酸オセルタミビルの服用を中止し、6日後に幻覚症状やいかいから回復する。	異常-34	
40	B-06000186	男性	6歳	不明	アセトアミノフェン	異常行動	回復	インフルエンザA型発症、本剤5日間内服する。内服中、幻聴が続いている。その約2ヶ月後、発熱を認め、B型インフルエンザの疑いがあることから、リン酸オセルタミビルと抗生物質の服用を開始。39℃代の発熱が見られたことから、アセトアミノフェン坐剤を投与。リン酸オセルタミビルの投与開始日の夜に異常行動(突然起きて異常な発言をし、母親の足跡の間に自分の指を入れたり、制止がきかない程暴れる)が発現し、翌日の朝にかけて異常行動(入眠中突然起きて異常な発言)が見られた。その後、異常行動は見られず、回復した。	異常-35	
41	B-06006859	女性	6歳	35mg	塩酸シプロヘプタジン ヒベンズ酸チペビジン カルボシステイン ツロプテロール	せん妄 異常行動	回復 回復	A型インフルエンザで発熱(39.5℃)が見られ、リン酸オセルタミビルの服用を開始した。初回服用開始後、せん妄及び異常行動が発現し、回復した。服用開始から2日目及び3日目もリン酸オセルタミビル服用後にせん妄及び異常行動(落ち着きなく動き回る等)が発現し、回復した。	異常-36	
42	B-06025518	女性	6歳	45 mg	セフジレンピボキシル 耐性乳酸菌製剤(3) トラネキサム酸 ヒベンズ酸チペビジン 塩酸アンプロキシオール アセトアミノフェン	意識変容 状態	回復	高熱、倦怠感、関節痛等あり、インフルエンザ陰性だが、リン酸オセルタミビル等を処方。本剤内服3~4時間後、意識障害(独り言)発現。夕方、再び独り言を発し、一人で屋外へ出ようとした。 その後も意識障害は継続。翌朝、意識レベルは回復。熱も36.8℃まで解熱した。3日後、後遺症はなく軽快、退院。	異常-37	
43	B-07000279	男性	6歳	40.5mg	セフジニル アセトアミノフェン	異常行動	回復	A型インフルエンザのためリン酸オセルタミビルを投与開始。投与後突然起き、走り出し、ドアに激突、顔面打撲(左顔)。異常行動発現。	異常-38	
44	B-07012137	男性	6歳	40mg	臭化水素酸デキストロメトラン 鎮咳配合剤(1) 酒石酸アリメマジン アセトアミノフェン	異常行動	回復	B型インフルエンザに対して、リン酸オセルタミビル処方。服用2日目、昼、2階より転落。「助けて」という声に家族が見つかる。外傷は特になし。その後、意識清明。服用6日目、服用継続するも異常はみられず、朝、本剤服用後投与終了。	異常-39	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
 （販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No	備考
45	B-07013250	男性	6歳	不明		異常行動	回復	B型インフルエンザに対して、リン酸オセルタミビル服用開始。1回目服用後しばらくしてから大声を出し玄関に向かって走っていったところ母親に制止された。	異常-40	
46	B-07013332	女性	6歳	90 mg		異常行動 異常行動	回復 回復	A型インフルエンザ治療のため、リン酸セルタミビル処方。体温は39.0℃。夕方、服用1時間後に就寝。体温は38℃。服用4時間後、就寝中、突然大声を出し、足をバタバタと動かし、暴れた。母親が、体をさすりながら声をかけると5分後におさまる。しかし、本人は目をさまさず、そのまま睡眠に入った。服用2日目、目覚めは正常であったが、昨夜の事は全く記憶にない。本剤服用4時間30分後、昨夜のように大声をだし、手足を急に動かし、暴れる。声をかけてなだめると昼寝に入る。夕方、本剤服用。その夜は副作用はなかった。	異常-41	
47	B-07013397	男性	6歳	75 mg		譫妄 異常行動	回復 回復	インフルエンザに対して、リン酸オセルタミビル処方。帰宅しすぐ服用。服用後まもなく、うわごとを言う、走り回るといった異常行動が発現。その後、本剤中止。異常行動は回復。	異常-42	
48	B-07013398	男性	6歳	不明		異常行動	回復	発熱(38℃)。インフルエンザA型の診断がつき、リン酸オセルタミビル処方。本剤服用1時間後、突然、服用した薬剤や飲み物等を全て嘔吐。この間も、ずっと傾眠しているようで、妄想のような意味不明の言動あり。嘔吐直後、痙攣あり。 2回目服用3時間後、それまで寝ていたのに突然飛び起き、飛び込むように階段の方へかけていった。家人が追いかけて止めた。その時の状況は本人は覚えていなかった。服用3日目、普通の状態になった。	異常-43	
49	B-07026153	男性	6歳	79.8mg	ヒベンズ酸チベピジン フマル酸クレマスチン 塩酸ツロプテロール 塩酸アンブロキシオール	異常行動	回復	インフルエンザA型の診断に対して、リン酸オセルタミビル処方。服用2日目、夜、39.7℃の高熱があり、突然起き上がり、家の中を走り回った。訳のわからないことを話し、5～10分間続いた。異常行動発現。その後症状回復。服用3日目、昼、受診。体温36.7℃。反応は普通で異常なし。投与中止。	異常-44	
50	B-07022876	不明	6歳	98 mg		異常行動	不明	インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル服用開始。同日、玄関まで突然走っていった。異常行動が発現。	異常以外-89	2008/4/1以降追加報告
51	B-08026307	男性	6歳	48 mg	ヒベンズ酸チベピジン カルボシステイン ラクトミン	異常行動	回復	前日より発熱、頭痛、嘔気あり。インフルエンザA型陽性のため、リン酸オセルタミビル服用開始。本剤服用3時間後、異常行動発現。眠りから急にムサツと起きて部屋をグルグルまわる。2階から1階に降りて、外に出ようとして母が制止し、意識清明となる。その後、回復。		2008/4/1以降新規報告

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
 （販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No	備考
52	B-08028327	男性	6歳	88 mg		異常行動	回復	頭痛、気分不良で当院受診。インフルエンザと診断。リン酸オセルタミビル計9回服用。 ムカムカ発現。初診後一日中ムカムカしていると訴えあり。 服用3日目、興奮、幻視発現。虹が見えるという幻視。 服用4日目、異常な行動発現。うなされ、恐い夢をみた。走り回ったりした。よくしゃべる。 服用5日目、受診。夜の服用中止。 本剤服用中止から1日目、解熱。元氣さ戻る。		2008/4/1以降新規報告
53	B-08031693	女性	6歳	投与量不明	アセトアミノフェン 麻黄湯	異常行動	不明	インフルエンザ治療のためリン酸オセルタミビル服用。 服用約3時間半後、異常行動発現。急に家の中を走りまわったり、着ている物を脱ぎだした。発熱あり。本剤1回服用まで確認している。その後の服用状況（中止したか否かを含めて）は不明。		2008/4/1以降新規報告
54	B-05020834	女性	7歳	不明 (4mg/kg/日)		幻覚 異常行動	回復 回復	リン酸オセルタミビル4mg/kg/日処方。夕投与1時間後にドアノブを強く回し続ける異常行動、幻覚発生。救急車搬送入院。翌日回復。	異常-45	
55	B-05023592	男性	7歳	100mg	アセトアミノフェン	譫妄 失見当識	回復	頭痛、咳、鼻症状があり、インフルエンザ陰性であったが、本剤処方。 3回服用後、就寝中に突然起き上がり、せん妄、見当識障害発現（異常な発言をしつつ徘徊、急に笑ったり、物を数える）。 その後入院し、輸液経過観察。せん妄以外は意識清明で発熱、感冒症状は呈していた。 翌日、就寝中に見当識障害（意味不明なことを言い笑う）を起こすが、その後せん妄、見当識障害回復	異常-46	
56	B-05023597	男性	7歳	60mg		異常行動	回復	咳嗽、咽頭痛、眼痛、発熱(38.6℃)出現し、その後体温40℃となり、異常な発言をする。頭痛、腹痛も出現。 翌朝、姉に処方されていた本剤を服用（発熱継続）。 夕刻、再度服用その後、異常行動発現奇声を発し怖い目をして呼び出し、勢いで部屋を飛び出し、救急車を要請	異常-47	
57	B-05023978	男性	7歳	60mg	麻黄湯	異常行動	回復	インフルエンザの診断を受けてリン酸オセルタミビルを服用。約6時間後に急にびっくりして怖がる様子で叫びだして外に走り出そうとしたり、台所に隠れようとする異常行動が発現し、緊急外来にて経過観察。その後、異常行動は回復。	異常-48	
58	B-05025721	男性	7歳	102mg		異常行動	回復	A型インフルエンザ治療のため本剤服用開始(39.5℃)。初回服用5時間後トイレに起きた時に異常行動(トイレに起き部屋で排尿、階段を昇ったり降りたり、突然笑ったり)発現し、約1時間続いた。その後本剤2回目服用するが異常行動は認められていない。翌朝解熱し本剤服用中止。いつもよりボーっとし寝てばかりいるため、夕方経過観察のため入院。点滴後元氣が出てきてインフルエンザ軽快、異常行動軽快。翌日、全身状態良好にて退院。	異常-49	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
 （販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No.	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No.	備考
59	B-05025722	男性	7歳	160.2mg	セフジニル 塩酸シプロヘプタジン 解熱剤(不明)	異常行動	軽快	インフルエンザ治療のためリン酸オセルタミビル服用開始(40°C)。併用薬と本剤初回服用1時間後異常行動発現(急に立ち上がりケタケタ笑う、トイレにこもり大きな音をたてる)後、一旦入眠。異常行動発現1時間後、話しかけに無反応、目線があわない等あり。夜中受診し入院となる(39.4°C)。入院時意識清明、異常言動なし。入院翌日以降異常言動なし。脳波、左後頭部に徐脈。MRI左側頭葉に高信号。入院5日後異常言動軽快退院。	異常-50	
60	B-06025421	男性	7歳	51mg	アセトアミノフェン	異常行動	回復	2年前にも本剤服用しているが、問題なし。インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル処方。本剤服用2時間半後、異常行動(突然立ち上がり、22階から1階に走って降りてきて部屋の中を走り回ったなど)発現。入院後、水分補給の目的で点滴実施、ザナミビル水和物を処方したところ、解熱。翌日、回復退院。	異常-51	
61	B-07002051	男性	7歳	120 mg	クエン酸モサブリド ヒベンズ酸チベピジン 塩酸シプロヘプタジン 塩酸アンブロキシール アセトアミノフェン	異常行動	軽快	インフルエンザA型の診断にて、リン酸オセルタミビル処方。同日昼前、服用し、4時間後、ベッド上で暴れ、奇声をあげる。母が抑制し、10分程度で暴れなくなった。同日夕方、再診し、診察上言動やや不安定だが指示には従う。名前、年齢は答えられるが、「どこにきているか」の問いかけには「わからない」と答えるといった軽度の失見当識を認めた。神経学的異常所見を認めず(meningeal signs(-))。同日夜間、最高40°Cまで発熱するもせん妄、異常行動認めず、入眠した。翌朝、体温37°C台まで解熱。易疲労訴えあるが、その他、異常は認めなかったとのこと。	異常-52	
62	B-07002056	男性	7歳	75 mg		異常行動	回復	38.2°Cの発熱。翌日、リン酸オセルタミビル処方。同日夜、本剤服用。翌深夜(服用6時間後)、起きだし、2階の階段を下りようとし、その際母親を跳ね飛ばし、母親が階段から落ち、骨折。異常行動発現。その後、父親に抱きつき、眠った。服用開始3日目、熱も下がり、普通に戻った。異常行動回復。	異常-53	
63	B-07002858	男性	7歳	120mg		異常行動	軽快	夕方、リン酸オセルタミビル服用。服用後、嘔吐発現。深夜、本剤服用。服用後、ばたばた暴れだし、大きな声を上げながら部屋から飛び出す行動といった異常行動発現。投与開始2日目、朝、服用後、頭痛、異常行動あり。	異常-54	
64	B-07011933	男性	7歳	88 mg	セラベプターゼ カルボシステイン 塩酸プロムヘキシン	異常行動	回復	インフルエンザA型の診断にて、リン酸オセルタミビル処方。服用30分後、興奮、大声を出す。夜、本剤2回目服用30分後、興奮、大声を出す。目つきがおかしく、動き回る。2階の部屋で階段へ突っ走るのを家族が抱きとめて制止。	異常-55	
65	B-07012130	男性	7歳	66mg	ソニサミド セフジニル アセトアミノフェン トラネキサム酸 カルボシステイン ヒベンズ酸チベピジン ソプロテロール 塩酸シプロヘプタジン	意識消失	回復	インフルエンザA型の診断にて、リン酸オセルタミビル処方。服用4日目、昼、外に飛び出しそうになった。興奮状態でバタバタとした。事象発現から2時間後、2、3分間の意識消失発作。夜、2、3分間の意識消失発作。頭痛がしてボーっとした。頭痛は続いた。興奮して眠れない状態になった。	異常-56	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
 （販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No	備考
66	B-07013248	女性	7歳	不明		異常行動	回復	インフルエンザに対して、リン酸オセルタミビル服用開始。本剤服用数時間後にベランダの方へ歩き出し、親が、取り押さえ大事に至らず。左右もわからない状況で、訳のわからないことも言っていたとのこと。	異常-57	
67	B-07013301	男性	7歳	88 mg	フマル酸ケトチフェン テオフィリン クロモグリク酸ナトリウム カルボシステイン ヒベンズ酸チベピジン トラネキサム酸 塩酸シプロヘプタジン ツロブテロール	異常行動	回復	A型インフルエンザに対して、リン酸オセルタミビル服用開始。服用2日目、睡眠中、ムクツと起きて2階に駆け上がった。姉につれられて泣きながら下りてきて、すぐに寝た。本剤中止。	異常-58	
68	B-07013303	女性	7歳	81 mg	ヒベンズ酸チベピジン 塩酸アンブロキシソール 塩酸ツロブテロール	異常行動	回復	インフルエンザA型の診断にてリン酸オセルタミビル処方。本剤服用4時間後、体温は37.6℃、いつもより落ち着きがない感じであった。服用2日目、朝、本剤服用2時間後、布団でテレビを見ていて、すごいスピードで突然1階と2階を何度も昇り降りし、理解できない独り言を喋っていた。ついには、外へ飛び出そうとして、家人が取り押さえ、事なきを得た。この時の記憶は残っていない。 事象発現4時間後、症状回復。	異常-59	
69	B-07013309	女性	7歳	80 mg	アセトアミノフェン	異常行動	回復	インフルエンザB型に対して、リン酸オセルタミビル服用開始。1回目服用1時間後、意識がおかしくなりベランダへでいこうとした。 鍵がかかかっていて本人フラフラしてあけられなかった。同日症状回復。	異常-60	
70	B-07013377	女性	7歳	不明		異常行動	回復	リン酸オセルタミビル服用開始。服用2日目、布団で寝ていたが、急に起き上がりベランダに置いてあったテーブルの上に乗ってへらへら笑っていた。	異常-61	
71	B-07013384	男性	7歳	40 mg	フマル酸ケトチフェン トラニラスト プロピオン酸フルチカゾン	幻聴 幻覚 譫妄	回復 回復 回復	インフルエンザA型と診断。リン酸オセルタミビル服用開始。服用1時間後、精神症状（幻聴）、幻覚、せん妄発現。「こわい」「学校へ行く」等、不可解な発言と、突然立ち上がり、外へ出て行こうとする行動あり。本剤中止。 夜、受診時、特に問題をみとめず、解熱剤単用の処方を受け帰宅。服用2日目、再診。夜間も高熱持続し、少しおかしな発言はあったというが、来院時は消失していた。一方、鼻汁、喘鳴をみとめ、ツロブテロール、マレイン酸クロルフェニラミン、チベピジンヒベンズ酸塩を処方。以降受診なし。	異常-62	
72	B-07018715	男性	7歳	120 mg	アセトアミノフェン	異常行動	回復	38.3℃の発熱あり。インフルエンザA型と診断。以前、熱性痙攣を起こしたことがある。卵白アトピーが強いため、インフルエンザの予防接種は不可能。リン酸オセルタミビル処方され、朝、夕に服用。深夜、起き出しトイレに行くのかと母親は思ったが、玄関に向かっていき、その後ベランダに向かって走り出し、外に出ようとした。母親が捕まえたが、放してくれと叫び、蹴るなど暴れた。母親が泣いている姿をみて我に返ったように「どうしたの？」と言ったとのこと。母親がそのとき抱きしめていた感覚では熱はなかった様子。翌日、本剤は服用せず。	異常-63	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
 （販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No	備考
73	B-07023001	女性	7歳	84mg	アセトアミノフェン	夢遊症	回復	インフルエンザA型の診断にて、リン酸オセルタミビル処方。服用2日目、夜、横臥中、突然立ち上がり、部屋内を夢遊病のように歩き回った。	異常-64	
74	B-07023857	男性	7歳	48 mg	アセトアミノフェン カルボシステイン di-マレイン酸クロルフェニラミン	異常行動	回復	リン酸オセルタミビル服用後就寝。体温39.3℃。服用約1時間後、起きてトイレに行った。母親に怖い夢をみたと言っていた。トイレから帰って又、寝たがすぐに起き上がり、玄関を開けて外に出ようとした。あわてて母親が止めて又寝かせた。服用は1回のみであった。	異常-65	2008/4/1以降 追加報告
75	B-07026155	男性	7歳	42 mg	鎮咳配合剤(1) 非ピリン系感冒剤(3) カルボシステイン メクロプラミド	異常行動	回復	インフルエンザA型B型混合型治療のため、リン酸オセルタミビル処方。昼寝時、岩が落ちてくる、と言って覚醒する。夜、奇声をあげて走りまわる。服用2日目、朝、解熱。正常に戻る。奇声をあげて走りまわる。幻覚回復。	異常-67	
76	B-07028194	男性	7歳	60 mg	ヒベンズ酸チペピジン 塩酸シプロヘプタジン カルボシステイン アセトアミノフェン	譫妄	回復	インフルエンザAに対して、リン酸オセルタミビル、アセトアミノフェンを服用。譫妄発現。「わけのわからないこと」を言い、さらに数時間後「暴れたい」などと口走ったため1回だけの服用で全ての服薬を中止。 服薬中止2日後、同症状は3日間毎夜出現(昼間は異常なし)。 服薬中止4日後、横になると何回も起き上がり、「我慢できない。暴れたい」と口走り、部屋の中を小走りにつけ回った。「頭の中にダンベルが出てくる」ともいい、開眼していたが、目の前の母親ではなく違うところを見ていた。 服薬中止5日後、本人は「なぜかわからないが暴れなくなった」とのこと。	異常-68	
77	B-08000402	男性	7歳	99 mg	ヒベンズ酸チペピジン カルボシステイン	異常行動	回復	インフルエンザA型治療の為、リン酸オセルタミビル服用開始。 服用2日目、深夜、異常行動発現。母親が横に寝ていたにもかかわらず、急に起き上がり「お母さん」とさげんで走り出し、壁にぶつかって顔面を殴打した。しばらく泣いていたが、抱っこしてそのまま入眠。39.3℃の発熱あり。 睡眠中に「どうしてお母さんはそんなに大きいんだ」と怒りだした。母親が身体を丸くして(小さくしていたが、怒ったり泣いたり、立ち上がったりを15分くらい続け入眠。37.6℃ その後異常行動回復。インフルエンザの転帰は軽快・回復。		2008/4/1以降 新規報告

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
 （販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No	備考
78	B-08024158	男性	7歳	45 mg		異常行動	回復 回復	インフルエンザ治療のためリン酸オセルタミビル服用開始。 約9時間後、異常行動、幻覚発現。突然起きだし人を追い払うような動作とともに家中を逃げ回った。階段の昇り降りを数回繰り返し、母親が制止しても恐い恐いと叫んでいた。しばらく母が介抱したら、大人しくなって寝た。患者の記憶なし。 服用2日目、本剤投与。約6時間後、異常行動、幻覚発現。 「虫がいて怖い」と祖母に伝え泣いていた。家中を落ち着きなく歩き回っていた。祖母に介抱されておとなしくなった。患者の記憶あり。 その後他院に紹介され、脳症の疑いもあるとのことで副作用以外に入院も勧められたが、本人、患者家族の希望で入院は避け、自宅療養。本剤服用は以降中止。 本剤服用中止から3日目に来院し、インフルエンザ、異常行動、幻覚とも回復していたことを確認。		2008/4/1以降 新規報告
79	B-08027285	男性	7歳	100 mg	アセトアミノフェン	異常行動	回復	前日夜より40℃近い発熱があり、インフルエンザ迅速審査でA型陽性。3歳時リン酸オセルタミビル服用歴あり。異常なかったため本剤処方。 昼、に本剤1回服用し、ねていたが急に起き上がり机のまわりをぐるぐるまわる、コップわたすと水に手を入れる、ふとんの一点をみつめている等の行動発現。 翌日には回復。		2008/4/1以降 新規報告
80	B-08027730	男性	7歳	投与量 不明		異常行動	回復	インフルエンザA型に対しリン酸オセルタミビル服用。 2回服用後、異常行動発現。わけもなく物を探しまわる、トイレに行くと水のみ流す、便器に手を入れ何かとろうとする。（ただ、以前から発熱したりするとうなされたりフンの上のみで何かをさがそうとするような行動があった。ただ今回はこれまでと違う印象を強く受けた。		2008/4/1以降 新規報告
81	B-08028876	男性	7歳	投与量 不明		異常行動	不明	インフルエンザに罹患。夜、リン酸オセルタミビル服用開始。異常行動発現。 夜中に起き上がるなどが2～3回続いた。その他うわ言、手の振るえなど。 服用開始から4日目、昼、熱はさがったが、勝手に部屋から出て別の部屋にいった。トイレではないといい、隠れただけだとかなんか変なことを言っている。		2008/4/1以降 新規報告
82	B-07025434	男性	8歳	54 mg	アセトアミノフェン	異常行動	回復	インフルエンザA型治療のため、リン酸オセルタミビル服用。 患児が入眠したことを母が確認した。約30分後に屋外に立っているところを発見された。うつろな目でボーとしていた。尿失禁をしており、風呂場へ行ったところ「靴下のほつれが怖い、洗濯籠が怖い」と泣いた。シャワー浴後に就寝。 約2時間後、異常行動回復。	異常-66	2008/4/1以降 追加報告
83	B-02014446	女性	8歳	36mg	セフポドキシムプロキセチル トシル酸スルタミシリン ヒベンズ酸チベピジン カルボシステイン	高揚状態	回復	発熱により他院受診。セフポドキシムプロキセチルが処方。2日後、リン酸オセルタミビル他を夕方より服用開始。服用開始2日後、気分高揚症状発現。母親によるとほろ酔い状態であるとのこと。服用開始4日目の朝で服用中止、その後次第に気分高揚状態が軽快。服用後7日後に回復。	異常-69	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
 （販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No	備考
84	B-05000677	男性	8歳	84mg		意識変容 状態 異常行動	回復	前日來の発熱のため受診し、インフルエンザAと診断されリン酸オセルタミビルを投与。投与後2時間後に意味不明な発言、意識障害、行動異常が発現。近医を受診したが神経学的異常なく無処置で帰宅。その後再度服用すると、その後より急に起きあがり、歩き回り、幻覚も合併。救急外来を受診。異常運動を認め入院。輸液治療により7時間後に回復。	異常-70	
85	B-05001224	男性	8歳	110 mg	d-マレイン酸クロルフェニラミン パモ酸ヒドロキシジン	幻覚 落ち着きのな さ 異常行動	回復 回復 回復	インフルエンザA治療のためリン酸オセルタミビル投与。本剤服用後入眠しその3時間後、覚醒直後から幻覚などの異常行動出現。当日中に再度受診し、生食点滴にて症状回復。	異常-71	
86	B-05018854	男性	8歳	112mg	臭化水素酸デキストロメトラン カルボシステイン アセトアミノフェン	異常行動 (精神症 状(異常 行動))	回復	発熱有り受診し、A型インフルエンザと判断される。本剤投与後、仮眠しその1時間半後異常行動発現。突然起き上がり、玄関から飛び出していこうとした。1時間程で異常行動抑制され、次第に記憶回復。状態が過落ち着いたところで受診。頻脈、多呼吸、チアノーゼ等なく経過観察。翌日解熱し、その後も精神症状なし。	異常-72	
87	B-05021659	男性	8歳	102mg	カルボシステイン ヒベンズ酸チベピジン ソリタT-1(点滴) 酢酸維持液(ブドウ糖加)(点滴)	異常行動	回復	確認診断にて、本剤、アズベリン、ムコダイン処方。 本剤投与5時間後、異常行動(人形に話かける、部屋を歩き回る、意味なく笑い出す、九九を唱えるなど)発現。 救急車にて来院し入院となる。 入院時、意識ほぼ清明。 翌日、解熱する。 本剤投与し続けるも異常行動発現なし。処方全て服用する。	異常-73	
88	B-05022380	男性	8歳	60mg	ヒベンズ酸チベピジン 塩酸アンブロキシール 塩酸シプロヘプタジン アセトアミノフェン	異常行動	軽快	発熱、咳嗽にて本剤処方。 本剤、解熱剤服用後、異常行動発現(奇声をあげる、意味不明な事を言う、数が数えられない、自分の年齢がわからない)し、入院となる。 入院時、点滴のみで観察。異常言動なし。 翌日、自分で点滴除去、病棟内を一人でうろつく。 脳波異常所見あり、MRI異常所見なし。 3日後、異常言動軽快退院	異常-74	
89	B-05022780	男性	8歳	46.5mg	トラニキサム酸 メキタジン	異常行動 激越	回復	髄膜炎の既往歴あり。発熱のため、確定診断後本剤処方。体温39.6℃、2回目服用後、就寝するが、激越発現(急に大声でわめきながらおきる)。その後翌日正午まで、異常行動(異常な発言とともにベットや机、椅子の上に乗ってピョンピョン跳び上がる。家中を歩き回る。)継続する。 起床するが、覚えていなく、ボーっとしている。本剤の服用中止する。その後2日間は16~18時間の睡眠をする	異常-75	
90	B-05023443	男性	8歳	93 mg	ヒベンズ酸チベピジン 塩酸プロムヘキシ ン 塩酸シプロヘプタジン	異常行動	回復	発熱(39.5℃)、インフルエンザA型、咳、鼻症状にてアズベリン、ピソルボン、ペリアクチン、本剤を処方。 本剤服用後、精神神経症状(二段ベットの段で手を広げて立ち上がる、ベットから降りてベランダへ走って行き手すりにつかまって飛び動作等)、尿失禁発現。 翌日、投与中止し、精神神経症状、尿失禁回復	異常-76	
91	B-05025720	男性	8歳	不明	解熱剤(不明)	異常行動	軽快	A型インフルエンザ治療のため本剤服用開始。2回目本剤と解熱剤服用30分後に異常言動(にたにた笑う、両手で何かを掴もうとする)発現。救急車にて入院。夜間異常言動あり(ベッド欄を乗り越えようとする、意味不明な言葉を発する)。翌朝意識清明で、脳波、MRIに異常所見なし。入院3日目に異常言	異常-77	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
（販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No	備考
92	B-05026722	女性	8歳	54mg	ヒベンズ酸チペピジン カルボシステイン アセトアミノフェン	精神症状	回復	A型インフルエンザで発熱(39.8℃)が見られ、リン酸オセルタミビル服用を開始。投与開始日の夜に40℃の発熱とともに奇声をあげて起き上がり、室内を歩き回る中枢神経症状が発現した。この後リン酸オセルタミビルの服用を中止した。投与開始から2日目の昼も同様の症状がみられた(体温37.5℃前後)。投与開始から3日目は中枢神経症状がみられていない(体温39.5℃)。その後、投与開始から5日目に中枢神経症状が回復した。	異常-78	
93	B-07000086	女性	8歳	120mg	ヒベンズ酸チペピジン フルマシクレマステン アセトアミノフェン	異常行動	回復	インフルエンザB型治療のため、リン酸オセルタミビル服用開始。服用2時間後、異常行動発現。急に起き上がり「トイレ、トイレ」とさげび部屋を走り回るためおさえる。5～6分続く。翌朝、服用後、寝たままわけのわからないことを言うので、様子を見ると「さわるな」と言ってあばれる。5～6分続く。その後も服用は続けたが異常行動の発現なし。	異常-79	
94	B-07000288	男性	8歳	42 mg	クラリスロマイシン	異常行動	回復	インフルエンザA治療のため、リン酸オセルタミビル処方。本剤服用5～6時間後、部屋を意味も無くうろろする。急に水遊びをしだす。その後、布団が重たいと言出し、突然2階に駆け上がり、父親の枕を取り上げた。その後、1階に駆け下り、父親が取り押さえた。熱は38.5度。3回目から服用せず。解熱剤の併用もなし。夜間のエピソードの記憶はなかった。	異常-80	
95	B-07001354	女性	8歳	60 mg	カルボシステイン 塩酸アンプロキシオール	異常行動	回復	インフルエンザA型治療のため、リン酸オセルタミビル投与開始。服用開始2日目、酸素マスクをはずして、点滴のラインとカチャカチャぶつけていた。声を掛けると我に返った。ベッドの上に立ち上がった。声をかけても反応無し。手をベッドにつける。服用開始から6日目、異常行動回復。	異常-81	
96	B-07003582	女性	8歳	90 mg	カルボシステイン リン酸ジメモルファン 塩酸シプロヘプタジン	異常行動	回復	インフルエンザA型の診断にてリン酸オセルタミビル処方。1回目服用1時間後、突然2階に走っていき、部屋をウロウロする。翌朝までずっとウトウトしていた。夜、2回目服用。夜間、犬を呼ぶ動作、物を食べる動作、家の中を徘徊、手を何回も洗う、尿失禁等がみられた。翌朝、40℃の発熱。朝からボーッとしており、呼びかけへの反応も乏しい状態が続くため、受診。精査加療目的に入院。脳波上、全般性の徐波を認め、MRI所見なし。髄液所見なし。脳症の可能性を考え、メチルプレドニゾン投与を施行。翌日、意識清明となり経過良好。	異常-82	
97	B-07013003	男性	8歳	150mg	シメトリド・無水カフェイン ヒベンズ酸チペピジン dl-塩酸メチルエフェドリン	異常行動	回復	A型インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル処方。夕方、本剤服用後、異常行動が発現(ベッドからとびおる。廊下を走りまわる。大声でわらう。意味不明の事を言う)。体温は40.2℃。服用2日目、本剤服用。体温は37.4℃。異常行動回復。	異常-83	
98	B-07013253	男性	8歳	84 mg	アセトアミノフェン	異常行動	回復	A型インフルエンザの診断にて、リン酸オセルタミビル服用開始。服用開始から3日目、内服後、2階の部屋より階段へ飛び出す異常行動が発現。特別な処置はなし。本剤中止。服用開始から5日目、熱が37.2℃。その後、異常行動は回復。	異常-84	
99	B-07013258	男性	8歳	120 mg		異常行動	回復	夜間、40℃の発熱があり、A型インフルエンザと診断され、リン酸オセルタミビル処方。1回服用後、嘔吐。服用2日目、2回服用後5～10分の間、騒ぐ。その後、ベランダへ出て行った(マンションの10階)。母親が部屋に連れ戻した後、続いてトイレへ駆け込み、大声を上げる。本人は一連の記憶なし。その後、寝かしつけ、異常行動は回復。	異常-85	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
（販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No	備考
100	B-07013304	男性	8歳	100 mg		意識レベルの低下	回復	リン酸オセルタミビル服用開始。同日、意識混濁が発現。自宅の外に出るが、その後、意識混濁は回復。	異常-86	
101	B-07013310	女性	8歳	45 mg		異常行動	回復	リン酸オセルタミビル1回目服用約2時間後、理由も無く外に飛び出そうとする。異常言動発現。家族が止め大事には至らなかった。服用3日目、異常言動回復。発熱もなくなったため、本剤中止。	異常-87	
102	B-07013385	女性	8歳	99mg	アセトアミノフェン 酒石酸アリメマジン ヒベンズ酸チベピジン 塩酸アンプロキソール	異常行動	回復	朝より38.0℃の発熱あり、検査にてインフルエンザA型と判定し、リン酸オセルタミビル等処方。服用2日目、昼、寝ていた子供が急に大声を出して親に命令口調でしゃべりだし、走り出して暴れた。5分後位でおさまり本人はまた寝ていた。事象発現から30分後に異常行動は回復。その後、そのことについて本人に聞くもまったく覚えていない。約2週間後、昼、発熱。夜中には39.5℃まで上昇。突然わけのわからない事を大声で叫び、走り出し、兄に襲いかかった。また何かが見えると幻覚症状を訴える。身体を震わせて混乱した様子だった。翌日、受診し、インフルエンザB型と判定。前回と同じ薬を母親が希望。本剤服用いかんにかかわらず、同様の症状出現。	異常-88	
103	B-07013400	男性	8歳	90 mg	クラリスロマイシン メキタジン カルボシステイン	異常行動	回復	インフルエンザB型治療のため、リン酸オセルタミビル服用開始。服用3日目、夜、38.4℃の発熱があり、入眠。服用4時間後、深夜、ぶつぶつとつぶやきながら歩き回っていた。引き戸のロックを外してベランダを出ようとしていたので、母が声をかけると止まった。次第に落ち着いて2時間後には入眠。異常行動回復。服用4日目、朝、起床時は異常なし。	異常-89	
104	B-07020496	女性	8歳	90mg	カルボシステイン ヒベンズ酸チベピジン d-マレイン酸クロルフェニラミン	異常行動	回復	午後、39℃の発熱、鼻汁、咳等の症状にて来院し、インフルエンザキットにてA型インフルエンザと診断。リン酸オセルタミビル処方。夕方、1回目服用。その後寝ていた。服用5時間後、睡眠中に突然起き上がり、部屋のドアを開け「パパおかえり」と言った。服用8時間後、ふとんから起き上がり、ニヤニヤしていたため、母親が「大丈夫？」と声をかけたら「うん」と言った。翌朝、いつも通りで、体温37.1℃。特に変化なし。	異常-90	
105	B-07020966	女性	8歳	38 mg	クラリスロマイシン 耐性乳酸菌製剤(3) ヒベンズ酸チベピジン カルボシステイン フマル酸ケトチフェン ツロプテロール アセトアミノフェン	異常行動	回復	インフルエンザ罹患児と接触あり。その後発熱し来院。来院時、咳がみられ、訳の分からないことを言っていた。リン酸オセルタミビル等処方。寝たり起きたりといった異常言動あり。同日晩、リン酸オセルタミビル服用。服用4時間後、走り出す、逃げるなどの異常行動発現。親が押さえてとめられた。	異常-91	2008/4/1以降追加報告
106	B-07021970	女性	8歳	52.5mg	塩化リゾチーム カルボシステイン	異常行動	回復	姉がインフルエンザA型加療中のところ、起床時37.6℃発熱ありとのことで、迅速検査で陰性だったが、臨床所見よりインフルエンザを疑いリン酸オセルタミビル処方。終日発熱は37℃台で、本剤服用させなかったとのこと。併用薬は服用。翌日、起床時、40℃にて本剤服用。その後入眠し、1時間後、「姉が暴れて寝られない」と泣きながら自室より出てくる（姉は登校後）。家人が落ち着くよう諭し、すぐ落ち着く。電話連絡あり、本剤の服用中止を指示。	異常-92	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
 （販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No	備考
107	B-07023327	女性	8歳	78 mg	アセトアミノフェン	異常行動	回復	インフルエンザA型と判定され、リン酸オセルタミビル処方。帰宅後本剤服用し、2階にて就寝(昼寝)をしていたが、母親が気がついたときには1階をうろろしていた(急に2階から1階に降りた)。母親がどうしてうろろしているのか子供に尋ねると我に返ったようで、1階に降りた記憶が無いとの事。この時点では本剤服用中止せず。寝ているときも寝言が多く天井に向かい両手を盛んに動かすといった異常行動発現。 服用2日目、就寝中寝言や、手を払いのける行動あり。再診時は異常な様子は見られなかった。 服用4日目、異常行動回復。	異常-114	2008/4/1以降追加報告
108	B-08004441	男性	8歳	80 mg		異常行動	回復	インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル服用開始。 深夜、突然起き上がり、意味不明の言動あり。枕に頭をぶつけたりしていた。更に夜中に起き上がり、1人でどこかに行こうとしていた。母が気がつき布団の中に入れてたらずぐに眠った。 服用2日目、本剤服用したが異常行動は見られず、回復と判断。		2008/4/1以降新規報告
109	B-08024887	女性	8歳	90 mg		異常行動	回復	高熱により来院。検査の結果はインフルエンザ陰性。抗生剤を処方するも高熱下がらないため、翌日再来院。検査結果、インフルエンザ陽性。インフルエンザA型治療のためリン酸オセルタミビル服用開始。 翌日、異常行動発現。昼に本剤を服用後に寝ていた患者がふらふらと立ち上がり部屋の外に出たところを患者の弟が発見。母親に連絡しベッドに連れ戻す。寝かした後は特別なことはない。特に叫んだりといった行動は伴わなかった。 本剤服用終了から2日目、来院時に以上の報告があった。		2008/4/1以降新規報告
110	B-08027726	男性	8歳	100 mg	アセトアミノフェン	異常行動	回復	インフルエンザ治療のためリン酸オセルタミビル服用開始。 服用2日目、昼、異常行動発現。昼頃より室内をうろろし始め、「人がいる」「ぞうきんでふいてふいて」などの異常言動、幻覚があり、体温計でふとんをたたいたり、電気コードをぐるぐると手にまきつけたりした。 夜半には異常行動の転帰回復。		2008/4/1以降新規報告
111	B-08027896	女性	8歳	48 mg		異常行動	回復	朝、リン酸オセルタミビル1回目服用。 服用約5時間後、異常行動発現。昼寝をしていて突然目をさまし少し笑って「今日は何日だっけ?」と言ってとなりこいた弟をみて、恐がって骨があると泣く。その後かけ出してリビングルームに行き、幼稚園がどうのこうのと意味不明のことを言い、目つきがおかしかった(三白眼様)。その後物をつかむような動作を反復し、何をしているのかと聞くと、本人は骨を拾っていると言って「何でそんなこと聞くの?」と泣いた。その後泣き止んでソファーに坐りいつとも変わらない様子になった。この間2~3分の経過とのこと。		2008/4/1以降新規報告
112	B-08029997	男性	8歳	投与量不明		異常行動	回復	インフルエンザA型と診断され、昼、リン酸オセルタミビル服用。 服用1時間後、異常行動発現。熱が39℃の状態、怖いとうわごとを言い、急に笑いだした。 夜、本剤服用。 服用2日目、朝方4時に突然におきだし階段を降りようとし、抑えて落ち着いた。大声で笑ったり、興奮状態になった。 朝、本剤服用。その後、異常行動はおこらなかった。		2008/4/1以降新規報告

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
 （販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No	備考
113	B-02002847	男性	9歳	75mg	アスピリン ワルファリンカリウム ジピリダモール カルボシステイン リン酸ジメモルファン	譫妄	回復	B型インフルエンザ確定診断後、リン酸オセルタミビル75mg/日を投与開始。投与1回目の1時間後に意味不明の発語及び行動が観察される。有害事象発現3時間後に回復、有害事象発現時の記憶なし。以後本剤の服用中止。	異常-93	
114	B-03005859	男性	9歳	150mg	塩酸セフカペンピボキシル セラペプターゼ フェジノ酸クロベラスチン	無感情 異常行動 意識レベルの低下	回復	微熱が持続していたため、臨床的にインフルエンザと診断、リン酸オセルタミビル投与開始。本剤投与2日後返答しない、活動性低下の変化を認め、本剤投与中止。中止後、翌日、翌々日と突然意味不明の発言や行動が見られる。その後、徐々に活気改善し異常行動認められず。	異常-94	
115	B-05000151	男性	9歳	不明	セフテラムピボキシル 酪酸菌製剤 カルボシステイン	幻覚 落ち着きのなさ	回復	B型インフルエンザ治療のため、投与量不明のリン酸オセルタミビルを投与開始。2回目投与の2時間後、異常な発言、歩き回る状態が見られ、パニック状態となる。有害事象発現3時間半後に救急受診したときには意識清明、回復、本剤投与中止。その後は有害事象発現せず。	異常-95	
116	B-05021185	女性	9歳	84mg	カルボシステイン 塩酸シプロヘプタジン ヒベンズ酸チペピジン アセトアミノフェン	譫妄(せん妄状態)	回復	発熱(40℃)インフルエンザA診断確定後リン酸オセルタミビル投与開始。朝夕服用後入眠、2時間後覚醒し譫妄発現(部屋の中を走り回る。)(本人は覚えていない。)譫妄状態持続時間30分、一旦入眠するが2時間後に再発30分で回復。発現中は発熱なし。翌朝40℃発熱、入院し輸液により解熱。その3日後退院。	異常-96	
117	B-05024835	男性	9歳	50 mg	アセトアミノフェン	譫妄	回復	A型インフルエンザで発熱(39.2℃)が見られ、リン酸オセルタミビルを服用した。服用開始から約2時間後にせん妄(突然起きあがる。走り出しそうな感じがあり、押さえつける、会話不成立、手足をばたばたさせるなど)を発現し、投与中止後もせん妄が数回見られた。せん妄は事象発現から6日目に回復し	異常-97	
118	B-05024837	男性	9歳	99mg		幻覚	回復	A型インフルエンザで発熱(38.8℃)が見られ、リン酸オセルタミビルを服用した。服用開始から約1時間後に幻覚等(玄関から外出するなど)が発現し、その後幻覚の症状は回復した。投与開始から約10時間半後にリン酸オセルタミビルを服用したところ、その約1時間後に幻覚が発現し、幻覚は約5分程度で消失した。	異常-98	
119	B-05025584	女性	9歳	54mg		異常行動	回復	A型インフルエンザにてリン酸オセルタミビル服用開始(39.1℃)。昼前1回目服用約4時間後に異常行動(部屋の中を急にウロウロ歩き回る)発現。その後、安静にて就眠。同日再診し溶連菌+を確認、本剤中止、水分補給、安静を指示。翌午前異常行動回復、インフルエンザも回復。	異常-99	
120	B-06025100	男性	9歳	30 mg		異常行動	回復	39℃の発熱、頭痛あり、夜、インフルエンザ陽性のため、リン酸オセルタミビル処方。深夜、起き上がろうとしたり、意味不明な話をしてくるといった入眠中の異常行動発現。本人は覚えていない。その後、本剤服用せず。救急外来受診し、入院。ザナミビル服用し、特に問題なし。	異常-100	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
 （販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No.	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No.	備考
121	B-0700097	男性	9歳	75 mg	カルボシステイン	幻覚	回復	リン酸オセルタミビル服用開始。2回目服用後、深夜、幻覚が発現し、10数回、起き上がり逃げ回った。翌朝、投与中止。翌々日、幻覚は軽快。	異常-101	
122	B-07000198	男性	9歳	60 mg	アセトアミノフェン	譫妄	軽快	38.8℃の発熱があり、午後8時30分、リン酸オセルタミビルを内服し就寝。その後突然覚醒し異常な発言、再び入院したが次に目を覚ましたとき「行かないや」と言って玄関に向かって行った。約30分後、せん妄状態発現。深夜0:00、救急車を要請し、救急車が到着した頃はほぼ普通にもどっていた。37.3℃。0:25、来院。来院時意識清明。せん妄状態軽快。	異常-102	
123	B-07000262	女性	9歳	42.6mg	クラリスロマイシン フマル酸ケチチフェン ヒベンズ酸チベピジン	異常行動	回復	インフルエンザB型と診断。リン酸オセルタミビル服用後、睡眠。その30分後ベランダに向かって走り出したため、トイレに隔離したところ叫び声をあげていた。	異常-103	
124	B-07012129	男性	9歳	150 mg	アセトアミノフェン 鎮咳配合剤(1) 非ピリン系感冒剤(4) メフェナム酸	異常行動 幻視	回復 回復	インフルエンザA型の診断にて、リン酸オセルタミビル処方。服用2日目、朝、突然ワーと発声しながら部屋の中を走り回る。包丁を持った男の人が追いかけてくるという幻視。意識清明で、この時の記憶あり。事象発現から4時間後、家族が買い物から戻ると、庭の隅でかがんでいる。上記と同様の幻視で隠れていたとのこと。1回目事象発現から6時間後、緊急入院（本剤服用中止）。その後、幻視、異常行動はなし。	異常-104	
125	B-07013252	男性	9歳	不明		異常行動	回復	リン酸オセルタミビル服用開始。服用約3時間後に、窓を開け飛び出そうとした。家人がとめたので事なきを得た。患者に「どうしたの？」と聞くと、「魚釣りに行く」と答えた。服用開始2日目、異常行動は回復。本剤は服用4日目まで投与継続。この間、異常行動は認められなかった。	異常-105	
126	B-07013257	女性	9歳	42.45mg	塩酸アンブロキシソール カルボシステイン アセトアミノフェン ヒベンズ酸チベピジン 塩酸シプロヘプタジン	異常行動	回復	インフルエンザに対して、リン酸オセルタミビル服用。服用後、寝ていたが30分ほどして起きて外へ飛び出そうとした。一旦落ち着いたが、再びパジャマをビリビリに破るくらい暴れたため、病院へ搬送。その後回復。	異常-106	
127	B-07013259	女性	9歳	93 mg	ヒベンズ酸チベピジン d-マレイン酸クロルフェニラミン ラクトミン 鎮咳配合剤(1) 塩酸ツロプテロール カルボシステイン	激越	回復	インフルエンザA型の診断で、リン酸オセルタミビル処方。夕方、本剤2回目服用後、横になってテレビを見ていたが、服用約1時間後、「怖い」と言って部屋を飛び出し、父親がやっと抑えることができた。その後も本剤服用を継続するも問題なし。	異常-107	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
 （販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No	備考
128	B-07013313	男性	9歳	75 mg	アセトアミノフェン ノルフロキサシン	異常行動	回復	倦怠感、38.6℃の発熱。インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル服用開始。就寝1時間後、突然に暑い暑いと騒いで窓を開けて雪の降る外に飛び出した。母親が帰るように言っても、なかなか帰って来ず外でぼーっとしていた。母親は「寒いから窓を閉めるよ」と言ったら、とぼとぼ帰ってきた。しばらくして就寝した。 服用2日目、朝、前夜の記憶なし。	異常-108	
129	B-07013329	女性	9歳	90 mg	レバミピド ドンペリドン	異常行動	回復	キットを実施したが陰性、臨床診断(39℃の発熱)で、インフルエンザと判断し、リン酸オセルタミビル処方。 朝夜、本剤服用し、就寝後、急に目を開いて立ち上がる。「ここにはいられない、外に行かなきゃ」と言って玄関から外に出ようとしたが母親が抱きかかえて止め、再び寝た。事象発現1~2時間後、また起き上がり「学校に行かなきゃ」と言って窓のカーテンを開けた。再び母親が抱きかかえ止め、そして寝た。更に1時間後、再び起き上がり「学校に行く」と言って起き上がった。体温は38.5℃。翌朝、母親の判断で本剤中止。異常行動回復。	異常-109	
130	B-07013330	男性	9歳	30 mg		異常行動	回復	インフルエンザA型治療のため、リン酸オセルタミビル投与開始。深夜、突然一人で起きだして、玄関から外に出て、1メートル以上の柵を乗り越えて外に走り出した。 その後、異常行動は回復。本人は全く覚えていない。	異常-110	
131	B-07013375	男性	9歳	75 mg	アセトアミノフェン リン酸ジメメルファン チアミン・ニコチン酸アミド配合剤	記憶障害 異常行動	回復 回復	インフルエンザA型診断、リン酸オセルタミビル処方。夕方、本剤1回目服用数時間後、自宅庭を徘徊しているのを家族が見つかる。夜間、奇声を発する。本剤は1回のみ服用し、その後は中止。服用2日目、回復。前日夕方よりの行動について記憶がなかったとのこと。	異常-111	
132	B-07013396	女性	9歳	108 mg	メクロブラミド クラリスロマイシン ペミロラストカリウム カルボシステイン 開始液(1) リン酸ジメメルファン メクロブラミド アセトアミノフェン	異常行動	回復	インフルエンザA型治療のため、リン酸オセルタミビル服用開始。1回目服用約2時間後、目つきが変わって、しきりに外に出ようしたり、何か訳のわからないことを言ったりした。多量の発汗があった。服用2日目、異常行動回復。 服用5日目、残りの本剤をすべて服用するも同様の症状の出現なし。	異常-112	
133	B-07015225	男性	9歳	150 mg		睡眠時驚愕	回復	インフルエンザB型治療のため、リン酸オセルタミビル服用開始。服用2日目、早朝、起床時、突然意味不明の事を叫び出し、階下より3Fまで走って上り、悪夢に怯えるような状態が30分~1時間持続。この時発汗や顔面紅潮を伴っていた。この時の事を本人は記憶していない。本剤中止。 服用中止4日後、夕方から眠っていたところ、衝動的に覚醒、まとまりない言辞あり。服用中止7日後、8日後、12日後、13日後、15日後、16日後、18日後、27日後に同様のエピソードが短時間あり。	異常-113	
134	B-07023858	女性	9歳	138 mg	ヒベンズ酸チベピジン dl-塩酸メチルエフェドリン アセトアミノフェン	異常行動 異常行動	回復 回復	インフルエンザA型治療のため、リン酸オセルタミビル服用開始。発熱40℃。同日夜、就寝中急に起き上がり、部屋の中をぐるぐる回ったり、意味不明なことをぶつぶつ言ったりしていた。発熱40℃。事象発現5分後、症状回復。服用2日目、朝本剤服用。発熱39℃。夕方、再度徘徊、一人言などあり。すぐに症状回復。前日と同様であったが、持続が短かった。その後、本剤服用するもはおかしな行動は見られない。	異常-115	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
 （販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No.	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No.	備考
135	B-07026154	男性	9歳	57 mg	ヒベンズ酸チベピジン カルボシステイン 臭化水素酸デキストロメトルファン アセトアミノフェン	異常行動	回復	インフルエンザA型の診断にて、リン酸オセルタミビル服用し、就寝。 服用3時間後、突然異様な目つきで階段を駆け上がった。親が取り押さえて眠りについた。その後 異常行動回復。	異常-116	2008/4/1以降追加報告
136	B-08001747	男性	9歳	102 mg	セフジニル ピフィス菌製剤(4) 塩酸アンプロキシソール	異常行動	回復	インフルエンザA型およびB型同時感染のため、リン酸オセルタミビル服用。 体温は38.0℃。他併用薬服用。 服用2日目、体温37.8℃。朝、本剤、他併用薬服用。夜、本剤、他併用薬服用後、患者本人が母親の寝床の枕のところで泣きながらあやまっているのを見て、弟が階下にいる母親に知らせに行つた。本人も一緒に階下に降りて、おびえて母親に抱きつき、あたりを見まわしたり、「こわいよ、ごめんなさい。死にたい」と不穏であったが、一旦横になっていた。深夜、起き上がり「トイレに行きたい」と言ったが、トイレに行かないでテレビの前に座って「うらぎられた、うらぎられた」とおびえて震えていた。死にたい、こわい等を言う。不穏状態を繰り返し、1時間くらい経って寝た。この間目つきが異常で力が強い。 以後本剤中止。異常行動回復。		2008/4/1以降新規報告
137	B-08011279	男性	9歳	55 mg	ヒベンズ酸チベピジン 塩酸アンプロキシソール ツロプテロール	異常行動	回復	インフルエンザA型と診断。発熱38.3℃。 リン酸オセルタミビル服用開始。 服用約3時間後、父親のことを「じいじ」と言ったり、自分の名前と父親の名前を間違えたり、「1+1=1」と答えたりした。その後部屋を出てトイレに行き、さかんに足をさすっていた。呼びかけに対して不正確な対応発現。 服用4時間後には異常行動回復。 服用2日目、リン酸オセルタミビル2回目服用。 当院受診するも神経学的異常は見られなかった。リン酸オセルタミビル服用中止。 本剤服用中止から2日目、インフルエンザ軽快。		2008/4/1以降新規報告
138	B-08028295	男性	9歳	33 mg	セフテラムピボキシル カルボシステイン 塩酸シプロヘプタジン 耐性乳酸菌製剤(3) アセトアミノフェン	異常行動	軽快	翌朝、本院受診。インフルエンザ確定診断実施し、その結果、インフルエンザA型。リン酸オセルタミビル、抗生物質等を処方。 本剤、抗生物質等を服用。 服用2時間後、異常行動発現。急に動きまわる。会話が合わない。数分で回復し、普通の会話をし入眠。再び目覚め同じような異常行動を3回繰り返す。 服用約5時間後、電話にて母親よりうったえがある。異常行動をくり返しているため、入院を勧める。 服用約6時間後、他院に入院。ザナミビル水和物をすぐ吸入。夜、再びザナミビル水和物吸入。 同日深夜、高熱40℃続き、ベッドの上で寝ていたが、急に起きあがり、変な手の動きをするなど、異常行動を数回繰り返すが、ベッドから下りて歩き回るようなことはなかった。 本剤服用終了から2日目、解熱、異常行動なし。ザナミビル水和物、抗生物質等は継続中。		2008/4/1以降新規報告
139	B-04008522	男性	10歳	75mg	ジプロフィリン・メキシフェナミン配 合剤 カルボシステイン アセトアミノフェン	意識変容 状態	不明	インフルエンザA型と診断、昼食後リン酸オセルタミビル75mg他を服用し、就寝。3時間後、意識障害をおこし、マンション6階のベランダから飛び降り、外傷等により搬送。以前に発熱時に本人の無意識下に歩き回る程度のことは認められたとの由。	異常-117	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
 （販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No	備考
140	B-05023468	男性	10歳	105mg		異常行動	軽快	発熱(38.7°C)、頭痛、咳にて本剤処方。本剤投与後、異常行動発現(異常な発言とともに布団を持ち上げた後、急に外に向かって走って出ていこうとした)し、入院。 入院後は異常言動出現なし。 翌日、解熱し、本剤投与中止。異常行動回復。	異常-118	
141	B-05024270	女性	10歳	114mg	アセトアミノフェン 臭化水素酸デキストロメトルファン 塩酸アンブロキシソール クラリスロマイシン	情動障害 退行行動	回復 回復	A型インフルエンザで発熱(39.2°C)が見られ、リン酸オセルタミビルの投与開始。初回投与開始から2~3日目に情緒障害と異常行動が発現。情緒障害と異常行動が約10日に回復した。 アセトアミノフェンはリン酸オセルタミビル投与開始1~2日間に併用されており、臭化水素酸デキストロメトルファン及び塩酸アンブロキシソールはリン酸オセルタミビル投与開始から4日間投与された。	異常-119	
142	B-05024606	男性	10歳	108 mg	ヒベンズ酸チペピジン 塩酸アンブロキシソール	異常行動	回復	A型インフルエンザで発熱(38.3°C)が見られ、リン酸オセルタミビルの服用を開始。投与開始当日の夜間に異常行動(「学校へ行く」と言い、ランドセルを背負って外出しようとする。)発現。また、投与開始から2日目の夜間にも異常行動(悪夢を見て怖いと言い、外出しようとする。)発現。投与開始2日まででリン酸オセルタミビルの服用を中止し、投与開始5日目に異常行動が回復した。	異常-120	
143	B-06010806	男性	10歳	114mg	鎮咳配合剤(1) カルボシステイン アセトアミノフェン	譫妄	回復	B型インフルエンザの治療のためリン酸オセルタミビルの服用を開始した。服用開始から1日目の夜にせん妄が発現し、翌日の朝に回復した。服用開始から2日目の夜にせん妄(起き出すなど)が発現し、翌日の朝に回復した。リン酸オセルタミビルは服用開始から6日目の朝まで服用したが、これ以外の症状は見られなかった。	異常-121	
144	B-07000166	女性	10歳	75 mg	リン酸ジメモルファン 塩酸シプロヘプタジン 塩化リゾチーム トラネキサム酸	異常行動	回復	インフルエンザA型にてリン酸オセルタミビル処方。服用2日目、朝本剤服用2時間後、体が熱い症状訴え、目を放した隙に一人で靴を履き玄関を出ようとしていたのに家族が気付き制止。本人は覚えていないとの事。その後、寝かした。服用から4時間後、睡眠より覚醒。意識清明。本剤中止。同日、異常行動回復。	異常-122	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
 （販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No	備考
145	B-07002856	男性	10歳	不明		異常行動	不明	リン酸オセルタミビル服用2時間後、寝ていたが、笑って起きだし廊下を走り出した。「どうしてかわからないが、笑いなくなったし、走りたくなった」と本人が説明。	異常-123	
146	B-07012021	男性	10歳	100 mg		譫妄 意識変容 状態	回復 回復	リン酸オセルタミビルを昼、夕に服用。夜中、トイレに起きたとき、興奮状態となり飛び出そうとした。両親の顔が分からなかった。翌日、意識清明となった。	異常-124	
147	B-07012054	男性	10歳	60 mg	ヒベンズ酸チベジジン カルボシステイン メキタジン	異常行動 異常行動	回復 回復	インフルエンザB型の診断にて、リン酸オセルタミビル処方。本剤服用後、保護者が不在であったが、最後に見たときは睡眠中。ボーッと寝ていて不安になり、怖い人がきたと思ってマンション7階のベランダから下をのぞき、その後、裸足で階下の友達の家に行き、保護。その1時間後、来院。来院時、体温 38.4℃、意識清明。夜、睡眠中起きだして、「外へ出たい」と言い、ベランダの方へ行き、カーテンを開けて出ようとした。家人が阻止すると、「星が見たい。弟が下にいる」と言って、玄関の方へ行って外へ出ようとする。20分くらいで落ち着いてきた。	異常-125	
148	B-07013136	男性	10歳	114 mg		異常行動	回復	インフルエンザに対して、リン酸オセルタミビル服用開始。昼・夜に服用。翌早朝、普段している眼鏡を階段において玄関から外に出ようとして、セコムが反応したため外に飛び出すことはなかった。	異常-126	
149	B-07013247	男性	10歳	75 mg	プレドニゾン 塩酸エブラジン セラペブターゼ 塩酸アンブロキソール クラリスロマイシン	異常行動	回復	入院にてリン酸オセルタミビル服用開始。服用2日目、朝、服用から15分後に突然病室から走り出しトイレに駆け込み失禁した（この時点では解熱していた）。本剤中止。その後は正常となり退院。	異常-127	
150	B-07013255	男性	10歳	120 mg	桂麻各半湯 ドンペリドン 黄耆連中湯	異常行動	回復	高熱のため受診。インフルエンザA型治療のため、リン酸オセルタミビル服用開始。夕、本剤服用後、一度睡眠に入るが、突然立ち上がり家の中を飛び跳ねる。外に出ようとしながら意味のわからないことを口走り、家人二人で外に出るのを止める。しばらくこの症状は続いたが、落ち着きをとり戻し、再び睡眠。服用2日目、熱はあるものの、前日のような異常な様子は認められない。	異常-128	
151	B-07013386	女性	10歳	不明		異常行動	回復	インフルエンザで来院、リン酸オセルタミビルを処方され、帰宅し服用。夕方、突然靴下を履き暴れて外に飛び出した。母親が押え付け、何事にもならなかった。同日、異常行動は回復。	異常-129	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）

（販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前公表No	備考
152	B-07021901	女性	10歳	150 mg		異常行動	回復	服用2日目、二段ベッドの上の段に寝ていたところ、急に起きてきてベランダに走ってきて、母に「リカちゃんがかげから落ちたんじゃないか、どうなったのか」と聞いた「リカちゃんは大丈夫だから」と話して納得させたが、その時のことを本人が覚えていない。夕食時、ベッドで寝ていた本人に食事を運んでいっていたところ、起きていたが訳の分からないはっきりしないことを言う。	異常-130	
153	B-07027206	男性	10歳	120 mg/kg	フマル酸クレマスチン 臭化水素酸デキストロメトルファン・ クレゾールスルホン酸カリウム カルボシステイン アセトアミノフェン	異常行動	回復	インフルエンザA型の診断にて、リン酸オセルタミビル処方。自宅にて1回目服用後、就寝。服用約3時間後、急に起き上がり、二階寝室から一階玄関まで走って行き、外へ走り出て行く。その際に「こんな家には住めない」と大声で叫んだりした（大きな岩が自分に向かって転がってくる幻覚があったとのこと）。事象発現約30分後、家族が静止し、その後就寝。1回目服用5時間30分後、2回目服用し、朝まで就寝。夜中に寝ぼけた状態があったが、朝には正常であった。服用2日目、本剤の服用は中止し、様子を見る。発熱あるも、異常行動はなし。	異常-131	
154	B-08027575	男性	10歳	52 mg	クラリスロマイシン フェンジ酸クロベラスチン 塩酸アンブロキシソール アセトアミノフェン	異常行動	回復	朝、咳嗽、37℃の発熱、倦怠感あったため、学校を休む。その後発熱なかったが、夕方に発熱したため病院へ行く。インフルエンザA型の診断を受け、リン酸オセルタミビル、抗生物質等を処方。夜、抗生物質等を服用。夜中に発熱するも、睡眠中のため本剤服用せず。翌朝アセトアミノフェンを服用。その3時間後に本剤服用し、入眠。服用約2時間後に異常行動、精神神経症状発現。突然おき、何も言わずトイレに行く（いつもはトイレに行くと言う）。便座に座って突ったり、意味不明のことを言う。便が出て水を流した頃に意識戻るもその間の記憶なし。その間15～20分であった。熱は高くなかった。当院に相談され、本剤中止し他の薬は継続。本剤服用中止から1日目、ザナミビル水和物を処方。症状発現は以後なかった。		2008/4/1以降 新規報告
155	B-05023595	男性	11歳	60mg	アセトアミノフェン ドンペリドン	異常行動 幻覚	回復	発熱、関節痛、悪寒、咳、咽頭発赤にて、確定診断後本剤、カロナール、ナウゼリン処方。本剤投与後、幻覚症状（怖がって逃げる）、異常行動（異常な発言をする、「怖い、怖い」と泣く）発現。1時間後、改善	異常-132	
156	B-05024102	男性	11歳	75 mg	カルボシステイン 塩酸ホモクロルシクリジン 臭化水素酸デキストロメトルファン アセトアミノフェン	異常行動	回復	A型インフルエンザで発熱(38.2℃)が見られたため、リン酸オセルタミビルが処方された。リン酸オセルタミビルを夕方に服用後、翌日の0時40分頃に異常行動が発現し、団地2Fのおどり場より転落した。脳挫傷、頭蓋骨折、両大腿骨骨折。	異常-133	
157	B-06024935	男性	11歳	72mg		異常行動	回復	妹に処方されたリン酸オセルタミビルを服用。同日夜、突然の発熱(40℃台)あり。本剤服用約10時間後の翌朝、突然起きて異常行動(徘徊、大声で叫ぶ)発現。訳の分からないことを叫び走り出したので、押さえ込む。しばらくした後、意識が戻る。インフルエンザA型と診断された。	異常-134	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
 （販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No	備考
158	B-06025190	男性	11歳	75 mg		異常行動 幻聴	回復 回復	高熱(39.4℃)で来院。インフルエンザA型に対して夜より本剤服用。 翌日の午後、異常行動、幻聴発現し、トイレの窓より飛び出し自宅のまわりを裸足で走り、川の中まで入った。 夜、服用中止。家族がつきそう。 2日目、受診し、脳症を疑ったが、解熱しており、意識状態正常と診断。 幻覚、異常行動、幻聴回復	異常-135	
159	B-06026130	男性	11歳	50 mg		異常行動 激越	回復 回復	インフルエンザB型。ウロウロ家の中を数回歩き回った。ウーと天井に向かって両手を突き上げ、手を握りしめた。その後ガラス戸を足で叩いて、ガラスを割ってしまった。左足を切って、外科で縫合した。翌日は全て元に戻った。	異常-136	
160	B-06026540	男性	11歳	150mg	メキタジン 塩酸エブラジノン カルボシステイン	異常行動	回復	リン酸オセルタミビル服用3回目に精神錯乱。母親が止めるにもかかわらず何度もドアを開けて外に出ようとした。精神・神経障害発現。熱が下がってからは何事もなかったように回復。	異常-137	
161	B-07000058	男性	11歳	75 mg	d-マレイン酸クロルフェニラミン ヒベンズ酸チペビジン カルボシステイン ラクタミン	異常行動	回復	2階へ急に上がって行き、飛び降りた。打撲程度。意識ははっきりしていた。	異常-138	
162	B-07000111	男性	11歳	150mg	リン酸ベンプロベリン メキタジン ラマトロバン	異常行動	回復	インフルエンザA型治療のため、リン酸オセルタミビル服用開始。服用開始2日目朝、体温:38.8℃。夜中、異常行動あり、布団に座って「キャッシュが卒業して」と言いながら泣いている。就寝。その後、異常行動なし。 服用開始3日目、インフルエンザ軽快。 服用開始5日目、朝、38℃の発熱、夕、39℃。来院時37.4℃。B型インフルエンザと診断し、本剤処方。夕方、本剤服用。同日、夜中、トイレにこもる、階段の昇り降りを繰り返すなどの異常行動、異常言動が発現。その後、異常行動回復。	異常-139	
163	B-07000121	女性	11歳	150 mg	カルボシステイン d-マレイン酸クロルフェニラミン 臭化水素酸デキストロメトルファン	異常行動	回復	早朝、39℃の発熱、鼻汁、咽頭痛、頭痛を認め、午前中来院し、A型インフルエンザと診断。同日、昼・夜、リン酸オセルタミビルを服用。服用2時間後、1階にいた家族の知らないうちに、2階より寝巻き裸足のまま家を出て、近くの家で保護されていた。落ちたのか飛び降りたのかは不明。本人は夢が怖くて窓のシャッターを開けベランダから外に出たといっているが、よく覚えていないとのこと。翌日は意識も清明で特に異常所見は認められなかった。	異常-140	
164	B-07000131	女性	11歳	65 mg	カルボシステイン 臭化水素酸デキストロメトルファン アセトアミノフェン クラリスロマイシン ヒベンズ酸チペビジン 塩酸アンプロキソール 塩酸シプロヘプタジン	異常行動 激越	回復 回復	インフルエンザB型と診断され、親の希望でリン酸オセルタミビル処方。朝から服用開始。翌日、異常興奮発現。解熱。服用3日目、気分高揚、妄想発現。自宅のソファの背もたれの上に立ち上がって、床に向かって顔から転落。口腔内から出血するなどした。受診後、帰宅途中でガードレールを越えて車に飛び込もうとしたため、ガードレール越しに祖母がつかまえたが、勢いがあり祖母が転倒して顔面打撲した。翌日、異常興奮、気分高揚、妄想回復。	異常-141	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）

（販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No.	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No.	備考
165	B-07000163	男性	11歳	100 mg	ヒベンズ酸チベピジン 塩酸レセルピリン酸ジメチルアミノエチル カルボシステイン 塩酸シプロヘパタジン	譫妄	回復	インフルエンザAと診断され、リン酸オセルタミビルを投与開始。同日昼、異常行動発現。本剤服用3時間後、2階に駆け上がり、黒いものに追いかたられ、イタイイタイと叫んだ。翌日、異常行動回復。投与4日後、本剤投与終了。	異常-142	
166	B-07000260	女性	11歳	不明		幻覚	回復	3年前からリン酸ピセリン投与中に幻覚がみられた（過去には夜に一人で外をふらつく）。本年、インフルエンザ発症。リン酸オセルタミビル投与開始。翌日、幻覚を見てドアにぶつかり額に裂傷を負う。	異常-143	
167	B-07000274	男性	11歳	100 mg	臭化水素酸デキストロトルファン 塩酸アンプロキソール	異常行動	回復	39℃の発熱、咽頭痛、咳あり。インフルエンザB型と診断され、リン酸オセルタミビル処方。本剤、臭化水素酸デキストロトルファン、塩酸アンプロキソールを内服。服用約1時間後、1階にて寝ていたが覚醒し、階段を半分まで上がり、母が駆けつけると驚き泣く。1階へ連れ戻すと玄関を指差し怯える。部屋へ連れてはいると騒ぐ。布団に入れたが体中に力を入れ唸る（約5分間）。急に立ち上がり胸を両手でおさえる。母が抱きしめていると落ち着き就寝。服用8時間後、本剤服用するものの、2/3は吐き出す。服用1時間後、目を覚まし、起き上がり、掃除機のホースに足を入れようとする。本人は夢でマンションから飛び降り、痛みはなく、起き上がり歩こうとした。掃除機に足を入れようとしているところで現実に戻ったが、自分の体を止めることができなく、その後、記憶がなくなったとのこと。	異常-144	
168	B-07003018	男性	11歳	52.5mg	トラネキサム酸 塩酸ツロブテロール フマル酸クレマスチン カルボシステイン アセトアミノフェン	異常行動	回復	発熱、咽頭痛、咳あり。インフルエンザB型と診断された。夕方、リン酸オセルタミビル服用。本剤服用1時間後、突然睡眠から覚醒し、立ち上がり「テスト」と言って階段を登って、2階に上がろうとした。制止して様子を見ると、ニヤリと笑った。その後家の中をふらふらとした。服用は1回で中止し、再び入眠。翌日、異常行動回復。本人に聞いたところ、昨日のことを覚えていなかった。	異常-145	
169	B-07003581	男性	11歳	64.005mg	モンテルカストナトリウム 塩酸クレンブテロール 塩酸アンプロキソール クロモグリク酸ナトリウム 塩酸プロカテロール リン酸ジメモルファン フマル酸クレマスチン	異常行動	回復	インフルエンザに対して、リン酸オセルタミビル服用。その後寝かせたが、1～2時間してから起きてきて友達の家遊びに行くと言出し、無理に外出しようとした。抑えて寝かせつけた。その後はニコニコと笑っていて手足がピクピクと動いていた。しばらくすると治まり、その後服用は中止。以後、異常行動はみられていない。本人も記憶にないとのこと。	異常-146	
170	B-07003786	男性	11歳	150 mg	塩酸セフカペンピボキシル リン酸ジメモルファン アセトアミノフェン 塩化リゾチーム	異常行動 幻覚	回復 回復	インフルエンザ確定診断実施し、B型と診断。リン酸オセルタミビル服用開始。2階で臥床していたが、大声を出し、階段を駆け下りてきた。その後、服用を続けていたが異常なし。	異常-147	
171	B-07011102	男性	11歳	不明		異常行動	不明	39℃の熱が続き、キットでは陰性だったが、医師の経験上の判断でインフルエンザと診断し、リン酸オセルタミビル処方。服用2日目、朝、本剤服用後、2階から1階へ突然走り出し、外へ飛び出ようとしたところを家族に制止された。その時顔は赤らんでいて、何も覚えていないとのこと。	異常-148	
172	B-07013215	女性	11歳	144mg	塩酸セフカペンピボキシル 塩酸トリプロリジン 桜皮エキス セネガ アセトアミノフェン	譫妄	軽快	体温は37.8℃。インフルエンザB型治療のため、リン酸オセルタミビル処方。本剤服用後、就寝1時間後（本剤服用7時間後）、突然起き階段を「怖い怖い」と言いながら走っておりてきた。15分～20分振っていた。服用2日目、朝、せん妄軽快。その後、服用3日目まで、本剤服用。	異常-149	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
 （販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No	備考
173	B-07013227	男性	11歳	150 mg	クラリスロマイシン 鎮咳配合剤(1) メキタジン カルボシステイン	激越 浮動性めまい	回復 回復	インフルエンザA型に対して、リン酸オセルタミビル服用。1回目服用後、すぐに嘔吐。母親の判断にて約6時間後に2回目服用。その後就寝。突然起き出し外に飛び出したところを家人におさえられる。2、3分にて本人が気付き状況確認すると、とても恐い夢をみたとのことだった。	異常-150	
174	B-07013315	男性	11歳	80 mg	カルボシステイン フマル酸ケチフェン 塩酸プロカテロール アセトアミノフェン	異常行動	回復	インフルエンザA型治療のため、リン酸オセルタミビル服用開始。服用約1時間後、急に走り出して外へ出て行こうとした。母親が制止したが、暫くボーとしていた。その後、異常行動回復。	異常-151	
175	B-07013316	男性	11歳	67.5mg		異常行動	回復	インフルエンザA型に対して、リン酸オセルタミビル服用。服用2日目、午後、昼寝の最中突然起き上がり、玄関に向かって走り出した。意味不明な言動もみられた。母親が制止し、声をかけたところ、我に返り部屋に戻るが、行動、言動については記憶がない。事象発現30分後、異常行動回復。以後は症状みられず。	異常-152	
176	B-07013379	男性	11歳	67.5mg	ヒベンズ酸チペビジン フマル酸クレマスチン 塩酸セファベンピボキシル	恐怖 うつ病 激越	回復 回復 回復	インフルエンザB型治療のため、リン酸オセルタミビル服用開始。服用2時間後、一過性の怖れ(驚怖)、嫌世(強いうつ?)、興奮状態発現。服用2時間30分後、就寝後、驚怖のため家の外へ飛出そうとする。その後、この世はいやだ、死にたいと繰り返す。その後、就寝。服用5時間30分後、再び就寝中に数分~5分内の恐怖の発現が有り。服用7時間30分後、就寝中に再び数分の興奮有り。数分~5分で改善。服用2日目、一過性の怖れ(驚怖)、嫌世(強いうつ?)、興奮状態軽快。何事もなくめざめる。その後、特に異常なく元気だが、興奮中のことは憶えていない。	異常-153	
177	B-07013383	男性	11歳	75 mg	アセトアミノフェン	異常行動	軽快	インフルエンザA型の診断にてリン酸オセルタミビル処方。服用1時間後、急に家を飛び出し、家の周囲を1周し、帰って来て笑っていた。その後、異常行動は回復、本剤中止を指示して再発なし。	異常-154	
178	B-07013387	女性	11歳	150 mg	非ピリン系感冒剤(4) アセトアミノフェン	異常行動	軽快	インフルエンザB型に対して、リン酸オセルタミビル服用開始。服用2日目、2回ほど家を飛び出そうとしたが、親が止めたため、大事には至らなかった。本剤中止。服用3日目、異常行動軽快。	異常-155	
179	B-07018037	男性	11歳	75 mg	d-マレイン酸クロルフェニラミン ヒベンズ酸チペビジン 塩酸アンプロキソール 塩化リゾチーム ツロプテロール	異常行動	回復	インフルエンザA型の診断にて、リン酸オセルタミビル処方。服用1日目、本剤服用1時間後、突然飛び起き、目を見開いて走り出す。30分程度で症状はおさまる。異常行動を覚えていない。	異常-156	
180	B-07018716	男性	11歳	75 mg		異常行動	回復	リン酸オセルタミビル服用後、2時間ほどで奇声を発し、3階から飛び降りようとしたとのことで、家族が当院を受診し、入院経過観察することとなった。翌日、異常行動は回復。	異常-157	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
 （販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No	備考
181	B-07007902	女性	11歳	72 mg		痙攣 異常行動	回復 回復	発熱が発現し、受診。インフルエンザ迅速検査は陰性であったが、インフルエンザ疑いにてリン酸オセルタミビル処方。 服用後興奮状態となり、靴を片方持って突然ベランダに飛び出すといった異常行動発現。痙攣発作が発現し、当院受診。 来院時は意識清明。インフルエンザ迅速検査にてB型陽性。 頭部CTは異常なく、髄液検査など施行後、経過観察とした。夜間、体温は40℃まで上昇あり、異常言動出現。その後意識レベル清明。頭部MRI施行し、拡散強調画像で、脳梁膨大部に高信号域を認めた。MRI所見は可逆性（一過性）の病変であった。 本剤服用終了から6日目、完全に解熱し、全身状態良好となり、その後退院。	異常以外-172	2008/4/1以降追加報告
182	B-08001550	男性	11歳	120 mg		異常行動	回復	ウイルス診断を行い、インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル服用開始。 夜トイレに入り、その後電気をまぶしがり、扉の開閉を繰り返し、足元から何か遠い上がってくるものを払いのけた後、リビングの方へ走って行き、何かに追われている様に怯えながら逃げまわっていた。その後、2～3時間おきに2回同様な行動をとった。「外に行く！」と言っていたので、制止した。その後、本剤服用中止。		2008/4/1以降新規報告
183	B-08009394	男性	11歳	75 mg	d-マレイン酸クロルフェニラミン ヒベンズ酸チペジン 塩酸アンブロキシール 塩化リゾチーム	異常行動	軽快	インフルエンザB型治療のため、リン酸オセルタミビル服用開始。 服用2日目、15分間で3回トイレに立て続けに行く。無意味な動き発現。 無意味な動き軽快。無意味な動きの記憶なし。 本剤服用終了から2日目、インフルエンザ軽快。		2008/4/1以降新規報告
184	B02-12377 (B07002859)	男性	12歳	150mg		低体温	回復	インフルエンザキット陽性にて、リン酸オセルタミビル服用開始。本剤服用後、幻視、低体温、暴れたため、家族がおさえた。体温は服用後、34-35℃になった。再度服用したところ、再度幻視出現し、低体温、暴れるなどの症状が出現し、再び家族におさえられて治まった。その後本剤は中止とした。服用開始2日目、3日目と低体温が続くが、服用開始4日目に低体温回復。	異常-158	
185	B-03011945	男性	12歳	75 mg	非ピリン系感冒剤(4)	異常行動	回復	診断キット(-)だが、リン酸オセルタミビル150mg/日及び非ピリン系感冒剤を処方。夜、1回分を服用後、翌明け方、39℃の熱と、意味不明の発言、尿失禁あり。朝、本剤を内服し、午後から解熱。夕方、意味不明の発言が見られ、玄関とは全く違う方向へ歩いていこうとしたが、家人の呼びかけで元に戻った。受診したが、受診時は意識清明。内服薬を中止し、入院して様子を見たが、異常行動はなかった。	異常-159	
186	B-04009035	男性	12歳	150mg	セフジトレンピボキシル D-マンニトール アシクロビル 塩酸セフォチアム	異常行動	回復	インフルエンザB型と診断、リン酸オセルタミビル150mg/日及びセフジトレンピボキシル等を処方され内服。同日夜、突然「苦しい」と顔つきが異常になり、自宅2階の窓から飛び降りた。救急車で来院時、意識清明。投与開始から6日目で本剤の投与終了。	異常-160	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
 （販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No	備考
187	B-05023672	男性	12歳	60mg	臭化水素酸デキストロメトルファン メキタジン ラクトミン	異常行動	回復	発熱(39℃)、咳、鼻症状、消化器症状にて確定診断後本剤内服し就寝。 その後、異常行動発現(トイレに行こうとするが、様子がおかしく、その後突然外出し、団地4階より階段を下りて下にある自転車で走り出す。奇声を上げる)。 15分後帰宅するが、意識がぼーっとしており、発語もはっきりせず、朝まで経過 翌朝、起床時には回復。その後夜間診療まで、異常行動なく、受診時も、意識清明、問題行動なく、解熱、インフルエンザ症状軽減。	異常-161	
188	B-05023790	男性	12歳	66 mg		異常行動 意識変容 状態 橈骨骨折 下肢骨折	回復 回復 不明 不明	A型インフルエンザの診断後、リン酸オセルタミビルを服用した後、自宅マンションの2階より転落。意識障害や異常行動が発現していた。4～5日目も夜間にうわごとがあった。13日目には意識障害と異常行動が回復していた。	異常-162	
189	B-05024838	男性	12歳	150mg	アセトアミノフェン	異常行動	回復	発熱(38.5℃)が見られ、リン酸オセルタミビルの服用を開始した。投与開始日の2回目服用から約30分後に、就寝中より突然起き出して父親に抱きついたり、母妹に意味不明な言語を発する等の異常行動が発現し、約30分間持続した。その後、異常行動から回復した。	異常-163	
190	B-05025582	男性	12歳	150mg	アセトアミノフェン 臭化水素酸デキストロメトルファン シャゼンソウエキス	異常行動	軽快	A型インフルエンザ治療のためリン酸オセルタミビル服用開始(39℃)。2回目服用後、異常行動(部屋の中をぐるぐる回る、2階から飛び降りようとする等)発現。父親が取り押さえ約40分後異常行動(わめいたり暴れたり)軽快し眠った(39℃以上)。翌朝解熱(36.7℃)し意識は正常で異常はなかった。母親の話では1年ほど前にも発熱した際に今回のようにひどくはなかったがうなされたことがあった。	異常-164	
191	B-06007798	男性	12歳	150 mg	アセトアミノフェン	死亡 損傷	死亡 死亡	発熱があったため、家族に処方されていたリン酸オセルタミビルを75 mg/日服用。その後、熱が下がらないことから、左記併用薬を服用。同日夕方、自宅のある高層住宅の駐車場で心肺停止状態で発見され、病院に搬送されたが死亡。 【解剖所見あり】	異常-165 死亡-12	
192	B-06012472	女性	12歳	75 mg	アセトアミノフェン クラリスロマイシン カルボシステイン	意識変容 状態	回復	B型インフルエンザで発熱(38.8℃)が見られ、リン酸オセルタミビルの服用を開始した。服用開始から3時間弱で意識障害(窓の方へ駆け出し、叫ぶ)が発現し、入院することになった。リン酸オセルタミビルの服用は中止し、塩酸プロカテロールの服用を開始したが、その日の夜に意識障害が見られた。リン酸オセルタミビルの投与開始から6日目にインフルエンザ症状が軽快し、意識障害も回復した。	異常-166	
193	B-06024212	男性	12歳	75 mg		意識変容 状態	回復	発熱(40.5℃)、咳、鼻症状、インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル処方。本剤服用当日、意識障害(名前、自分の年が言えず)発現。投与翌日、意識障害回復。	異常-167	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
 （販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No	備考
194	B-06024534	男性	12歳	150 mg	臭化水素酸デキストロメトラン ドーマレイン酸クロルフェニラミン アセトアミノフェン	異常行動 転倒	軽快 軽快	インフルエンザA型と診断後、リン酸オセルタミビルを投与。本剤服用開始当日夜から翌日朝にかけて、異常行動（突然裸になり踊るなど）あり。発熱持続。2日目午前中に服用後、夕方、母親が目を離れた間に、2Fベランダから飛び降り、直後から走り回る。TAMIFLU キットにてインフルエンザA型と診断。家族への説明後、リン酸オセルタミビル等処方。服用1日目夕、本剤2回目服用後、夜から朝にかけて、突然裸になり、踊る等の行動あり。服用2日目夕、家族が目を離れた間に、2Fベランダから飛び降り、直後から走り回る。入院。入院時、記憶はなし。	異常-168	
195	B-06024909	男性	12歳	150 mg	プラノプロフェン 塩酸アンプロキシール	異常行動	回復	発熱(37.8℃)、咳、倦怠感あり、インフルエンザB型と診断され、リン酸オセルタミビル投与開始。投与翌日、外を走っているところを見つけれ、家に連れ戻されたが、2階へ駆け上がり窓を開けて飛び降りた。	異常-169	
196	B-06025101	男性	12歳	75mg	アセトアミノフェン	異常行動	不明	本剤服薬2時間後に幻覚をみて、異常行動（裸足で外に飛び出した。）出現。帰宅後、自ら電話し、救急車で他院に搬送。点滴により落ち着き帰宅。夜になると怯えてしまう。昼間は問題なし。 その後も就寝後1時間くらいでおきだして、錯乱状態となる。5日後、解熱。7日後、通学し始める。 就寝後の錯乱状態が続くため、他院受診。「夜驚症」と診断される。	異常-170	
197	B-06025576	女性	12歳	150mg		異常行動	回復	本剤処方の昼食時に服用。 その夜、異常行動発現（突然泣き始め、素足で土間の方へ飛び出し「目がとれた」と叫ぶ）。 約10分で落ち着き、両親がおさえる。体温(37.5℃) 翌朝から、本剤服用再開、その後異常行動なし。本剤投2日後、外来受診し、異常行動回復となる。	異常-171	
198	B-06026630	男性	12歳	150 mg	アセトアミノフェン	異常行動 転倒	軽快 軽快	インフルエンザBと診断され、昼と夜にリン酸オセルタミビル内服。突然2階にかけ上がった。母が追いかけてかまえて1階に連れ戻したが、その後、もう一度2階にかけ上がり、母も追いかけてが間に合わず、ベランダへ出、飛び降りた。本人は飛びおりた時の記憶はない。	異常-172	
199	B-07001302	女性	12歳	75 mg	ヒベンズ酸チペジン カルボシステイン アセトアミノフェン	痙攣 浮動性めまい 異常行動	回復 回復 回復	インフルエンザA型治療のため、リン酸オセルタミビル服用開始。本剤投与1回目の就寝2時間後、徘徊し、2階の階段から転落。痙攣が10分ほど持続。事象発現から30分後、意識が戻り、その後は問題なし。	異常-173	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
 （販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No	備考
200	B-07001361	女性	12歳	150mg		異常行動	軽快	インフルエンザB型治療のため、リン酸オセルタミビル処方。服用2回目で突然立ち上がり、廊下に飛び出す。わけのわからない事を叫び、暴れる(約3分間1回きり)。家族がおさえつけて制止した。 服用開始5日目、服用終了。	異常-174	
201	B-07001523	男性	12歳	75 mg	塩酸アンブロキシール 塩酸シプロヘプタジン 塩酸ホミノフェン アセトアミノフェン	意識変容 状態	回復	数日前より症状あり、一般用の感冒剤を服用。 翌日、発疹あり受診。インフルエンザA型陽性のため、リン酸オセルタミビル処方。1回目服用1時間後、両上肢拳上、訳のわからないことを言いながら、こたつの周囲を10回ほど回った。その後紙製のふたをにぎりしめていた。このため救急車で来院。怒りっぽく荒々しい言動であった。CT異常なし。眠気あり。 その翌日午後、意識清明となる。	異常-175	
202	B-07002664	男性	12歳	150 mg	アセトアミノフェン 鎮咳配合剤(1) 塩化リゾチーム d-マレイン酸クロルフェニラミン	錯乱状態 強迫性障 害	回復 軽快	インフルエンザB型の診断にて、リン酸オセルタミビル処方。昼前に本剤服用。夕方、解熱。同日夕方、2回目服用後に就寝。就寝1時間後、起きた時に錯乱状態になり、家族が押さえつける。症状は約30分間続き、回復。投与中止。 投与中止1日後、朝、37.3℃。起床後すぐに「手洗い」を始め、その後もずっと手を洗い続け、1日に30回以上「手洗い」をするようになるといった強迫神経症、うつ病が発現。インフルエンザは軽快。 投与中止4日後、1日に60回以上「手洗い」し、周りの物に触れようとしないくなる。メンタルクリニックにて洗浄強迫障害と診断される。投薬されるも症状改善なく、1日に7~8回入浴する状態となる。食欲も著しく低下。 投与中止21日後、ロープで首吊り自殺しようとする。その後も自殺願望さらに強くなる。 投与中止55日後、夜、突然顔面より上半分に筋肉の強張出現。救急受診し、筋弛緩剤投与され改善。その後も自宅で療養中。	異常-176	
203	B-07011932	男性	12歳	150 mg	アセトアミノフェン	異常行動	軽快	夜、発熱にて救急受診。インフルエンザ確定診断にて陰性で、抗生剤と解熱剤を処方。翌朝、受診。受診時38.3℃で救急にて処方されていた薬は終了。 インフルエンザ確定診断実施したところ、B型と判明。発熱以外特に訴えなく所見もないようなので、リン酸オセルタミビル等を処方。服用1日目、深夜、寝ていたが突然起きて寝室から飛び出し、廊下を走った。裸足で飛ぶように走った。服用開始から3日目、朝、本人は自分の行動を全く憶えていなかった。平熱に戻り元気が良いとのこと、本剤服用中止を指示。	異常-177	
204	B-07013228	男性	12歳	150mg	麻黄湯	異常行動	回復	前日より39.1℃の発熱あり。インフルエンザA型陽性との診断受け、リン酸オセルタミビル等を処方。本剤を服用し、就寝。夜、気持ちが悪いとトイレへ行った。トイレから出てきてうわ言で「屋上が、屋上が・・・」と言って玄関から出ようとしていたので両親2人がかりでおさえつけた。その後本剤中止。	異常-178	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
 （販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No.	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No.	備考
205	B-07013229	男性	12歳	150 mg	フマル酸クレマスチン 臭化水素酸デキストロメトラン カルボシステイン トラネキサム酸	異常行動 異常行動	回復 回復	インフルエンザB型発症のため、リン酸オセルタミビルを朝、夕2回服用。深夜、急に起き上がって服を脱ぎ、部屋の中を歩き、お茶を飲んだ。ベランダに出て乗り越えようとしたのを母と祖母で止めて室内へ連れ戻した。体温は37.9℃。40分くらいで再び眠りについた。その約3時間後、寝ている状態でベッドでバタバタして話をしていた。目はグルグル回って変だった。40分	異常-179	
206	B-07013305	男性	12歳	不明		異常行動	回復	インフルエンザに対して、リン酸オセルタミビル服用開始。異常行動（走り回る、顔つきがおかしい等）が発現。その後、異常行動は回復。	異常-180	
207	B-07013374	女性	12歳	75 mg		異常行動 幻覚 妄想	回復 不明 不明	夕方、B型インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル服用開始。何も持っていないのに1つ持っていると言い、外に出ようとするので、父親が側に付き、外に出ようとするのを制止した。未明に落ちつく。	異常-181	
208	B-07013380	男性	12歳	150 mg	鎮咳配合剤(1) プロピオン酸フルチカソン ベシル酸ベポタスチン 小青竜湯 麻杏甘石湯	落ち着きのなさ	回復	インフルエンザA型治療のため、リン酸オセルタミビル服用開始。服用後、突然2階階段を走り降りる。夕方、本剤服用後、やはり不穏状態となり、家族が制止する。	異常-182	
209	B-07013382	男性	12歳	150 mg	アセトアミノフェン 乳酸リンゲル液(マルトース加)	異常行動	回復	インフルエンザA型の診断にて、リン酸オセルタミビル処方。昼、夕、本剤服用。2回目服用4時間後、40.2℃の発熱、脱水に対して、アセトアミノフェン服用。輸液点滴静注開始。その後、睡眠。点滴終了し、抜針した所、走り出した。服用2日目、異常行動回復。	異常-183	
210	B-07013388	男性	12歳	75 mg	クラリスロマイシン アセトアミノフェン	異常行動	回復	39℃の発熱あり、インフルエンザB型の判定のもと、夕方、リン酸オセルタミビル服用。未明、もうろう状態発現。急に起きて、ベッドの上で飛びはねて2階から下に階段を駆け降りて、下で尿、便を失禁した。	異常-184	
211	B-07015893	男性	12歳	75 mg		異常行動 異常行動	回復 回復	朝、発熱37℃台。夜、発熱39.2℃。夜間診療所にてインフルエンザA型陽性のため、リン酸オセルタミビル処方。本剤初回服用1～2時間後、閉まっていた自室2階の窓とシャッターを開けて、飛び降りた。幸いテラスの屋根があり外傷認めず。飛び降りた際には支離滅裂な話をしていた。親が不安になり、一階の部屋で一緒に寝かせた。翌朝、部屋から一人で出て行こうとした。「トイレ？」と尋ねると、意味不明の返答。「こちらで寝なさい」と言うと、横になり眠った。体温38.2℃。午前、入院。服用開始4日目、本剤は継続したが、異常言動の再発はなく、元気に退院。	異常-185	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
 （販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No	備考
212	B-08002942	男性	12歳	150 mg	塩化デカリニウム アズレンスルホン酸ナトリウム	異常行動	回復	頭痛、咽頭痛を認め、38.2度の発熱。同じクラスで4人インフルエンザ発症していた。 初診にかかるが、咽頭サンプルによるインフルエンザ検査にてインフルエンザウイルス検出されず。 インフルエンザ疑いに対し、リン酸オセルタミビル服用開始。 本剤服用後、日中熱が下がると寝ぼけたような感じになり、母によれば「明らかに眼がらがつた」とのこと。アリのような紫色の気持ち悪い虫が迫ってくるのとこと、「外に出なくてはならない」、「ベランダへ出ようとする」といった異常行動発現。 この症状は1回のみでの出現であった。 解熱後は症状出現なし。 異常行動は回復と判断。 服用5日目、本剤服用終了。その後、インフルエンザ回復。 （翌シーズン）インフルエンザA型感染。リン酸オセルタミビル未使用でも、夜間に同様な症状を認めた。		2008/4/1以降 新規報告
213	B-08024604	男性	12歳	75 mg	塩酸ツロブテロール	異常行動	回復	当院受診しインフルエンザA型と診断され、昼食後にリン酸オセルタミビル等服用。その後ベッドへ行く。 服用約1時間半後に異常行動発現。玄関のドアの開閉音あり。異常行動の注意をしていたので母が心配になりベッドを見ると不在。トイレにいない。祖父と外を探したところ、4～5分後に祖父が発見。裸足で家の外を歩いていた。声をかけたところ、それまでボーッと歩いていた本人は我にかえった。この間のことは覚えていない。その後、インフルエンザA型、副作用ともに症状が速やかに回復。本剤はその後服用していない。		2008/4/1以降 新規報告
214	B-03000982	男性	13歳	150mg	クラリスロマイシン 臭化水素酸デキストロメトラン カルボシステイン リン酸コデイン 酸化マグネシウム	異常行動	回復	日型インフルエンザの治療のためリン酸オセルタミビル及び他の併用薬服用開始。服用2日目の16時異常行動発現（突然2階から降りてくる、ウサギ跳びをする、異常な発言）、家族がなだめ就眠。20～21時異常行動（ベッドから飛び降りる、異常な発言あり）。3日目朝全て薬剤中止。異常行動発現5日後に回復。	異常-186	
215	B-03001038	女性	13歳	150mg	塩酸チアラミド リン酸ジヒドロコデイン 塩酸メチルエフェドリン マレイン酸クロルフェニラミン	幻覚	回復	インフルエンザA型と診断、リン酸オセルタミビル150mg/日他を処方。夕方、75mgを服用。翌日、39℃の熱が下降すると同時に走り始め窓から飛び降りようとして、奇声を発した。翌日も同様の状態が続いた。2日後には症状はなくなり、投与開始5日目の朝の服用で本剤の投与終了。	異常-187	
216	B-03009902	男性	13歳	150mg	dl-マレイン酸クロルフェニラミン カンゾウ抽出物・メタケイ酸アルミン 酸マグネシウム ヒベンズ酸チペピジン 塩化リゾチーム プロチン	譫妄	回復	インフルエンザA型と診断、リン酸オセルタミビル150mg/日他を処方。同日夜、75mgを服用し、その2時間半後、家の中を走り回ったり、意味不明の奇声など異常行動出現。40分後、受診したが、受診時の意識は正常、譫妄状態時の記憶なし。点滴し1時間ほどで帰宅。翌日もリン酸オセルタミビル150mg/日を服用（併用薬も継続）。異常所見なく、6日間服用し終了。	異常-188	
217	B-05001832	男性	13歳	150mg		精神障害	回復	インフルエンザ診断を行った結果、A型インフルエンザと診断。治療目的にリン酸オセルタミビルを投与。16時頃本剤1回目服用。23時頃2回目服用。その3時間半過ぎに自宅の2階から飛び降りた。その際体温は38℃。翌日朝、受診。	異常-189	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
 （販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No	備考
218	B-06022963	男性	13歳	150 mg	アセトアミノフェン	幻覚 異常行動	回復 回復	B型インフルエンザの確定診断により、リン酸オセルタミビルを午前中帰宅後と夕食後に内服後、夜間睡眠中に、自分の身に家人より危害を加えられると思ひ込み、家を飛び出し知人宅を廻る。7時間後、幻覚、異常行動回復。	異常-190	
219	B-06025315	男性	13歳	75 mg	プロピオン酸フルチカソン 塩酸プロカテロール	異常行動	軽快	発熱を伴うインフルエンザB型で本剤、カロナールを処方。その夜、本剤服用後就寝し、夜中に異常言動発現叫びながらベランダに向かって歩き出す。再度受診し、服用を中止。その後、異常行動なし。	異常-191	
220	B-06026420	男性	13歳	150 mg		異常行動	回復	1回目服用約2.5時間後、異常な発言（「大きい石がのっている」）あり。2回目服用4時間後、起きてきて数回叫び、後退りし、手を取るがテーブルの上に乗し、その後、走り回り、母親が、押さえ込む。体温を測ろうとするが、体が硬直し、脇が占められない状態であった。また室内犬をかけた為、犬をゲージに入れるが、朝起きてなぜ犬が、ゲージの中に居るのか判らない状態であった。	異常-192	
221	B-07000063	男性	13歳	150 mg		異常行動	不明	ワクチン接種あり。インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル75mg、1日2回処方。2階の窓から飛び下りようとしたが、家族が止めた為、事故にはならなかった。異常行動があったため、当院にて診療。治療後も目が覚めると歩きまわる様になった。	異常-193	
222	B-07000066	男性	13歳	75 mg	クラリスロマイシン ブランルカスト水和物 カルボシステイン ヒベンズ酸チペビジン アセトアミノフェン	精神症状	回復	インフルエンザ抗原A型陽性のため、リン酸オセルタミビル処方。38～39℃台の発熱が続いていた。夕方、本剤服用。夕食後自室で寝ていたところ、急に起き上がり、意味不明の発言あり、窓から外へ出ようとするため、母親が馬乗りになっておさえた。5～10分程で興奮状態がさめた。その後、同様の症状は出なかった。発熱による症状かと思ひすぐには連絡しなかった。本剤服用中止。	異常-194	
223	B-07000077	男性	13歳	150 mg	フェンジソ酸クロベラスチン 塩酸アンブロキシソール イブプロフェン	異常行動	回復	B型インフルエンザと診断され、リン酸オセルタミビル処方。2回目服用後、突然起きて外出する。家族が気づいて追いかけて連れ戻す。受け答えははっきりせず、自分のした行動も理解していなかった。連れ戻した後、すぐに就寝。本剤服用中止。その後異常行動はなく、意識もすぐ正常に戻った。	異常-195	
224	B-07000130	男性	13歳	150 mg	ロキソプロフェンナトリウム ヒベンズ酸チペビジン 塩酸セチリジン	異常行動	回復	体温：39.3℃。インフルエンザB型治療のため、リン酸オセルタミビル服用開始。覚醒後「暑い」と言い「ベランダに行き、涼みたい」とベランダに向かって飛びだしそうになり家族が制止。10分後に異常行動回復。夜、臥床中、「ゲームの中のように誰かが追いかけてくるので逃げなくては」と言ってふとんをかぶるといった幻視の疑いが発現。10分後に幻視回復。以降、本剤を続けて服用したが、特に異常行動は見られなかった。	異常-196	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
 （販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No	備考
225	B-07000272	男性	13歳	60 mg	塩酸エブラジノン カルボシステイン 塩酸シプロヘプタジン	異常行動	回復	インフルエンザB型と診断され、リン酸オセルタミビル処方。服用し、就寝。服用2時間半後、急に体をおこし、2階の窓から飛び降りようとしたため、家人がとりおさえ、ことなきを得た。すぐにおさまり、1階へ移動して就寝した。服用4時間半後、再び急に起き上がり、今度は1階の窓から飛び出した。その時、外で隣人が水まきをしており、その場で我にかえり、ことなきを得た。服用中止後、異常行動なし。軽快。	異常-197	
226	B-07000412	男性	13歳	138mg	塩酸チアラミド	落ち着きのなさ	回復	インフルエンザB型の治療のため、リン酸オセルタミビル処方。服用2日目、午前中に2階から転落。頭蓋内血腫と診断。入院治療し、約1週間で退院。異常行動回復。 （平成18年7月の事例）	異常-198	
227	B-07001355	男性	13歳	150 mg	ブラプロフェン 臭化水素酸デキストロメトルファン ドンペリドン フマル酸クレマスタチン	幻覚 異常行動 譫妄	回復 回復 回復	数日前から咽頭痛あり、朝から38.3℃の発熱を訴え受診。B型インフルエンザ陽性のため、リン酸オセルタミビル処方。本剤2回服用4時間後に就寝。翌日未明、両親の寝室にはたばたと入ってきて、「死ぬとこだった」とおびえた表情をしたので、両親は寝かせつけた。その朝、患児を観察すると、擦り傷、両下肢の付着物、両足底の汚れあり。事情をきくと、何かに追いかけられるような怖い夢を見ていたような恐ろしい思いをした後、自分が窓枠にぶら下がり、両足をコンクリート壁の突き出し部分に乗せているのに気づき、よじ登って部屋に入ったとのこと。部屋を確認すると、窓が開いている、足跡がついている等の形跡あり。	異常-199	
228	B-07001668	男性	13歳	150 mg	アセトアミノフェン リン酸ジメモルファン	幻覚 異常行動	回復 回復	発熱39.1℃。検査にてインフルエンザB型陽性のため、リン酸オセルタミビル5日分処方。同日昼、夜と本剤2回服用。 翌日未明、就寝していた患者が急に起きあがり、部屋を駆け回る、たんすを開ける、友達がいると言い、友達の名を大声で叫ぶなどの行動をとる。家族が気づきおさえる。数分で落ち着いた。39.9℃と高熱。同日朝、意識清明であるが、異常行動時の記憶はなし。本剤服用中止。その後、異常なし。	異常-200	
229	B-07002055	男性	13歳	不明		異常行動	回復	シーズン前にインフルエンザ予防接種2回施行。 気分が悪いと訴えあり。体温38.4℃。インフルエンザ検査陰性であったが、インフルエンザの可能性高いからと、リン酸オセルタミビル処方。服用3～4時間後の早朝、「友達がベランダから落ちた」と発言。問いかけに答えられず。そのまま睡眠した。同日夕方、ウーと声が聞こえたので、急いで行ったら、自分の頭を殴っていた。その後「人を殺した」と発言。本剤中止。暫くして意識清明となる。 翌日未明、気分が悪いと訴え、リビングを駆けずり回り、「死にたい」と連呼。救急車要請。救急隊到着時、ぼーっとしている感じではあったが、名前を言えた。入院後、補液。その間異常行動なし。意識清明。顔には自分でひっかいた、ひっかき傷目立つ。唇もかんでいるようで、出血あり。本剤内服せず様子見とした。翌日、解熱し、異常行動もみられず退院。 2週間の間隔をあけて測定したが、インフルエンザに対する抗体価の上昇なし。	異常-201	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
 （販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No	備考
230	B-07002997	女性	13歳	150mg	ドンペリドン 酪酸菌製剤 d-マレイン酸クロルフェニラミン	大発作痙攣	回復	3年前、A型インフルエンザにてリン酸オセルタミビル服用歴あり。副作用なし。 38.5℃。B型インフルエンザの診断にて、リン酸オセルタミビル処方。帰宅後、本剤服用。この時体温40℃。昼、異常なし。夜、2階から1階に下りようとして「こわい、こわい」とさけび出し、両手を広げバンバン壁をたたき、その後、けいれんを1分間起こした。5分後、会話ができるようになったが、「こわい、こわい」と言っていた。けいれん時：35.5℃と解熱。本剤、夜は睡眠中であったため、服用せず。 投与開始2日目、朝、本剤服用中止するも、夜は服用。 投与開始3日目、朝、夕本剤服用。	異常-202	
231	B-07004039	男性	13歳	150 mg	フマル酸クレマスチン ヒベンズ酸チペピジン アセトアミノフェン	譫妄	回復	B型インフルエンザ発症し、リン酸オセルタミビル服用開始。 投与開始2日目、朝、2階で寝ていたが、急に起きてきて階段(屋内)の途中から飛び降り、部屋の障子を倒して外へ出て行こうとした。家族が制止し、30分後、我にかえた。39℃台の発熱あり。患者によると、悪い夢を見て、何かに追いかけていたような気がしたそうであるが、階段を飛び降りたり障子を倒したりしたことは何も覚えていなかった。	異常-203	
232	B-07013251	不明	13歳	不明		異常行動	回復	インフルエンザに対して、リン酸オセルタミビル服用開始。2回目服用の4時間半後、裸になって外に飛び出す。本剤中止。服用2日目、異常行動は回復。	異常-204	
233	B-07013256	男性	13歳	42mg	アセトアミノフェン アモキシシリン ツロブテロール	幻覚	回復	A型インフルエンザ(体温は39℃)に対して、リン酸オセルタミビル服用開始。 本剤服用後に、幻覚(異常行動)が発現。 服用2日目、幻覚(異常行動)は回復。	異常-205	
234	B-07021878	男性	13歳	150mg	鎮咳配合剤(1) 紫胡桂枝湯	異常行動	回復	夕方、リン酸オセルタミビルを服用。就寝。夜中突然泣き出して、布団の中でんぐり返しをし、部屋の中を走り出した。押さえて、少しして落ち着いた。再び眠り、症状は消えた。本人も一部は覚えているとのこと。服用2日目、本剤服用したが、異常行動は起こらず。	異常-206	
235	B-08027727	男性	13歳	75 mg		異常行動	回復	発熱し、体がきつくて動けず、アセトアミノフェン服用。体温37.0℃代へ。 翌日体温37.5℃。いつもの発熱と違うと思って午後病院受診。インフルエンザA型と診断され、夕方リン酸オセルタミビル服用。夕方から熱なし。 服用2日目、朝本剤投与。熱なし。 昼、異常行動発現。押入れに上り、天窓を開けている所を見て何しているかたずねると、「何かあるかなーと思って登ってみた」と言って自分で押入れから出る。 夕、本剤投与。 服用3日目、朝、本剤投与。熱なし。 昼、室内で1回転倒、室外で1回転倒、足捻挫。 夕、本剤投与。 服用4日目、朝、本剤投与。熱なし。2日間熱がないので服用しなくていいとし、本剤中止する。		2008/4/1以降 新規報告
236	B-08030608	男性	13歳	投与量 不明		異常行動	回復	インフルエンザと診断されリン酸オセルタミビル処方される。 夜中に歩きまわった。		2008/4/1以降 新規報告

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
 （販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No	備考
237	B-05002487	男性	14歳	75mg		意識変容 状態	死亡	発熱、咽頭痛、関節痛にて受診。A型インフルエンザと診断。治療目的にリン酸オセルタミビル投与。本剤服用2時間後、9階自宅より転落。出血性ショックにより死亡。主治医によると転落したときの状況は誰も見ていないため意識障害、精神障害があったかは不明。	異常-207 死亡-13	
238	B-05017753	女性	14歳	150mg	クラリスロマイシン ヒベンズ酸チベピジン 非ピリン系感冒剤(4) アセトアミノフェン アズレンスルホン酸ナトリウム・炭酸 水素ナトリウム 塩化デカリニウム	譫妄(せん 妄)	回復	咳、咽頭痛、関節痛、発熱あり解熱剤使用しても改善されず受診。インフルエンザ予防目的にて本剤投与。本剤投与2日後、朝より被害妄想、異常行動、せん妄発現。落ち着きがなく、家中うろろしていた。本剤投与中止3日後、精神的に落ち着き、平常の状態に戻る。	異常-208	
239	B-05022381	男性	14歳	75mg	ドンペリドン シプロフェリン・ジヒドロコデイン配合 剤 アルジオキサ 塩酸エピナスチン レボフロキサシン 維持液(3) メクロプラミド	錯乱状態 落ち着き のなさ	回復	発熱(38°C)、咳、鼻症状にて本剤処方。服用後、錯乱、不穏発現(異常な発言とともに、窓に向かって走り出す(マンションの9階))。ガラスは、鍵をかけており事故にはならなかったが、両親でおさえなければならぬほどの力で暴れた。服用中止し、錯乱、不穏回復。	異常-209	
240	B-05024748	男性	14歳	75mg	アセトアミノフェン	異常行動	回復	A型インフルエンザで発熱(38.5°C)が見られ、リン酸オセルタミビルを夕方服用した。服用開始した日の夜に2階より飛び降りる異常行動が発現。飛び降りから約2時間半後に病院へ搬送された時には異常行動は回復していた。右踵骨折、左第5指中足骨骨折、両足部外傷性皮膚欠損。飛び降りから約4時間後に頭部CTを実施し、明らかな浮腫や脳症を疑う所見を認めなかった。	異常-210	
241	B-05024963	男性	14歳	75mg	アセトアミノフェン 臭化水素酸デキストロメトルファン d-マレイン酸クロルフェニラミン	意識変容 状態 異常行動 悪心	回復 回復	A型インフルエンザ発症のため夕方リン酸オセルタミビル服用開始(39°C)。服用後意識障害(少し変なことを言う)発現するもすぐに治まった。嘔気もあり。翌朝本剤服用後、約4時間後に異常行動(服を脱いで家の外へ飛び出す)発現し行動障害(いつもできないことができない等)が少し続いた。患者が落ち着いた後、総合病院を受診し血液検査と脳MRI撮影実施。3日後、落ち着いており、12日後、検査結果に異常なし、精神神経症状もなし。	異常-211	
242	B-05025213	女性	14歳	150mg	クラリスロマイシン 塩酸チアラミド 非ピリン系感冒剤 リン酸ベンプロベリン アセトアミノフェン	異常行動	回復	発熱が見られた3日後よりA型インフルエンザのためリン酸オセルタミビル服用開始(39.5°C)。初回服用1.5時間後にトイレでいきんだ後30秒ほど白目をむいた感じになった。2回目服用2.5時間後に異常行動(突然起きあがり意味不明な発言)発現のため救急受診。受診時の受け答えは正常。翌日インフルエンザ軽快し精神状態等も正常。	異常-212	
243	B-05025476	男性	14歳	150mg		痙攣 意識変容 状態 異常行動	未回復 未回復 未回復	インフルエンザウイルスは陰性だったが、家族に陽性の患者がいたため本剤投与開始。異常行動、意識障害、痙攣発現。(担当医の協力が得られず詳細は不明)	異常-213	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
 （販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No	備考
244	B-05025583	男性	14歳	150mg	アセトアミノフェン 臭化水素酸デキストロメトルファン シャゼンソウエキス	異常行動	軽快	A型インフルエンザにてリン酸オセルタミビル服用開始(38.5℃)。午前中1回目服用後寝ていたが突然異常行動(階段を駆け下り、学校へ行くといいいカバンを背負って外へ飛び出そうとする)発現し、しばらくの後症状軽快。その後も本剤を処方通り服用するが異常行動発現せず。	異常-214	
245	B-05025723	男性	14歳	150mg		健忘 激越 異常行動 錯乱状態	回復 回復 回復 回復	A型インフルエンザ治療のため本剤服用開始。夜間本剤服用後、家の中を大声で動き回り、家族が抱きかかえた。興奮、錯乱状態発現。2時間毎に興奮状態が出現。その後寝入って落ち着き興奮、錯乱状態、健忘症回復。翌日解熱し本剤中止。(約1ヶ月前インフルエンザが強く疑われたためアマンタジン投与。その際は高熱(39.1℃)だったが、興奮状態等の訴えはなかった。)	異常-215	
246	B-06024434	女性	14歳	75 mg	イブプロフェン 非ピリン系感胃剤(4) アズレンスルホン酸ナトリウム・L- グルタミン	転倒	死亡	発熱(38.2℃)、咳、鼻水、喉の痛みあり、インフルエンザBと診断され、リン酸オセルタミビルを服用。服用から2時間後自宅マンションから転落し、心肺停止状態。病院に搬送後に死亡確認。	異常-216 死亡-14	
247	B-06024795	男性	14歳	150mg	アセトアミノフェン	異常行動 転倒	死亡 死亡	インフルエンザA型にて本剤を服用するが、異常行動発現なし。約1年後、発熱(38.9℃)、咽頭痛、インフルエンザB型陽性で本剤を処方。朝、夕服用し、その夜に自宅マンションから飛び降り死亡。	異常-217 死亡-15	
248	B-06025006	男性	14歳	75 mg	フェンジソ酸クロベラスチン カルボシステイン	異常行動	回復	発熱(39.6℃)あり、インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル処方。本剤服用3時間半後、異常行動(走り回ったり、階段の手すりに足をかけたりする等)が10分程出現。異常行動回復。	異常-218	
249	B-06025685	男性	14歳	75mg		異常行動	回復	発熱(38.5℃)鼻症状であったため、確定診断後本剤を投与。その夜、異常行動(トイレに行こうと立ち上がったが倒れた。トイレに付き添っていくもトイレの中、壁に向かって排尿し、ふらふら歩き出し、台所の床に倒れ込む)発現。母親、心配になり、救急依頼。体温(38.2℃)。入院後、補液管理となり(体温:38.8℃)、その日の夕刻、異常行動回復。	異常-219	
250	B-06026126	男性	14歳	75mg		異常行動 意識消失	回復 回復	インフルエンザB型と診断。投与開始3日目未明、突然起床。玄関ドアの前で意識消失し転倒。意識消失は2~3分間。その間いれんは認めない。後頭部打撲。翌日、異常行動、意識消失回復。再受診時には、患者のその間の記憶はない。	異常-220	
251	B-06026444	男性	14歳	75mg	プロピオン酸フルチカゾン モンテルカストナトリウム マレイン酸フルボキサミン プロマゼパム マレイン酸レボメプロマジン	異常行動	回復	リン酸オセルタミビル75mg内服2時間後「落ちつかない」「外へ出る」と外へ出ようとした。家人が気付き、手をつかむことにより外出は阻止できた。異常行動発現。3時間程落ちつかなかったが、ようやく就寝できた。	異常-221	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
 （販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No	備考
252	B-07000123	男性	14歳	75 mg	塩酸アンプロキシール 臭化水素酸デキストロメトルファン	異常行動	回復	来院時、体温：39.2℃。夕方、A型インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル服用。服用30分後、異常行動発現。もうろうとして意識がクリア。「俺を殺す気か？」と言った。服用4時間後、2Fから降りてきて、再び意識もうろう状態。体温：39.0℃。「死ねと言うのか？」という言葉に母の呼びかけ「どうしたの」により意識が戻った。その後は普通。ご飯食べた。服用6時間後、2F寝室で就寝。服用8時間後、意識もうろう「何で、何で？」と言いついた。ベッドに戻して、うつ伏せにしたら意識が戻った。「お母さんがなんているの？」と言った。体温：37℃。服用開始2日目、朝、体温が下がって普通。	異常-222	
253	B-07000153	男性	14歳	150 mg	エバスタチン プラノプロフェン 塩酸アンプロキシール	異常行動 意識消失	回復 回復	インフルエンザB型と診断され、リン酸オセルタミビルの服用を開始。2回目の服用後、同日、意識障害発現。翌朝、子ども部屋からのうめき声を母親が聞く。部屋に行ってみると当該患者がベッドで座位をとり、窓から身を乗り出してうめき声を発していた。しばらくして落ち着いたが、その後一人でトイレに行き、排尿をしている間に意識消失。2～3分程度継続。救急車により搬送される。到着時には、意識は回復。本人にそのときのことを確認すると、苦しい気がしたのでうめき声を発したが窓から身を乗り出していたことには記憶がないとのコメント。	異常-223	
254	B-07000156	女性	14歳	75 mg		異常行動	回復	部活の遠征先でインフルエンザを発症し、夕方、リン酸オセルタミビル服用開始。深夜、急に走り出して倒れたといった異常行動が発現。発現10分後に異常行動は回復。	異常-224	2008/4/1以降追加報告
255	B-07000162	女性	14歳	150 mg		異常行動	回復	A型インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル投与開始。夜、本剤内服後、就寝。夜中に突然起き上がり、声を出しながら(内容は不明)2階の窓より階下へ飛び降りた。直後に両親が庭で息児が腰を打撲して、座っている状態を確認。ポーツとしている状態であったが、話しかけには返事をしていなかった。翌日には意識は全く清明であった。	異常-225	
256	B-07000206	男性	14歳	75 mg	Ｌ-塩酸メチルシステイン カルボシステイン セフテラムピボキシール トラネキサム酸 プラノプロフェン クロキサロリド	異常行動	回復	インフルエンザB型治療のため、リン酸オセルタミビル処方。服用後、寝ていたところ突然起き上がり、部屋中を手をゆさぶり歩き回るが、呼びかけには答えず。2～3分で落ち着いた。本剤服用中止。翌日、未明に突然起き上がり、上肢を1分程バタつかせるが、その後回復。	異常-226	
257	B-07000215	男性	14歳	75mg	セフポドキシムプロキセチル 塩酸アゼラスチン 塩化リゾチーム	異常行動	回復	インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル処方。服用後、かなり激しく動き回り、その後就寝。その2時間後突然覚醒し、二階へかけ上がる等の異常行動発現。	異常-227	
258	B-07000218	男性	14歳	75mg	アセトアミノフェン	異常行動	回復	リン酸オセルタミビル服用開始。服用2日目、ズボンを脱いで階段を昇り降りしながら、異常言動発現。当日、夕方に入院するが、症状なく、入院3日後に退院。	異常-228	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
 （販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No	備考
259	B-07000261	男性	14歳	150mg	アセトアミノフェン	幻聴	不明	咳・鼻水あり市販の解熱鎮痛剤を服用。38℃台の発熱がありボーっとしていたが意識正常。頭痛・悪寒があり、受診し、インフルエンザA型陽性と出たため、リン酸オセルタミビル処方。翌朝、母親が外から呼んでいるというような幻聴があり、自宅玄関(5階)から外へ出ようとしたため制止した。	異常-229	
260	B-07000283	男性	14歳	75 mg		譫妄 意識レベルの低下	回復 回復	発熱39℃。インフルエンザB型と診断され、リン酸オセルタミビル投与開始。服用3時間後、せん妄、もうろう状態発現。トイレに行きドアを開けずに接近し、転倒。その後2階で寝かせた。床の中で不穏動作(手をバタバタさせたり起き上がろうとしたり、物に話すような動作)が認められたため、両親が体を抑えつけていたら改善した。記憶は定かではなかったとのこと。症状回復。本剤投与中止。翌朝、体温35.8℃に低下し、回復。	異常-230	
261	B-07000284	男性	14歳	150 mg	ヒベンズ酸チベピジン カルボシステイン 塩酸シプロヘプタジン	幻覚	回復	インフルエンザB型と診断され、リン酸オセルタミビル投与開始。異常行動、幻覚発現。何か幻覚のようなものを見て、外に出ようとした。母親が止めようとしたが、止められず、父親が平手打ちをしたところ正気に戻った。翌日、熱も下がり、症状は回復。本剤は継続中。	異常-231	
262	B-07000306	男性	14歳	75 mg		異常行動	回復	インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル服用開始。服用後も高熱(41度)が持続。服用10時間後、2階から階段を勢いよく下りてきて、玄関から飛び出し、田んぼの中を走り回り、国道に倒れていたのを通りがかりの車輦に発見される。その後、本剤服用中止。アセトアミノフェン服用し、解熱。異常行動回復。	異常-232	
263	B-07002193	女性	14歳	75 mg	アセトアミノフェン 塩化リゾチーム カルボシステイン トラネキサム酸	異常行動	回復	インフルエンザB型治療のため、リン酸オセルタミビル服用。服用2時間半後、壁に頭を打ちつけるのを家族が発見。本人は分かっていたが、頭を打ち続けることを止めることができず怖かったとのこと。1回内服のみで中止し、その後、異常行動を認めていない。	異常-233	
264	B-07005083	男性	14歳	75 mg	ロキソプロフェンナトリウム テブレノン 塩酸アンプロキシソール アセトアミノフェン	異常行動	軽快	急性上気道炎、咽頭炎。37.8℃の熱発があるが、インフルエンザ陰性。1週間後、39.8℃の熱発。リン酸オセルタミビル、アセトアミノフェン坐剤処方。約1時間半後、自宅にて睡眠時にうわごとあり。後、突如起き上がり、部屋を出ていこうとしたところ、家族が制止。落ち着いたが、急に何かにおびえだす。服用開始から2日目、症状は落ち着いていた様子。以後、副作用もなく転帰良好。	異常-234	
265	B-07013254	男性	14歳	150 mg	塩酸チアラミド テブレノン d-マレイン酸クロルフェニラミン リン酸ペンプロベリン アセトアミノフェン ホスホマイシンナトリウム	激越 幻覚	回復 回復	リン酸オセルタミビル服用開始。深夜、2階で寝ていたが、駆け降りてきて興奮気味に「何か変なものがある」と訴えた。母親とすぐに2階へのぼったが、しばらくして再び眠った。30分後、興奮・幻覚は回復。	異常-235	
266	B-07013399	男性	14歳	不明		異常行動	不明	インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル服用開始。服用後、ベッドの周りを走り回った。	異常-236	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
 （販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No	備考
267	B-03010203	男性	15歳	150mg		妄想	未回復	インフルエンザA型と診断、リン酸オセルタミビル150mg/日を処方。同日夜、内服。翌日昼、解熱したが、異常な発言あり。その翌日、本剤の投与中止。その後言動のまとまりがなくなり、統合失調症の発症が疑われた。本剤投与中止12日目に、幻覚妄想が活発に認められ、入院。病院内を落ちつきなく徘徊。幻覚妄想は未回復。	異常-237	
268	B-05001829	男性	15歳	75mg	アセトアミノフェン 鎮咳配合剤 カルボシステイン	譫妄(せん妄) 痙攣(痙攣)	後遺症	高熱あり、救急外来受診。A型インフルエンザと診断され、治療目的としてリン酸オセルタミビル投与。その後、せん妄・痙攣発現。病院に救急搬送され、入院となる。その後急にベッドから立ち上がり、点滴ラインを引っ張った。翌日早朝、意識清明となり覚醒し、頭痛や麻痺・硬直等の症状緩和。翌日、解熱、異常行動なく全身状態改善のため退院となるが、後遺症あり。	異常-238	
269	B-06024227	男性	15歳	150mg	レバミピド 塩酸セチリジン アセトアミノフェン 塩酸ホミノベン	嗜眠 異常行動	回復	A型インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル75mg×2回/日を投与。4日目にインフルエンザ軽快・回復。6日目の10回目投与後、学校で授業中突然歌を歌う。目線が定まらず早退。帰宅後も嗜眠傾向。採血、検尿、脳CT異常なし。脳MRI、脳波は興奮のため最後まで撮れないが、撮れた分は異常なし。15日目では異常行動、嗜眠傾向は未回復。21日目以降の時点で父母から見て正常に戻ったと評価している。	異常-239	
270	B-06024378	男性	15歳	150mg	非ピリン系感冒剤(4) テリスロマイシン 塩酸アンプロキシソール ヒベズ酸チベピジン テブレノン	異常行動 自殺企図	軽快 軽快	インフルエンザと診断。体温39℃。リン酸オセルタミビル2回目服用後、3時間後に悪夢を見て暴れた。その6時間後、再度暴れ、包丁の刃を自分に向けていた。2時間後、自殺未遂及び異常行動は軽快。	異常-240	
271	B-06026296	女性	15歳	150mg	非ピリン系感冒剤(4) 塩酸セフカペンピボキシル ソファルコン 臭化水素酸デキストロメトラン・ クレゾールスルホン酸カリウム 鎮咳配合剤(1) カルボシステイン	全身紅斑	回復	キットにてB型インフルエンザ陽性にて、リン酸オセルタミビル処方。夜、本剤1回目服用。服用2日目、朝、夕服用後、四肢の紅斑が出現。紅斑発現2時間後、徘徊、両上肢、手指のケイレン出現。1時間で軽快。服用3日目、朝、前日夜出現した紅斑が急速に全身に拡大してきたため、再来院。他院皮膚科に紹介入院。	異常-241	
272	B-07000065	女性	15歳	150 mg	臭化水素酸デキストロメトラン カルボシステイン 塩化デカリニウム アセトアミノフェン	異常行動	回復	発熱38℃、咳あり。インフルエンザB型治療のため、夕食後にリン酸セルタミビル75mg服用。深夜、眠っていたが、突然起き上がり、部屋中を走り出したため、家族が制止した。目つきも怪しかった。異常行動発現。異常行動回復。本剤服用中止。	異常-242	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）

（販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No.	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No.	備考
273	B-07000078	男性	15歳	150 mg	フマル酸エメダスチン カルボシステイン 塩酸エブラジノン	異常行動 妄想 幻覚	回復 回復 回復	B型インフルエンザに対して、リン酸オセルタミビル処方。本剤服用3時間30分後、徘徊、発現。トイレに行くといつて玄関の方へ歩いていくが家族によって制止され、その後眠った。服用2日目、朝、本剤服用1時間30分後、トイレで号泣しているのを家人が発見。「母が死んだ」「怖い人が来る」等の妄想、幻覚が出現。30分後には自然に回復。本剤服用中止。服用開始から3日目、熱が引かないため、セフトリアキソンナトリウム処方。全身状態は悪くないとのこと。	異常-243	
274	B-07000108	女性	15歳	75 mg	非ピリン系感冒剤(4)	異常行動	回復	インフルエンザAに対して、リン酸オセルタミビル服用開始。服用6時間後(1:30頃)、2階から突然飛び降りた。飛び降りた瞬間に意識が戻った。本人の申告では、ガラス窓と雨戸を空けて、戸外にとびおりたその瞬間に気づいたとのこと。服用8時間後(3:30頃)、家族が外に転落しているのを発見。翌朝、救急で搬送。CT、レントゲン異常みられず帰宅。	異常-244	
275	B-07000259	男性	15歳	75 mg		異常行動	回復	B型インフルエンザと診断。夜、リン酸オセルタミビル服用後、就寝。翌朝、朦朧として起床、室内を徘徊し、突然、自宅2階ベランダの柵を越え飛び降りようとした為、母親が制止した。その後、意識回復したが異常行動の記憶はほとんど無い。	異常-245	
276	B-07001356	男性	15歳	75 mg*	アセトアミノフェン	異常行動	回復	インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル投与開始。服用3日目、服用後に患者が異常に本剤を欲しがり、母親の首を絞めるなどの異常行動あり。翌日、異常行動回復。	異常-246	
277	B-07001670	女性	15歳	75 mg	アセトアミノフェン	大発作痙攣	回復	39.2°Cの発熱を主訴に初診。インフルエンザB型の診断にて、リン酸オセルタミビル処方。同日夜、風呂場に行き、浴槽で頭を打ちつける異常行動を発現。出血(少量)あり。失禁あり。意識清明まで5、6分。その後、強直発作10秒認める。発熱は一度37°C台に戻るが、再び38°C台に上昇。その後、就寝。深夜、トイレに行ったときに脱力し、意識消失。約1分後に回復したが、その後10分程度ボーっとした状態であった。その後、通常に戻り就寝。徐々に平熱となった。	異常-247	
278	B-08006353	男性	15歳	75 mg	アセトアミノフェン	異常行動	回復	迅速検査実施にてインフルエンザB型と診断。インフルエンザ症状緩和のため、リン酸オセルタミビル、アセトアミノフェン、他剤の服用開始。服用3日目、体温37.0°Cあり、患者は登校できなかった。服用5日目、体温は正常範囲に治まったが、嗜眠状態は続いていた。服用6日目、登校。授業中、患者は姿勢よく正座をし、大きな声で歌い始めた。他の生徒とコミュニケーションをとることはできず、患者の目には彼らが入っていなかった。患者はせん妄状態だった。両親が患者を家に連れて帰ったとき、患者は再度嗜眠状態となった。行動には明らかな異常は認められなかったが、患者は学校に戻りたがってはいなかった。本剤服用終了から4日目、両親に連れられ、医療機関受診。本剤による異常行動を疑われ、搬送。尿検査、血液化学検査、頭部CT、脳MRI、脳波測定等一連の検査で異常は認められなかった。入院前の診察で患者は「自分のマスクに虫がいる」と言っており、幻覚が発現していることが疑われた。入院時、せん妄に特徴的な症状が認められた。患者は静脈を抜き取ろうとし、さまなければ家に帰りたいと叫んだ。「ここは病院ではない。老人ホームだ」と言った。本剤服用終了から6日目、放射断層撮影検査を受けることはなかったが、患者は建物に入るのを嫌がり、患者が興奮したため全ての検査を終了することはできなかった。本剤服用終了から7日目、病院受診の際、自分の番までじっとしていることができず、病院の外の道で車に轢かれそうになりながら走り回った。その後、特に大きな問題もなかったため、両親に連れられて登校を試みた。数日目正式に退院。患者の異常行動は、携帯で友人からのメッセージを読んだ後にだけ発現することが分かった。このことを患者自身とても恥ずかしく思っているが、自分が何をしたかを思い出すことはできなかった。異常行動後、患者は全くの正常状態に戻った。異常行動は回復。これらのイベントの期間中、アルコールの摂取はなかった。		2008/4/1以降 新規報告

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
 （販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No.	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No.	備考
279	B-05021030	男性	16歳	75mg	非ピリン系感冒剤(4) セラベプターゼ アセトアミノフェン イブプロフェン	激越	回復	インフルエンザA診断後リン酸オセルタミビル投与開始。翌日興奮状態で自宅を飛び出していき、しばらくして帰宅(本人は覚えていない)。その後解熱、興奮(異常行動)回復。	異常-248	
280	B-06025041	男性	16歳	150mg		異常行動 傾眠 失見当識	軽快 軽快 軽快	インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル処方。投与開始3日後、平熱。異常行動(いきなり立ち上がり、ボーとしているなど)、意識障害(傾眠)、意識障害(失見当識)発現。経過観察の為、入院。 投与終了4日後、症状改善し、退院。 退院4日後まで、見当識障害あり。 翌日、異常行動、意識障害(傾眠)、意識障害(失見当識)軽快。	異常-249	
281	B-06025191	男性	16歳	150 mg		譫妄	回復	過去に本剤内服あるが、その時副作用なし。 高熱(39℃)が出たため、姉に処方されていた本剤を服用し、受診。 その後、せん妄状態発現(約30分間持続)。 あばれだすようになったが、自室に入った。せん妄状態で発熱(39℃)が続いており、落ち着いた頃に本剤を追加服用。 庭に倒れていたところを家族が発見、中2階から転落した様子だが、本人記憶なし。 せん妄状態回復。 翌日、来院、高熱(38.9℃)継続。	異常-250	
282	B-06025425	男性	16歳	75mg	クラリスロマイシン 塩化リゾチーム 塩酸アンブロキシソール アセトアミノフェン	意識変容 状態	回復	発熱(37.2℃)、頭痛、咳、鼻症状、関節痛、倦怠感があり、確定診断後、夕方本剤を服用。 夜間帯、ボーっとした感じでベランダに出て行き失踪。 本人が素足のまま帰宅する。本人は、この間の記憶が全くない。	異常-251	
283	B-07000240	男性	16歳	150 mg	バルプロ酸ナトリウム 酢酸デスマプレシン	異常行動	回復	インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル服用開始。服用3日目、暴れだし、階段から飛び降りようとするが、母親がせき止める。同日、本剤服用終了。服用終了3日目、異常行動回復。	異常-252	
284	B-07003912	男性	16歳	150mg	葛根湯 アセトアミノフェン	異常行動	回復	インフルエンザA型の診断にて、リン酸オセルタミビル処方。夕方より、本剤服用開始。発熱もおさまっていないのに、とにかく走りたくてしかたがない気分となり、家を飛び出して20分程度ランニングして帰宅。止めることのできない行動であった。 投与開始4日目、熱も下がり、明らかなインフルエンザ症状は改善したにもかかわらず、食欲は極めてあるのに約10日間学校に行くことができない、寝ていなくてはならないしんどさが続いた。 投与開始5日目、朝、本剤服用後、服用終了。	異常-253	
285	B-07005448	男性	16歳	75 mg	アセトアミノフェン テオフィリン	異常行動	回復	夕方、40℃の発熱あり。インフルエンザB型の診断にて、リン酸オセルタミビル処方。夕方より服用開始。 未明、急に起き上がり、靴も履かず寝間着のまま外へ飛び出す。近くのコンビニへ行くも10分位で帰宅。その後再び就寝。服用2日目、起床。39℃台の発熱持続。昨夜外出したことは断片的に記憶あり。	異常-254	
286	B-08028874	男性	16歳	75 mg	カルバマゼピン アスピリン メクロプラミド ラクトミン 塩酸ミドドリン	異常行動	回復	基礎疾患があるため親からの要望で、インフルエンザ治療のためリン酸オセルタミビル処方。気分が悪かったので翌日の服用中止。 2回服用し、投与終了。 本剤服用終了から4日目、異常行動発現。大声を出すなど異常行動がみられ近くの内科に入院となったが、階段をのぼったり、9階から1階まで降りたりを数回くり返す症状があり、内科病院では管理ができないため精神科の病院へ転院治療を受けた。 本剤服用終了から約1ヶ月目、症状改善したとの連絡があった。		2008/4/1以降 新規報告

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
 （販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No	備考
287	B-04007197	男性	17歳	75mg	アセトアミノフェン	幻覚 下肢骨折	不明	インフルエンザA型と診断、リン酸オセルタミビル75mg及びアセトアミノフェンを処方。同日夕方、自宅2階より飛び降り両下肢骨折し、入院。主治医によると本剤を服用していない可能性もあるとのこと。	異常-255	
288	B-04008399	男性	17歳	75mg	塩酸アマンタジン アモキシシリン セラペプターゼ 塩酸アンブロキシソール 耐性乳酸菌製剤(3) ソファルコン	異常行動	死亡	塩酸アマンタジン他を処方。翌日、インフルエンザA型と診断、塩酸アマンタジンを中止し、リン酸オセルタミビル75mgを処方（併用薬は継続）。昼食後内服し、約2時間後、突然素足で飛び出し、1m以上のコンクリート塀を跳び越え線路を横断し、ガードレールも越えトラックにはねられた。胸部外傷によるショック死。主治医によると、平成14年2月に本剤を5日間投与しているが異常なかったとのこと。	異常-256 死亡-16	
289	B-05021111	男性	17歳	150mg	アセトアミノフェン 非ピリン系感冒剤(4) 塩酸エブラジノン アズレンスルホン酸ナトリウム・L- グルタミン	妄想(妄想)	回復	インフルエンザA治療のためリン酸オセルタミビル投与開始。その夜、家人を見て怖い怖いとベランダから逃げるような行動をとる。妄想発現。救急外来受診。翌日回復。	異常-257	
290	B-07000087	男性	17歳	75 mg	塩酸セチリジン	異常行動 自殺企図	回復 回復	インフルエンザB治療のため、リン酸オセルタミビル服用開始。夕方、洗面台の上に立ち上がり、自殺すると20分ほど叫ぶ等の異常行動発現。その後、リビングを駆けまわる。ピョンピョンとぶ。「もうダメだ、どうにもならない、外に出ないと」と興奮。発現4時間後、落ちつくが、本人は覚えていない。夢の中で何か興奮していたと本人は言っている。翌日、舌がマヒ、服用4日目、異常行動回復。	異常-258	
291	B-07004079	男性	17歳	150mg	アセトアミノフェン	異常行動	回復	インフルエンザA型治療のため、リン酸オセルタミビル服用開始。夜、突然トイレに行き、その後ロックを外し外に出ようとする。ベランダに出た時は飛び降りようとしたので、母親が必死に止め、事なきを得た。翌日、異常行動回復。	異常-259	
292	B-05025437	男性	18歳	150mg	アセトアミノフェン 塩酸アンブロキシソール	異常行動	回復	A型インフルエンザにてリン酸オセルタミビル服用開始(39.1℃)。2回目服用2.5時間後に突然寝ていたが起きだし、外に飛び出し15分後に戻る。その間記憶なし。翌日(36.7℃)外来受診し本剤中止、異常行動回復。	異常-260	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
（販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No	備考
293	B-06026848	女性	18歳	150mg	麻黄湯 アズレンスルホン酸ナトリウム	転倒 自傷行動	後遺症 回復	本年3月19日、インフルエンザBと診断。リン酸オセルタミビル5日分等処方される。 処方5日目（3月23日）朝、本剤75mg服用し、その後本剤の服用はしていない。 微熱は続いていたが、咳、痰はなかった。 3月25日朝より手首を傷つけたり、死にたいなどと口走るようになり、家族が気をつけていたが昼頃2階の窓より飛び降りて胸腰椎を骨折。	異常-261	
294	B-07013137	男性	18歳	150 mg		異常行動 異常行動	不明 回復	以前、リン酸オセルタミビルを服用し、外に飛び出る異常行動発現。 A型インフルエンザ（体温39.2℃）に対して、リン酸オセルタミビル服用開始。 服用2日目、家から飛び出していた。本人は何故家から出たかの記憶がない。 本剤服用中止。	異常-262	
295	B-07013376	男性	18歳	150 mg		異常行動	回復	夕方、B型インフルエンザに対して、リン酸オセルタミビル処方。1回目服用2時間後、暴れて外に飛び出そうとしたところを父親が確保。 服用2日目、夕方、本剤服用後も暴れるが、父親が確保。 服用3日目、朝、本剤服用時には症状は発現しなかった。夕方、本剤服用。 本剤3日間服用し、インフルエンザ症状は回復。2回の異常行動について本人の記憶はなかった。	異常-263	
296	B-05022154	男性	19歳	75mg	ジクロフェナクナトリウム 臭化水素酸デキストロメトラン 塩化リゾチーム アズレンスルホン酸ナトリウム・L-グルタミン クラリスロマイシン バファリンA	激越 落ち着きのなさ	回復	高熱（40.2℃）のため、受診。 咽頭部の発赤、腫脹あり。本剤、ボルタレン他を処方。 帰宅後、本剤、ボルタレン他を服用し、38℃に解熱。 その後、嘔吐し、睡眠する。本剤の服用は中止している。 突然覚醒し、興奮状態（大声を出し、興奮状態でドアをこぶして叩き壊し、膝蹴りなどでテレビを割るほど殴る：3～4分間）となり、両手甲部に外裂傷。 3時間半後、体温39℃になり、精神状態も落ち着く。 翌日、体温37℃、不穏状態、興奮状態は回復。	異常-264	
297	B-06005344	女性	19歳	150 mg	酒石酸ゾルピデム エチゾラム 非ピリン系感冒剤(4)	自傷行動 健忘	回復 回復	インフルエンザ（診断確定未実施）治療のためにリン酸オセルタミビルの服用を開始した。投与開始から5日目に自傷行為と記憶消失が発現し、約5時間後に回復した。服用開始から6日目にインフルエンザが軽快している。	異常-265	
298	B-07007066	男性	19歳	75mg	アセトアミノフェン 葛根湯	異常行動	軽快	前日昼頃、発熱、咳、鼻汁の症状あり。インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル、アセトアミノフェンを服用し帰宅。服用1時間後、うつろで状態がおかしかった。服用4時間後、大声で叫んだり、わめき騒いだような状態で、家族の制止聞かず自室からでていこうとするような異常行動あり、救急車にて搬送。経過観察が必要と判断し即入院。	異常-266	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
 （販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No.	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No.	備考
299	B-08028880	女性	19歳	75 mg	クラリスロマイシン 鎮咳配合剤(1) 塩酸ツロプテロール 塩酸アンブロキシロール	躁病	未回復	インフルエンザ治療のためリン酸オセルタミビル服用。 服用2日目、統合失調症様症状伴う躁状態が発現。気分高揚を自覚。 本剤投与終了から4日目、「私は死んだほうがいい」とベランダから飛び降りようとする行為(母が制止)や「大学は私が創った」といった誇大妄想や人物誤認などがあった。 本剤投与終了から5日目、当院入院中で、薬物療法を継続中。		2008/4/1以降 新規報告
300	B-05023219	男性	20歳	150mg	不明	躁病	軽快	躁うつ病の家族歴あり。 発熱(39.4℃)、咳、鼻症状にて確定診断後本剤処方。夕刻39.7℃内服開始。 翌朝36℃台となるが、夜寝ようとしてもソワソワして眠れなかった(躁状態)。 本剤の服用が終了しても、躁状態継続し、歩き回り、入院となる。	異常-267	
301	B-06022861	男性	20歳	150 mg	塩酸プロカテロール	異常行動 過換気	軽快 回復	インフルエンザA型治療のため、リン酸オセルタミビル投与。当日、異常行動、過換気発現。寝ようとしたら急に不安になって叫びだしたりした。約5時間睡眠後、異常行動軽快、過換気回復。	異常-268	
302	B-07013249	女性	20歳	75 mg	アセトアミノフェン 塩酸プロムヘキシ 酪酸菌製剤 ポビドンヨード 塩酸エブラジノン	譫妄 異常行動	回復 回復	A型インフルエンザに対して、リン酸セルタミビル処方。服用後、数時間でうわごと、フラフラと無意識に歩行(この段階では高熱状態継続)。服用2日目、母親、患者の判断により、本剤中止。熱はほぼ平熱に低下。異常行動は回復。	異常-269	
303	B-07003477	男性	23歳	75 mg	塩酸アンブロキシロール 塩酸セフカベンピボキシル レバミピド アセトアミノフェン 塩酸モサプラミン リスペリドン 塩酸ピベリデン クロルプロマジン・プロメタジン配合剤(1)	異常行動	不明	A型インフルエンザと診断され、塩酸アマンタジン、カルボシステイン、塩酸セフカベンピボキシル、レバミピド、アセトアミノフェン(頓用)処方。精神病薬を服用している。塩酸アマンタジンからリン酸オセルタミビルに変更。帰宅し本剤服用後、自宅マンション6階から飛び降りる。患者は一命を取り留めるが、現在身体障害者となっている。 なお、患者はもともと熱を出すとフラフラする体質で、異常行動を起こす前にもめまい等起こしている。 (2004年の症例)	異常-270	
304	B-07013331	男性	23歳	150 mg		異常行動	回復	インフルエンザ陽性に対して、リン酸オセルタミビル服用開始。服用開始5~6時間後(夕方)に急に玄関に飛び出し、玄関前にてぼっと立ってぼんやりしている所を親が発見した。その後、意識は回復。患者はその事を覚えていないとのこと。	異常-271	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
 （販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No	備考
305	B-07003186	女性	24歳	150 mg		異常行動 感情不安定	回復 回復	インフルエンザB型と診断され、リン酸オセルタミビル服用開始。服用後、熱がさがった。 投与開始2日目、元気になった。夜、異常行動、感情失禁発現。吐き気あり。気分が高揚し、走り出したい気分となり、何をみても笑いが止まらない状態となった。自制しようとする意識もあるが、走り出したい自分を止められず、家族に助けを求める。発現1時間後、大声で笑いが止まらない。そのうち笑いが止まらないことに対して泣き出す。見当識障害多少あり。 投与開始3日目、朝、ほぼ元通りの人格に戻った。	異常-272	
306	B-06025316	男性	26歳	150 mg	クラリスロマイシン リン酸ジメモルファン 塩化リゾチーム アセトアミノフェン ジクロフェナクナトリウム	自殺企図	回復	インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル処方。本剤服用後、異常行動（自殺企図：マンションの渡り廊下に登ろうとする。何かにおびえた様子で「死んでから謝ろうと思った」と発言）発現。 落ちてから話をすると自分のとった行動に記憶があり、当時不安になるような心当たりはまったくないと由。 翌日、約2時間後に再び異常行動。	異常-273	
307	B-03001089	男性	28歳	75mg	クラリスロマイシン セラベプターゼ 消化酵素 耐性乳酸菌	気分変動	回復	発熱、咳、咽頭痛等有り受診、A型インフルエンザと診断。治療目的にてリン酸オセルタミビル投与。本剤投与10分後、気分変動有り、何をするか分からない（例えば刃物を振り回すかもしれない）感じがした。玄関の辺りでドアを蹴飛ばしたりした後、倒れていたため、救急搬送される。病院にて処置を受けた後帰宅。その後、症状回復。	異常-274	
308	B-07001666	男性	30歳	150mg	アモキシシリン	異常行動	回復	インフルエンザに対して、リン酸オセルタミビル処方。 服用3日目、寝ていきなり起きあがり包丁を持つ。 服用4日目、寝ていきなり、道路に飛び出した。 服用5日目、本剤服用中止。 中止1日後、意識清明。	異常-275	
309	B-06025192	男性	32歳	75 mg	葛根湯 ロキソプロフェンナトリウム	異常行動	回復	発熱あり。インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル服薬4時間後に錯乱状態となり、自宅2階から飛び降り、足を骨折。 骨折のため、他院を受診、その際意識もはっきりしており、体温も36℃台であった。 4日後、整形外科で手術。 入院中、意識レベル正常、異常行動回復。	異常-276	
310	B-06026629	女性	32歳	150 mg	維持液(3) アスコルビン酸 スルピリン・アミノプロピロン配合剤 フルスルチアミン 塩酸リンコマイシン	意識消失 健忘 脱毛症	回復 回復 軽快	リン酸オセルタミビル服用3時間後、夜目が覚めて気がついたらトイレに行っていた。その間の記憶がない。	異常-277	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
 （販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No	備考
311	B-07013314	女性	32歳	150 mg		幻覚	回復	インフルエンザに対して（体温は39～40℃）で、リン酸オセルタミビルを服用開始。同日夜、幻覚がみられた。（階段をかけ下りる。）服用3日目、口内炎が発現。本剤中止。その後、幻覚は回復。	異常-278	
312	B-03000831	女性	35歳	150mg	アセトアミノフェン 安息香酸ナトリウムカフェイン 開始液 セフトキシムプロキセチル 塩化リゾチーム d-マレイン酸クロルフェニラミン サリチル酸ナトリウム 鎮咳剤 アスコルビン酸・L-システイン カルボシステイン	不安 知覚過敏	回復	発熱（38～39℃）、頭痛、関節痛、咽頭痛、咽頭発赤、不穏状態にて本剤投与開始。 翌日の夜中、不眠、不安発現。服用中止。 翌日、幻覚発現し、来院。その後も興奮状態続き、知覚過敏が発現。 その2日後、不眠、不安、興奮状態、知覚過敏、幻覚は次第に消失。 その5日後、回復	異常-279	
313	B-08027728	女性	30歳代	投与量 不明		異常行動	不明	インフルエンザ治療のためリン酸オセルタミビル服用開始。発熱あり。 異常行動発現。夜に熱が出て、トイレに行き出たところから記憶がない。トイレから出てきた後、家の中を走り回り、テレビ台に激突し、怪我をした。医師を呼ぼうかとの問いかけに対して「いらない」と答え、原因不明の腹痛もあったがそのまま就寝。その際の記憶もない。		2008/4/1以降 新規報告
314	B-06026663	女性	40歳	150mg	炭酸リチウム バルプロ酸ナトリウム エチゾラム ロフラゼパ酸エチル マレイン酸フルボキサミン	不思議の 国のアリス 症候群	回復	インフルエンザB型と診断。リン酸オセルタミビル75mg投与後比較的早く、浮遊感が出現。マンション4階に居住しているがベランダから下をみるとあたかもすぐ近くに地面があるかのごとくの錯覚あり。 鳥の姿がみえるなどの幻視もあったが夫に止められ事なきを得た。	異常-280	
315	B-06026707	男性	45歳	150mg	レバミピド セラベプターゼ ヒベンズ酸チベピジン 塩酸エピナスチン	意識変容 状態	回復	A型インフルエンザの診断にて、リン酸オセルタミビル150mg/日処方。歩行中、自分の前後の記憶が一部飛んでるのに気付く。また、踏切の遮断機がおりているのに気付かず、踏切板が頭に当たって恐怖を感じる。	異常-281	
316	B-07000244	女性	48歳	150mg	非ピリン系感冒剤(4) カルボシステイン 塩酸シプロヘプタジン 鎮咳配合剤(1) ジクロフェナクナトリウム 酢酸リンゲル液(ブドウ糖加)(2-2)	錯乱状態	回復	インフルエンザAと診断。午後よりリン酸オセルタミビル服用開始。投与4日目、朝から何度も外出しようとして家族に連れ戻される。午後より、訳のわからないことを言いはじめる。投与5日目、錯乱状態。	異常-282	
317	B-06004486	男性	49歳	150mg	非ピリン系感冒剤 アスピリン ヒベンズ酸チベピジン リン酸ジメモルファン ブラプロフェン 塩酸セトラキサート	死亡	死亡	期外収縮及び心房細動の患者。発熱、咳、鼻症状、関節痛及び倦怠感があり、インフルエンザの疑いで、リン酸オセルタミビルを服用開始（併用薬は左記のとおり）。服用3日目の夜、家人に気づかれないまま車で外出。自宅より30km離れた海の岸壁で車が発見され、人が海に落ちた形跡あり。約2ヶ月後、海中より死亡した本人が発見された。	異常-283 死亡-36	
318	B-06026847	男性	49歳	150mg	酒石酸ソルピデム	自殺企図	回復	1日分処方1週間後、自殺未遂。首をつろうとしていたのを家族が発見。自殺未遂前に本剤内服していたかは不明。	異常-284	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
 （販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No.	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No	備考
319	B-05025724	男性	51歳	75mg	アセトアミノフェン アミノ酸・糖・電解質(2-3)	精神症状 自殺既遂	不明 死亡	肺結核後遺症に伴う慢性呼吸不全に感冒を合併し入院。経過は良好であったが入院7日目に院内でA型インフルエンザに感染。18時頃、両下肢のしびれ感などの合併があり、将来の健康に関して全般的な不安を訴えていた。19時頃に本剤服用開始(体温39.2℃ありアセトアミノフェンを本剤とともに服用)。22時の体温は37.3℃。翌朝5時に生存を確認。6時30分病床不在確認、7時39分飛び降りて死亡しているのが発見された。自室のノートに遺書有り。	異常-285 死亡-51	
320	B-07000264	男性	51歳	150 mg	ジクロフェナクナトリウム アズレンスルホン酸ナトリウム・L-グルタミン	意識変容 状態	回復	インフルエンザ検査陰性。リン酸オセルタミビル投薬。夕方、本剤、ジクロフェナクナトリウム服用後、しゃべりにくくなり、また身体が痛く動けなくなる。夜中、他院に受診。インフルエンザ検査陰性。以後本剤服用せず。車で移動中に車から道路に出ようとした。	異常-286	
321	B-07000076	男性	54歳	75 mg	スピロラクトン レボチロキシナトリウム ニフェジピン 塩酸ジルテアゼム フロセミド	異常行動 譫妄 腎不全	不明 不明 不明	インフルエンザ罹患3日前、糖尿病により右足を形成外科にて手術を受ける。入院。高熱あり。診断キットにてインフルエンザA陽性のため、リン酸オセルタミビル75mg1日2回服用。夜、ベッドから降りベッドの柵に頭を何度も打つ、その後、部屋から出ようとして看護師に制止されるが暴れまくる。後に意識が回復し看護師が暴れていたことを伝えたところ当時の記憶はなかった。服用開始3日目、本剤投与後再度、異常行動、せん妄がみられベッドの上に立つ等の行動があった。CTにて脳出血等の異常なし。腎不全の疑いもあり。異常行動はジアゼパムで鎮静。	異常-287	
322	B-08027574	女性	55歳	150 mg	カルボシステイン セラペプターゼ レバミピド ポピドンヨード 乳酸リンゲル液(マルトース加) チアミンジスルフィド・B6・B12配合剤	意識消失	回復	朝当院受診し、インフルエンザA型と診断。リン酸オセルタミビル、ビタミン剤等を処方。午後および就寝前に本剤服用したところ、翌朝、意識消失発現。朝食準備中意識消失あり。気がつくと床に倒れていた。その後、勝手口まで歩き再び意識消失し、地面に倒れた。顔面打撲あり。勝手口まで歩いた記憶もない。本剤中止。服用中止後、再発なし。		2008/4/1以降 新規報告
323	B-05020017	男性	56歳	150mg		精神症状 (精神症 状)	回復	インフルエンザ治療目的としてリン酸オセルタミビル投与。本剤服用4日目、夜分服用し2時間後に精神症状発現。突然うつ状態になり、自殺したくなる。窓から飛び降りたくなる衝動にかられる。翌日、精神症状回復したが、本剤服用を自発的に中止。	異常-288	
324	B-05024386	男性	58歳	150mg	アミノフィリン リン酸ベタメタゾンナトリウム フロモキシセフナトリウム 維持液(3) プロピオン酸フルチカゾン テオフィリン 塩酸フェキソフェナジン ファモチジン	意識変容 状態 呼吸困難	回復 回復	A型インフルエンザの確定診断を受け、リン酸オセルタミビルを投与開始初日の夕方と就寝前に服用。投与開始から2日目の午前5時に呼吸苦が発現し、暴れ出した。また、意識障害が発現した。呼吸苦は発現当日に回復し、意識障害は発現翌日に回復した。	異常-289	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）

（販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No	備考
325	B-07000263	男性	58歳	150 mg	酒石酸ゾルピデム 鎮咳配合剤(1) ロキソプロフェンナトリウム デブレン 乳酸リンゲル液(マルトース加) アセトアミノフェン	意識変容 状態 譫妄	回復 回復	B型インフルエンザと診断し、乳酸リンゲル液、リン酸オセルタミビル、アセトアミノフェン処方。夜、本剤服用2～3時間後、就寝。 服用2日目、朝、本剤服用中止。起床1時間後、意識障害、せん妄発現。患者より、本人の言動がおかしい(知らない人がここにいるとか、何か見るとか幻視がある)との連絡有。起床3時間後、来院。全身の脱力感とせん妄状態あり。沈静目的でフェノバルビタール投与するも改善しないため、一過性の脳虚血発作を疑い、検査入院依頼。結果、脳虚血発作の可能性は薄いとのこと。昼過ぎ、点滴除去や院内より脱走する様な異常行動あり、脳外科へ転科。インフルエンザは回復。 服用から3日目、意識障害、せん妄回復。	異常-290	
326	B-06025002	男性	59歳	150 mg		異常行動	未回復	インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル投与開始。異常行動発現。本人に記憶なし。本剤投与中止。本剤服用5日後、症状は回復傾向であるが、異常行動未回復。	異常-291	
327	B-07019905	女性	60歳	150 mg		異常行動	回復	リン酸オセルタミビル服用後、睡眠中に目の前が真っ赤になり、火事だと思い、家から飛び出した。また、菊の花が見えて、それを取ろうとすると花が前にすすんで取れない。このような状況で怖くなり、なるべく寝ないようにしてい	異常-292	
328	B-07018337	女性	61歳	75 mg	トリクロルメチアジド ロサルタンカリウム ベシル酸アムロジピン メシル酸ベタヒスチン 2339224 アルブラゾラム 酸化マグネシウム ウルソデスオキシコール酸 ファモチジン ポリエンホスファチジルコリン	異常行動	回復	関節痛、鼻炎症状、発熱のため受診。インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル処方。本剤1回目服用数時間後、横断歩道にて待機中、信号は赤であるにも関わらず、ふわっとした感じで飛び出してしまいそうになった。車のクラクションを鳴らされ、無事であった。その後は服用せず。	異常-293	2008/4/1以降 追加報告

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
 （販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No.	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No	備考
329	B-08028415	女性	61歳	150 mg	アセトアミノフェン	異常行動	回復	インフルエンザ確定診断実施にてインフルエンザ抗原Aが検出され、リン酸オセルタミビル服用。 本剤服用30分～1時間後、精神障害、異常行動発現。ねむっている状態から起き出し、歩きまわる、ぶつぶつ一人言を言ったり、手で腹をたたきながら歌ったりする。 昼間、同様なことがおこる。約5時間後、副作用は消える。平熱時に本剤を服用しても同様の症状が現れる。本人の自覚はじっとしていられなくなるなど。また、熱いので窓を開けて外を見たら5、4階に住んでいるのに芝生が1階に住んでいるように上昇して見えた。		2008/4/1以降 新規報告
330	B-08028146	女性	62歳	投与量 不明		異常行動	不明	インフルエンザと診断され、リン酸オセルタミビル処方。 服用開始より3日目、夜に異常行動発現。知らない間に歩き回った（隣のマンションにいた）。		2008/4/1以降 新規報告
331	B-06025118	男性	64歳	150mg	塩酸アミトリプチリン アロプリノール 沈降炭酸カルシウム アスピリン オメプラゾール マレイン酸エナラプリル ベシル酸アムロジピン アルファカルシドール ポリスチレンスルホン酸カルシウム	精神状態 変化	不明	合併症としてうつ病、慢性腎不全あり。 発熱(39℃)、倦怠感あり、インフルエンザAと診断され、リン酸オセルタミビル投与。 翌日中、ぼんやりして立ちつくす。夜、不眠、じっとしていられず動き回る。投与3日目、本剤服用中止（計5カプセル服用）。服用終了後5日目、落ち着かない様子あり。 服用終了1週間後、「死にたい」、「殺してくれ」と言い、落ち着かない。服用終了10日目、体調不良を訴える。36.5℃の熱。ボーとしているが、落ち着かない印象あり。夕方、灯油をまき、自殺するつもりでマッチで火をつけたが、すぐに消火され保護される。	異常-294	
332	B-05018850	女性	67歳	150mg	インフルエンザHAワクチン 塩酸パロキセチン フルニトラゼパム 酒石酸ゾルピデム 塩酸ラロキシフェン アセトアミノフェン	劇症肝炎	不明	2日前、インフルエンザワクチン接種。 発熱、咽頭痛より、インフルエンザを疑い本剤5日間投与。 投与終了1日後、急性肝炎疑いで入院。 投与終了5日後、ベットより飛び降りたり、大声で叫ぶ。血漿交換のため転院。	異常-295	
333	B-08030324	男性	69歳	75 mg		異常行動	回復	咳、痰あり。インフルエンザ陽性にてリン酸オセルタミビル服用。体温37.4℃（その後も上がらず）。 服用4日目、明け方、異常行動発現。一人2階のベランダに佇む患者を家族が発見。（翌日記憶なし）。 日中、家の壁にムカデ、ゴキブリが無数にいるとの幻覚。心配になった家族が他院に連絡相談したところ、本剤の服用中止を指示された。 翌日、寝室に軍服の軍人が3名手招きをする幻覚が発現。（軍人の幻覚はその後も度々続き、後半は会話をしていた）。 本剤服用終了から3日目、深夜2階に寝ていたはずの患者が突然玄関に現れた。大きな怪我はないものの顔や衣服に泥がついており擦り傷もみられたことから、どうやら2階から転落、もしくは飛び降りた様子。救急車にて当院に搬送。インフルエンザ脳症を疑い脳波、MRI等の各種検査実施。治療は特に行わずルート確保の補液のみ。入院。 本剤服用終了から7日目、異常行動の転帰は回復。		2008/4/1以降 新規報告

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
 （販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No	備考
334	B-06001534	男性	71歳	150mg	塩酸プラソジン メチルドパ ロラタジン ヒベンズ酸チペピジン 非ピリン系感冒剤(4) 塩酸セトラキサート 鎮咳配合剤(1) セネガ	平衡障害 異常行動	回復 回復	A型インフルエンザで発熱(38.0℃)が見られ、リン酸オセルタミビルの服用を開始した。服用開始から約2時間後に平衡機能障害が発現し、約5時間後に回復した。初回服用から約5時間後にリン酸オセルタミビルを服用し、約2時間後に異常行動(田植えをしている動作)が発現し、約24時間後に回復した。	異常-296	
335	B-06017551	女性	71歳	150mg	アミノフィリン アジスロマイシン水和物 モンテルカストナトリウム プロチゾラム 塩酸クレンブテロール ファモチジン チアマゾール フドステイン ブレドニゾン アセトアミノフェン	譫妄	回復	喘息、甲状腺腫の既往歴あり。気管支喘息のため入院後、アミノフィリン、ブレドニゾン投与後、アジスロマイシン水和物を処方。発熱があり、インフルエンザAによりリン酸オセルタミビルの投与開始。4日後夜、失禁、夜間せん妄発現。翌日朝以降症状なし。5日後まで投与継続、インフルエンザ回復。	異常-297	
336	B-05000692	男性	72歳	150mg	非ピリン系感冒剤(4) アセトアミノフェン	痙攣 意識変容 状態	回復	38℃の発熱と咳嗽により受診、インフルエンザBと診断され、リン酸オセルタミビルを4日間投与。突然大きないびきと共に暴れ出す。意識障害と痙攣、全身間代性発作発現。7分後発作消失。意識は約1日半後清明となる。高CK血症、GOT、LDH上昇あり。	異常-298	
337	B-05000875	男性	72歳	150mg	エスタゾラム トリアゾラム 酒石酸ゾルピデム プロムワレリル尿素 エチゾラム ジアゼパム ワルファリンカリウム 塩酸チクロピジン 塩酸メホルミン マレイン酸トリメブチン シルニジピン	譫妄(せん妄)	回復	脳梗塞、胃癌、不眠症、糖尿病、高血圧の既往症。39℃の発熱があり受診、インフルエンザBと診断され、リン酸オセルタミビルを投与。当日解熱したが、夕食後本剤を服用、同時に常用薬の眠剤も服用。その後せん妄が発現。部屋を引っかき回したように荒らしている。翌朝にはせん妄は回復。解熱まで眠剤の服用を禁止し、本剤と他の薬品の服用時間をずらすよう指示したところ発現せず。	異常-299	
338	B-08016131	男性	73歳	75 mg	ニコランジル クエン酸モサプリド 塩酸セベラマー 酒石酸イフェンプロジル オルメサルタン メドキシミル ランソプラゾール センノシド アセトアミノフェン アズレンスルホン酸ナトリウム・レ グルタミン	異常行動	回復	糖尿病性腎症による外来維持患者。歩行困難で来院され、体温38℃、インフルエンザ陽性で観察入院となる。入院翌日より、リン酸オセルタミビルを服用開始。服用約12時間後、異常行動発現。病棟徘徊し、「家に帰る」と訴える。服用約16時間後、何度も起き上がり、再度、「家に帰る」と訴える。職員が安全性の面からも病室滞在を促すも、理解力低下。不穏状態を示す。透析実施するも言動が少しおかしいとのこと。本剤服用控える。その後も帰宅を希望されつづける。本剤服用終了から3日目、家族と連絡がとれ、熱もさがった。本剤服用終了から4日目、退院。その後異常行動は見られない。		2008/4/1以降新規報告
339	B-05024268	不明	74歳	150 mg		異常行動 大腿骨骨折 幻覚	未回復 未回復 不明	A型インフルエンザで発熱(39.5℃)が見られ、リン酸オセルタミビルの投与開始。投与開始当日に異常行動が発現した。投与開始から3日目にインフルエンザが軽快し、リン酸オセルタミビルの投与が終了した。投与終了翌未明、徘徊。投与終了後から2日目に2階より飛び降りて大腿骨を骨折した。	異常-300	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
 （販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No	備考
340	B-02013397	女性	79歳	150mg	硝酸イソソルビド バルサルタン オメプラゾール 酸化マグネシウム トリアゾラム センソッドA、B センソッド 塩酸パロキセチン水和物 マレイン酸レボメプロマジン	妄想 落ち着きのなさ	軽快	被害妄想顕性化のため入院加療、抑うつ神経症の診断あり。インフルエンザ感染症を疑い、リン酸オセルタミビル150mg/日5日分を処方。投与3日目未明、意味不明語、妄想、不穏、徘徊あり。他剤投薬により少しずつ精神状態安定化。本剤継続。本剤5日間の投与終了後、3日目に症状軽快し、経過観察中。	異常-301	
341	B-06016893	男性	83歳	150mg	テオフィリン コハク酸メチルプレドニゾンナトリウム アミノフィリン 維持液(17)	譫妄	回復	慢性腎不全、洞不全症候群、脳梗塞の治療継続中。ペースメーカー留置。発熱、呼吸苦、低酸素血症、炎症反応によりインフルエンザ確定診断を実施。入院後、点滴(コハク酸メチルプレドニゾンナトリウム、アミノフィリン)及びリン酸オセルタミビルを投与開始。2日目、落ち着きがなくやや興奮気味、せん妄発現、点滴投与中止。3日目夕方よりリン酸オセルタミビル投与中止後、ハロペリドール投与(3日間)。4日目せん妄回復。以降症状なし。	異常-302	
342	B-06025119	男性	83歳	150 mg	オルメサルタン メドキシミル ベシル酸アムロジピン リン酸ジシプラミド アスピリン フルファリンカリウム 塩酸ドネペジル レボフロキサシン ロキソプロフェンナトリウム	異常行動	回復	発熱38.2℃。A型インフルエンザに対して、リン酸オセルタミビル投与開始。本剤投与開始3日目、昼前まで寝床にいた。異常行動(家をとび出し、軽トラか何かで家の周りを、数週まわっていた)出現。その後、除草剤を飲んだ。夜、嘔吐とけいれん出現。意識消失。インフルエンザ軽快・回復。	異常-303	
343	B-08027729	女性	84歳	152 mg		異常行動	回復	インフルエンザA型治療のためリン酸オセルタミビル服用開始。異常行動発現。夜中に覚醒して、「仏壇に金を取りに行く」と言って出口を間違え、外に出る出口を開こうとした。不眠症も数日続いていた。		2008/4/1以降新規報告
344	B-03008735	女性	85歳	150mg	乳酸リンゲル液 医療用酸素	全健忘	回復	上咽頭粘膜のインフルエンザA抗原陽性と診断後、リン酸オセルタミビル150mg/日を投与開始。投与3日目まで有害事象発現せず。最終投与後未明に失見当識及び病棟内徘徊(但しミオクローヌスはなし)。翌朝も記憶力低下が観察される。患者家族と相談の結果退院後、処置なしで回復。但し、有害事象継続中の記憶は欠如のまま。	異常-304	
345	B-05024865	男性	85歳	150mg	アスピリン 酒石酸イフェンプロジル 塩酸タムスロシン ヒトインスリン(遺伝子組換え) 非ピリン系感冒剤(4) 臭化水素酸デキストロメトर्फアン スバルフロキサシン ジクロフェナクナトリウム	譫妄	回復	A型インフルエンザで発熱(38.5℃)が見られ、リン酸オセルタミビルの服用を開始した。服用開始から2日目にインフルエンザが軽快・回復した。投与開始から3日後にせん妄(窓を開けて外へ出るなど)が発現し、せん妄発現から3日目の朝にせん妄から回復した。	異常-305	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）

（販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No	備考
346	B-04027261	女性	90歳	150mg	セフトリアキソンナトリウム レボチロキシナトリウム 硝酸イソソルビド アロプリノール 酸化マグネシウム センノシド フロセミド メナテトレンオン エトドラク 塩酸タムスロシン パンテチン ポリスチレンスルホン酸カルシウム カルボシステイン 鎮咳配合剤(1) 椴皮エキス	譫妄	軽快	慢性腎不全、慢性心不全及び甲状腺機能低下症の既往あり。B型インフルエンザ陽性のため、リン酸オセルタミビル150mg/日を投与（投与開始翌日より入院投与）。投与開始後3日目、せん妄発現。4日目、意味不明の言動、興奮、職員への暴力あり。5日目、意味不明の言動及び興奮は消失するも、覚醒度不良のためリン酸オセルタミビルの服用中止。投与中止後6日目もつづつまの合わない発語が時々あり。7日目、せん妄軽快。	異常-306	
347	B-05025587	女性	90歳	150mg	クラリスロマイシン レバミピド オキサトミド	幻覚 異常行動	回復 回復	発熱(38.6℃)があり、インフルエンザ患者と2日間の接触があったため、リン酸オセルタミビル及び併用薬処方となる(確定診断は行っていない)。投与1日後に平熱となる。本剤5回服用後の夜中、幻覚症状(大声で幻覚症状を訴える)発現し本剤服用中止。本剤中止3日後に幻覚、異常行動(外へ出て座っている等)は回復。	異常-307	
348	B-05001178	男性	94歳	75mg	ロキソプロフェンナトリウム 塩酸チクロピジン センノシド ニフェジピン	胃腸出血	死亡	慢性腎不全、脳梗塞、便秘、及び高血圧の患者。血液透析を約10年前から施行。インフルエンザA型と診断され、入院。当日の夕方リン酸オセルタミビル75mgを服用(併用薬は左記のとおり)。入院4日目の夕方、不穏な行動あり(少し認知症の気があった)、その後嘔吐(潜血反応+)あり。その3日後の夜以降、下血が続き、深夜、呼吸状態が悪化し、血圧低下、心拍数低下となり、次の日の早朝、死亡を確認。	異常-308 死亡-73	
349	B-07013381	女性	94歳	150 mg	アズレンスルホン酸ナトリウム・L-グルタミン 塩酸ベニジピン カルベジロール レバミピド クエン酸第一鉄ナトリウム アソセミド アスピリン・ダイアルミネート カンデサルタンシレキセチル 非ピリン系感冒剤(4) アセトアミノフェン ピレノキシシン	異常行動	回復	インフルエンザA型と診断し、リン酸オセルタミビル服用開始。服用1日目、夜間、訳のわからない発語とともに屋外に出て行ってしまったが、同日、異常行動回復。その後は特に異常行動はなかった。	異常-309	
350	B-07000403	女性	小児	150 mg		異常行動	回復	インフルエンザに対して、リン酸オセルタミビル服用開始。3人兄弟全てインフルエンザに感染したが、当患者だけ、家の中を走り回るなど異常な行動が見られた。	異常-310	
351	B-07013378	男性	小児	不明		異常行動	回復	インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル処方。服用後、走行中の車からの飛び出し。異常行動発現。	異常-311	
352	B-07000209	男性	青少年	150 mg		異常行動	回復	リン酸オセルタミビル服用後、自分が透明になったなどと2時間くらい暴れる。母親らがしばらく押さえつけて事なきを得た。なお、患者はもともと精神科に通っている。	異常-312	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
 （販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No.	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No.	備考
353	B-07027776	男性	不明	150 mg		異常行動 出血	回復 不明	インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビルを5日分処方。 1日服用したところまでは記憶はあるが、その後なくなる。朝、ベッドに座っ ていて、気がつく手から出血していた。知らない間にトイレのタンクを壊して いた。水浸しに気づかず。その後も服用を継続したが、異常行動はなかつ た。	異常-313	2008/4/1以降 追加報告

No	識別番号	年齢 数値	年齢 単位	性別	PT名称	タミフル 服用時期	異常な行動発現時期	試薬中か否 か (試薬中○、 試薬中じやな い×)	試薬中 に発現 した 異常な 行動	試薬中 の場合、 試薬時 刻から発 現まで の時間	回復まで の時間	一服りして 完全回復	体温	患者の記憶	総動員時 等の反応	服薬時 刻の家族 の反応	水に 対する 反応	他剤による 「異常な行 動」の発 現	異常な行 動の 特徴	異常な行動の 具体的な詳細 (例：幻覚については具体的に何が見えたか？本人が幻覚を見たのか、 誰が幻覚を見たように言っているのか？)	追加資料No
1	B07001634	1	年	男性	薬師	2002/2/2 2002/2/3 2002/2/4 2002/2/5 2002/2/6	2002/2/2 夕服用後	×	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	無	投与前2日目 入眠。離床中夜中(夜明け前起床)。 投与前2日目 朝よりやや興奮の傾向があったとのことであった。夕方よりタミフル内 服開始後、一日中声を出して騒ぐ状態があった。 3日目 チオフィリンの影響を考慮し血中濃度を測定したが、6.96とむしろ低値。夜間は平 静とのことであった。 5日目 タミフル中止。夜間は良好。 6日目 興奮状態。 7日目 通常通りの機嫌となる。退院。一日中声を出して騒ぐ。	1
2	B05000689	1	年	女性	薬師	2005/3/15 2005/3/16	2005/3/16 15:00 朝服用後	○	Yes	-	No	-	解熱過程	-	No	No	No	No	無	2005/3/15 夜、解熱するが夜間興奮状態で起きわめく。2005/3/16(11:00)38.9℃午 前中歩行ふらつき状態。昼食後午睡し目覚めてから身元。異常な興奮状態で号泣し周 囲が「手がつけられなくなった」と訴え18:30に再来院。2005/3/17興奮状態少し落ち着 く。歩行正常。(11:00)38.5℃(20:30)再び興奮状態。フラフラ歩きとなり再びタイア ン錠剤使用を指示。	2
3	B05022378	1	年	男性	①異常行動 ②低体温	2006/1/17 2006/1/18	2006/1/18 18:00	×	No	-	1時間程度	Yes	解熱過程	No	No	No	No	No	無	2006/01/17 (タミフル)インフルエンザ治療のためタミフル20mg投与。 2006/01/18 (体温)38.9℃(解熱)38.5℃(体温)38.9℃(体温)38.1℃。(足)行動異常 (急に走り出して変な姿勢で走る)発熱(22:00)未決。入院にて経過観察。 低体温。 2006/01/18 (7:00)低体温は回復。退院。(入院中、行動異常なし)行動異常は回復。 インフルエンザ回復。	3
4	B06025418	2	年	女性	①激越 ②異常行動	2007/3/6 2007/3/7	2007/3/6 22:30 2007/3/7 10:00	×	No	-	1-2時間	-	1度目は発 熱持続 2度目は解 熱過程	-	No	-	-	-	No	3/6(22:30)ベッド側に顔をガングンがつける。「顔を離れる」「点滴をはずせ」などの言 葉を発して泣きわめく。約1-2時間でおさまる入院。3/7(10:00)機嫌が悪くなり、顔を ベッド側にぶつけた。部屋の窓をさして開けて欲しいとせがみたりする。	4
5	B07010111	2	年	男性	異常行動	2007/4/24 2007/4/25 2007/4/25 2007/4/26 2007/4/26 2007/4/27 2007/4/27 2007/4/28	2007/4/24 夕	○	Yes	-	-	-	-	-	-	-	-	-	無	2007/4/24 インフルエンザに罹患して、本剤75mg×2回/日処方。発症時に認められた 自他覚所見：発熱37.8℃。夕方より服用開始。異常行動(興奮)発症。寝てはいたはず なのに突然起き上がった。部屋を走り回った。けがはなかった。 2007/4/27 インフルエンザ回復。 2007/4/28 異常行動回復。本剤服用後、投与終了。	5
6	B08019530	2	年	男性	異常行動	2007/3/24~ 3/25	2007/3/25 1日2回	×	No	-	-	-	解熱後	Yes	-	-	-	-	かんしゃ や 喃 言	2007/03/24 インフルエンザと診断され、本剤を2回内服(2mg/kg×2回)。 2007/03/25 本剤内服後2mg/kg×2回、解熱した。 異常行動発現。泣きわめいて、走り回る。寝転がると顔を打ちつける。気に入ら ないことがあると顔を壁に打ち付けたり、ぐずりが今までより激しくなった。 2007/03/26 本剤投与中止。 2007/03/27 日中は問題なかったが、真夜中にまたぐずりが激しくなった。 2007/03/28 午前中は寝てはいるが寝る間を繰り返して寝られず、ぐずりする。 異常行動(泣きわめく)が多い。地面に顔を打ち付けたりするなどの行動あり。入院。薬師 指導で、神経学的その他の身体所見で異常所見は認められなかった。脳波では異常所 見は認められなかった。 2007/03/29 退院。 脳部MRIでも、異常所見は認められず。脳波検査は未施行。 5日目の内に、異常行動は徐々に改善していき、ステロイド/バルス療法など施行せず。 経過、予後は良好であった。 異常行動の経過：症状	6
7	B03000880	3	年	女性	失見当識	2003/1/24 2003/1/25	夜 12:45	×	-	-	-	-	発熱持続	-	-	No	No	-	無	2003/1/22(午後)インフルエンザ発症。体温(38.3℃)。咳、鼻水、下腹痛、咽頭痛、倦怠感あ り。(午後)体温(37.5-38.2℃) 2003/1/23 (8:30)発熱(38.3℃) 咳、鼻水、軽い下腹痛を訴える。 2003/1/24 (19:30)体温(38.7℃)と元気なし。咽頭痛あり。インフルエンザAと診断し、 タミフル60mg/日投与。少しぼーっとした感じがあるが、退席あり。夜より、ねないで動き まわる。落ち着かず、キョロキョロするが叫んでも返事をせず。どこをみているのか焦 点がさだまらない。ぼーっとしており全くしゃべらない。聞いているのかもわからない 状態になった。 2003/1/25 (13:45)体温(38.9℃)と解熱するも上気症状が続きよくならない。言葉な し。顔色良好。呼吸正常。多動傾向あり。尿痛なし。神経反射異常なし。瞳孔左右同 大。対光反射あり。呼びかけても反応が鈍い。キョロキョロする。顔に汗がにじむか わらない。医師も病態よくわからない状態であった。脳波又は本剤副作用を考慮して 他院へ紹介した。入院後の詳細は不明。EEG、MRI、血液検査：異常なし。チオフィリン 血中濃度がやや高値。 2003/1/27 言葉がでるようになった。 (11:00)意識に異常し始め、奇声を発しながら何度も自分の顔を打ちつけた。母 親が押さつけたが、18時まで異常な興奮状態が続いた。 (16:00)薬師指導で回復。その後、精神症状の方はおさまる再燃しなかった。	7
8	B07013311	3	年	女性	異常行動	2007/2/20	11:00	-	-	-	-	-	No	発熱持続	-	No	No	No	無	2007/02 インフルエンザA型の診断にて本剤処方。午前11時ごろ1回目の服用。1回 目服用4時間後位に、急に興奮をかけたけがったり、暴走後(服用8時間後位)背投 していない場所へ走りおちかきを投げつけたりといつもはみられない行動あり。暴 前に本剤2回目の服用。KT38度台。 2007/02投与2日目 前日同様、顔が高くてつらしているのに突然動き出すなど、いつ もと違う行動が見られた。午前中KT38度台。午後には体温低下。その後症状なし。本 剤は5日間飲みきったが、その後は症状なし。アンヒバS ₂ 使用せず。	8

異常な行動が記録されている事例の追加調査結果

※：継続投与後に異常行動を含む精神神経系症状を発現した事例
 *：継続投与後に異常行動を含む精神神経系症状を発現しなかった事例

No	識別番号	年齢 年齢 単位	性別	PT名称	タミフル 服用時刻		異常な行動発現時		取極中か否 か (就寝中:○、 就寝中じゃない:X)	発熱 発熱 後発熱	就寝中の場 合、就寝時 刻から発現 までの時間	起床までの 時間	一服して 完全回復	体温	患者の記憶	聴取取得可 等の既往	聴取取得 後の家族 反応	他に 対する 反応	他に による 「異常な 行動」の 動作 履歴	異常な行動 に 関する 質問	異常な行動の 具体的な詳細 (例:幻覚については具体的に何が見えたか?本人が幻覚を見たのか、 誰が幻覚を見ていたよと答えているのか?)	旧資料No	
					2007/3/18 2007/3/18 2007/3/17 2007/3/18 2007/3/19 2007/3/19	10:30 夕 12:00 夕 朝 夕 朝 夕																	
10	B07013419	3	年	男性	異常行動	2007/3/18 2007/3/18 2007/3/17 2007/3/18 2007/3/19 2007/3/19	10:30 夕 12:00 夕 朝 夕	2007/3/18 13:00	-	-	-	10分	-	-	-	-	-	-	-	-	無	2007/3/18 (10:00)発熱時は、38.8℃の発熱、若干の嘔があった。A型インフルエンザに 対し、本剤90mg分2回処方、(10:30)本剤30mg服用。(11:00)二階で昼寝。いつもの 発熱時同様、少し四肢をピクピクとする。(13:00)昼食を用意して、母親が二階へ。その時 二階の大きい窓を開けて上半身を乗り出すようにしていた。母親が注意すると真直に 従う。通常時、いつかは母親の言葉になかなか従わず、わがままの点あり、遠く不 自然なと母親を感じた上での事。(13:10)異常行動は回復。 2007/3/17 (朝)発熱なく服用せず。(12:00)40℃の熱、朝の分の本剤30mg服用。(夜)以 降、発熱認めなかったが、その後も合計4日服用。	9
11	B07027598	3	年	男性	激越 幻覚	2008/02/07 2008/02/08	21:00 8:30	2008/02/07 22:00 22:00	○	-	30分	10分	No	発熱持続中	-	No	Yes (兄: 発熱時 に怖い夢を 見る)	-	No	No	2008/02/07 (10:00)インフルエンザA型と診断。(21:00)A型インフルエンザに対して、タ ミフル25mg内服。(22:00)身体熱感あり。寝たかと思うとわーと叫んで何かがある」と 言う。テレビを指差して「あーあー」まーまー」と訳のわからないことを言いながら 言う。10分ほどおさまった後、(23:00)ふとんに入っていたのが起きて走り出す。 2008/02/08 (8:00)朝また騒ぐ。(9:00)嘔吐を繰り返す。体温38.8℃。 朝食はふだんの半分くらい食べた。(9:30)本剤12.5mg内服(苦味のため半分でやめ た)。 2008/01/18 (1:00)突然起き上がり机の上へあがる。その後柱に立ち寄り、その後退室(5分程 度)徘徊した感じであった。夜間せん妄(非重篤)発現。その後退室して、 (1:10)夜間せん妄回復。	No	
12	B08001381	3	年	男性	譫妄	2008/1/15	22:00	2008/1/16 1:00	○	Yes	-	5分	Yes	発熱持続	No	No	No	-	No	無	2008/01/15 (1:00)突然起き上がり机の上へあがる。その後柱に立ち寄り、その後退室(5分程 度)徘徊した感じであった。夜間せん妄(非重篤)発現。その後退室して、 (1:10)夜間せん妄回復。		
13	B02001480	4	年	男性	①妄言 ②幻覚	2002/2/5 2002/2/6	夜 朝	2002/2/5 2002/2/6	服用1時間後 服用2時間後	x	-	-	-	-	Yes	-	-	-	-	-	不明	投与開始当日 体温:39.3℃。1カプセル投与1時間後(夜間)に妄言、幻覚が出現。そ の後、妄言、幻覚は、おさまった。 投与開始翌日 朝、1カプセル服用2時間後に幻覚、妄言が出現。来院後、タミフル投 与を中止。(本人が包丁を持ち出した。その事を知っていると、持ち出したことは覚えて いるとのこと)	10
14	B05000876	4	年	男性	①意識レベルの低 下 ②異常行動 ③尿失禁	2005/3/11 3/12-3/13	夕 朝・夕	2005/3/13 12:00	x	No	-	13日3分 14日10-15 分	-	No	発熱持続	No	No	No	No	No	無	意識がもうろう状態で、意味不明の発話をしながら火がついたように泣き、母親に抱き つく。母の膝の上で尿失禁をする。夜、睡眠中突然起き上がり叫ぶ。壁をがらん 等の異常状態となり、母親が声かけやなだめを全く拒否。10分から15分ぐいす と自然に再入睡をする。このような行動を1時間後に4-5回繰り返した。	11
15	B08024911	4	年	男性	①激越 ②異常行動	2007/2/28	夕方	2007/2/28 17:00頃	-	No	-	30分x数回 (くり返し)	No くり返した	解熱過程	No	No	No	-	No	No	無	興奮状態が30-40分。その後大声で奇声を発し、壁をたよりに走りまわる。大人二人 でからうじて押さえる。単なる興奮というよりも、抑制しきれない叫び出しかけのような 暴れ方。常識がつかぬ感じがわねない様子。つじつまはあっているがやりまくっていた。	12
16	B07000057	4	年	男性	異常行動	2007/2/28	不明	2007/2/28	服用30分後	-	No	-	-	No	発熱持続	-	No	-	-	No	不明	母親が顔を強背面に近づいている間目を離した際に、道路を全力で走っており、家 につれて帰った後は、ベランダの欄を越えようとしていた。	13
17	B07000106	4	年	男性	激越	2007/3/18	19:00	2007/3/18 20:00	-	-	-	-	-	No	発熱持続	-	No	-	No	有(不明)	2007/3/17 37℃台の発熱あり。 2007/3/18 午前中から38-40℃台の発熱があり、休日診療所を受診した。インフルエ ンザA型と診断。タミフル、ムコダインが処方された。自宅発熱38-40℃、咳、 鼻血状(鼻水、鼻汁あり、しゅみ)。1(18:00)本剤、ムコダインを服用した。(20:00)大声を あげて、一点を凝視した。その後、ぼーっとして入眠した。(23:30)大声をあげて、押さえ つけていないと動き出す様子で、患者車で当院緊急外来に搬送された。来院 時、意識は清明で興奮状態になった。本剤は中止とし、観察目的で入院した。以 後、輸液のみで観察したが、異常行動、けいれん、異常発言などはなく、 2007/3/22 退院。	14	
18	B07000256	4	年	男性	①譫妄 ②異常行動 ③時覚覚醒	2007/3/10 2007/3/10 2007/3/11 2007/3/11	8:00 18:00 8:00 18:00	2007/3/10 8:00~14:00 2007/3/10 18:00~23:00 2007/3/11 8:00~14:00 2007/3/11 18:00~23:00	x	No	-	5-8時間	Yes	発熱持続 解熱過程	-	No	No	No	No	No	無	2007/3/10 (8:00頃)インフルエンザA型に対して、タミフル90mg×2回/日投与開始。ココ ロココーと言ったこと(非重篤)を言って、後何もこわばり(非重篤)、走り出すため、服 が指かかっていた。(14:00頃)本剤服用後8-7時間後に症状消失。(18:00頃)本剤投 与、症状出現。(23:00頃)症状消失。 2007/03/11 (8:00頃)本剤投与、症状出現。(14:00頃)症状消失。(18:00頃)本剤投与、 症状出現。(23:00頃)症状消失。3/10-11で計4回本剤投与一症状発現を繰り返した。 2007/03/13 朝本剤内服後、投与中止、症状全て回復。	15
19	B07004784	4	年	女性	異常行動	2007/3/15 2007/3/15	12:00 20:00	2007/3/15 20:00	○	Yes	-	1分	Yes	発熱持続	-	No	-	-	-	-	熱性痙攣	継続発症を思わせる既往なし。 不明 今年、予防接種2回施行。 2007/3/14 (4:50)発熱。(午前)当院初診。インフルエンザウイルス抗原迅速検査(鼻を かんだ鼻汁検体)を行ったが陰性であった。トロンボロニン製剤450mg分3、ムコダイン製 剤450mg分3、カロナール錠剤150mg服用を投与した。 2007/3/15 (午前)解熱せず再入院した。鼻咽喉科検体を用いて検査を行った所、イン フルエンザA型と診断。(12:00)本剤30mg/回投与。(20:00)本剤30mg/回投与。異常行動発 現。度々途中で突然起き上がり、同じ部屋のTVの角へ歩いていった。壁は開けて いたがうつらであった。口を開き、しゅみも聞こえていたが、意味は不明であった。発熱は 成立しなかった。1分ほどで静かになって寝た。翌日に退院した。 2007/3/18 (朝)発熱し、以降異常は認められなかった。異常行動軽快。本剤は以降服用 しなかった。 2007/3/17 (朝)解熱した。	16
20	B07018036	4	年	男性	異常行動	2005/03/14 2007/03/03 2007/03/03	不明 13:10 23:50	2005/03 2007/03/04 3:00	○	Yes	-	10-15分	Yes	解熱過程	No	No	No	-	No	No	2005/03/14(17:00)体温39℃。(18:00頃)当院受診し、本剤処方。 2005/03/15 夕方には解熱。この間、大声で叫ぶという異常行動を起こす(出現時間不 明)。 2007/03/01 (17:00)体温 38.7℃。 2007/03/03 (12:10)体温 40.1℃。本剤1回目服用。(23:50)体温 40.0℃。本剤2回目服 用。 2007/03/04(3:00) 体温 37.9℃。目を開いたまま、立ち上がり、すわたり、走り出し、10 -15分ほど、就寝中、突然起き上がり「おぼけが見える」と叫ぶ。目を開いた状態で 焦点を合わせず、母親を認識できず恐怖の様相で走り出す。ソファの上にとりまわった		

異常な行動が記録されている事例の追加調査結果

※：継続投与後に異常行動を伴う精神神経系症状を発現した事例
*：継続投与後に異常な行動を伴う精神神経系症状を発現しなかった事例

No	識別番号	年齢 数値	年齢 単位	性別	PT名称	タミフル 服用時刻	異常な行動発現時刻	試薬中か否か (試薬中：○、 試薬中じゃない：×)	発熱 後に発現	試薬中の場 合、試薬時 刻から発現 までの時間	回復までの 時間	一服して 完全回復	体温	患者の記憶	観察者 の責任	観察者 の責任	観察者 の責任	性別による 「異常な行 動」の診断 用途	異常な行 動の診断 用途	異常な行動の具体的な詳細 (例：幻覚については具体的に何が見えたか？本人が幻覚を見たのか、 誰が幻覚を見たように感じたのか？)	ID資料No
21	B07025219	4	年	女性	低体温 異常行動	-	2008/1/31 2008/1/20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2008/01/29AM 本剤1日処方。 2008/01/30夜 体温38°C。 2008/01/31朝 体温34.2°Cに低下。低体温 発現。 不明 夜間にうろついていた。異常行動 発現。 不明 低体温。異常行動 軽快。	
22	B08001240	4	年	男性	①幻覚 ②異常行動	2008/1/19~ 2008/1/21	2008/1/21	朝	×	No	-	-	-	解熱後	-	-	-	-	-	2008/01/21 (朝)本剤内服30分後、「物がつに見える」、「キーキー大きな声をあげて走り回 る」。幻覚。異常行動 発現。体温36.7°C。 不明 幻覚。異常行動 回復。	
23	B08002520	4	年	男性	異常行動	2008/2/10 2008/2/11 2008/2/12	2008/2/12 2008/2/13	①23:30 ②2:00	○	Yes	2時間30分	-	①No ②Yes	①解熱過 敏 ②解熱後	No	No	No	No	No	2008/02/12 (21:00)就寝。 (23:30)目覚めて、ギョギョギョ、「イヤイヤガ」と叫び、どうしようもない様に人を激 る。泣き疲れて眠る。異常行動(非重篤)発現。 2008/02/13 (2:00)再び急に起き上がった。発熱の発作による。異常行動(非重篤)発現。 本剤投与中止。 以後同様の行動なし。異常行動 回復と判断。	
24	B08028418	4	年	女性	異常行動	2009/1/24	2009/1/24	12:00 時刻不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2009/01/24 当該受診。インフルエンザAと診断。本剤51mg×2回/日投与。 (12:00)異常行動(突然走り出す。おびえる。わめく。手を振り回す等無意味な動作。壊 られない(壊れない)) (医師重篤度:非重篤)発現。突然走り回り、おびえたり、わめ いたりした。手を振りまわす様な意味のない行動をくり返した。 (時刻不明) 異常行動(突然走り出す。おびえる。わめく。手を振り回す等無意味な動作。壊らな い(壊れない))の転機:回復	
25	B08031894	4	年	男性	異常行動	2009/2/28	2009/2/28	14:00	○	-	-	-	Yes	発熱持続	-	-	-	-	No	2009/02/28 A型インフルエンザ治療のため本剤30mg投与。服用後様変わり。 (14:00)異常行動(医師重篤度:非重篤)発現。午後就寝し、椅子に座り、水を飲んだり 。父親と話した後、突然室内を走り回る。父の問いかけに強に反発。その時点38°C。 その後は37°C前後維持し、軽快。異常行動の転機:回復	
26	B04008530	5	年	男性	譫妄	2004/2/6 2004/2/6 2004/2/7 2004/2/7 2004/2/8 2004/2/8 2004/2/9	2004/2/6~ 2004/2/7	夜~ 明け方	-	-	-	24h以内	Yes	発熱持続	-	No	No	No	No	2004/02/05 夕方、インフルエンザ発症。 2004/02/06 38.9°Cの高熱を主訴として来院。インフルエンザ抗原試験にてA型と判 明。[AM12:20]タミフル内服。[PM6:10]本剤内服。体温:40.2。夜~7日明け方にかけて 40°Cの高熱が続く。 2004/02/07 明け方、息が荒いと言って、興奮して窓の中を走り回っていた。いよいよ 不安状態に陥った。(AM10:45)本剤内服 [PM6:35]本剤内服 体温:37.0。同日、譫妄 回復。 2004/02/08 (AM10:30)本剤内服 体温:36.7 [PM6:00]本剤内服 体温:36.2 2004/02/09 (AM7:45)本剤内服。体温:36.0°C	17
27	B05024964	5	年	女性	譫妄	2006/02/08	2006/02/08	20:00~翌4:00	○	Yes	1	No	Yes	発熱持続	No	No	No	-	No	突然起き上がった。目をしっかり開けている。しかし目つきはおかしい。そして目の周りに 小さな黒い虫がついているとか、シールがついているからとそれを剥がそうとしたり 。毛布をアイスと違って口にくわえたり。そばに友達がいて両手したらダメとか同様な 言動などと言っていたりする。夢遊病の様に立って歩いたりもした。ほとんど眠らずに このような症状が続いた。	18
28	B05025585	5	年	男性	譫妄	2006/2/21	2006/2/21	14:00 18:00	-	-	-	数~30分	-	-	-	-	-	-	-	2006/2 本剤服用し。異常行動(重篤度不明)発現。 2006/2/19 (朝)患児の母。発熱。 2006/2/20 患児の母。インフルエンザA型と診断。 2006/2/21 発熱。当該受診。インフルエンザA型と診断。本剤内服開始した。(昼)本剤 60mg服用。(14:00頃)30分ほど譫妄状態(常声。走り回る。ないものがあると言った)。18:00頃数分同様の状態となった。(19:00頃)本剤投与量60mg服用。(21:00過ぎ)30 分ほど譫妄状態となり。救急受診。入院した。 2006/2/22 解熱。 2006/2/24 発熱中止。 2006/2/25 増悪なく退院。	19
29	B06025200	5	年	女性	異常行動	2007/2/20	2007/2/20	20:00	×	安眠出来 ていない。確 言の延長一 つとして いる状態か ら発現	-	6時間	Yes	発熱持続	No	No	-	-	No	2007/2/20 インフルエンザA型と診断。タミフル40mg×2回/日処方。(朝)本剤内服した が嘔吐。この時期は発熱はかわらず。特に異常行動を認めなかった。(19:00)タミフル 内服。体温:39°C。朝は嘔吐してしまっただけで、実態には夜だけ服用。内服後様子 つけていたが、うとうとしている状態が続いていた。(20:00)服用後1時間くらいから異常 行動発現。症状としては夜から朝までのけのけからい行動が続き。一度中絶しな かった。タミフルを服用させ、寝かせようとしたが、うろつろしている状態でふとんを 投げ出したる行動が出現した。 2007/2/21 (8:00~5:00)明け方より熱。おそろ熱は下がっていたと思われるが不明。 異常行動回復。 2007/2/28 インフルエンザ:軽快・回復	20
30	B06025337	5	年	女性	異常行動	2007/2/5	2007/2/5	22:00	○	Yes	1.5時間	約2時間	Yes	発熱持続	No	No	No	-	No	2007/2/5 (17:00)インフルエンザに別して、タミフル内服。(20:30)就寝。(22:00)異常行 動発現。急に起き上がり、嘔吐し、トイレへ駆け込んだ。その後、便座や自分の太も もを必死にこすっていた。心配になった母親が救急車を呼び、搬送。 2007/2/6(0:00)就寝。(1~4:00) (5:00)就寝。(7~8:00)熱も下がり、退院。異常行動回復。	21

異常な行動が記録されている事例の追加調査結果

※：継続投与後に異常行動を含む精神神経系症状を出現した事例
 *：継続投与後に異常な行動を含む精神神経系症状を出現しなかった事例

No	識別番号	年齢 数値	年齢 単位	性別	PT名称	タミフル 服用時刻	異常な行動出現時刻	観察中か否 か (観察中:○、 観察中じゃない×)	発熱 投与後 に出現	観察中の 場合、 服薬前 刻から出現 までの時間	一回服用 までの 時間	一服して 完全回復	体温	患者の 記憶	観察者 の記憶	観察者 の記憶	先に 対する 反応	投与による 異常な行 動の 出現	異常な行 動に 関する 反応	異常な行動の 具体的な 詳細 (例:幻覚については具体的に何が見えたか?本人が幻覚を見たのか、 誰が幻覚を見ていたよとどかっているのか?)	旧資料No	
31	B07000128	5	年	女性	①異常行動 ②意識レベルの低下	2007/3/19 14:00	2007/3/19 20:00 2007/3/20 12:00	×	No	—	1分以内	Yes	事象1は一 事象2は解 熱後	No	No	No	No	No	No	2007/3/19 (午前)38.8℃の発熱あり受診。インフルエンザA型と診断。(14:00)本剤1 回30mg服用。 20:00程度にかけ出して転倒した。眼球上転あり。意識はすぐに回復するも、その間 の記憶はなかった。 その後本剤服用せず。 2007/3/20 (12:00)トイレに歩き出した後、睡床の隅となり倒れかかり、母親が支えら れた。意識消失はなかった様だと。またこの時発熱はなかった。	22	
32	B07000175	5	年	男性	①意識 ②異常行動	2007/2/24 2007/2/24 2007/2/25 2007/2/26 2007/2/26 2007/2/27 2007/2/27	2007/2/24 18:30	○	Yes	—	Yes	No	—	—	No	No	No	Yes	No	2007/02/24(午前)39.8℃で来院。インフルエンザA型と診断。(10:00)本剤内服後(夜、 夕)本剤内服。(19:30)布団から急に立ち上がりカニのように歩き回る。カーテンを開け て外を見、震舞し始めた。 2007/02/25 他院に一時入院。入院中も本剤内服継続。 2007/02/26 退院。(午前)37.1℃。朝、本剤内服。(昼)37.8℃。「空を飛んで死にた い」と言った。(夜)本剤内服。 2007/02/27(昼)通夜再び「死にたい」と発言。37.0℃。 2007/02/28 本剤1日分残っていたが、投与中止。インフルエンザ、異常行動ともに回 復。	23	
33	B07013280	5	年	女性	異常行動	2007/3/12 2007/3/12 2007/3/13 2007/3/13 2007/3/14 2007/3/14 2007/3/15 2007/3/15 2007/3/18 2007/3/18	2007/3/13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2007/3/12 本剤投与開始。 2007/3/13 本剤投与2日目に、異常行動(走りまわって壁にぶつかる。表情がおかし い)が出現。 2007/3/18 本剤の投与を中止。	24	
34	B07022413	5	年	女性	①意識 ②異常行動 ③幻覚 ④興奮	2007/12/30 2007/12/31 2007/12/31 2008/1/1 2008/1/1 2008/1/2 2008/1/2 2008/1/3 2008/1/3 2008/1/4	2007/12/31 4:00 2007/12/31 4:00 2007/12/31 4:00 2007/12/31 4:00	○	—	—	—	—	発熱持続中	—	No	No	No	No	No	2007/12/31(4:00) 入眠していたが急に起き上がり、走り回る。友達の名前を叫ぶ。母の背中に見え ると言い始めた。母の背中によじのぼったり、友人の声を聞こえると言った。 母に抱かれてガクガク震え発汗(?)を繰り返す。母は強硬可能。 母急車で病院を受診。受診時、異常行動消失。意識回復。 本剤継続して、1/より発熱。	No	
35	B07025220	5	年	男性	異常行動	2007/11/13	2007/11/13	×	—	—	—	No	—	—	—	—	—	—	No	2007/11/13 診察時 体温:38.3℃。(夕食後)インフルエンザA型に対して、本剤56mg 内服。体温:37.8℃ 一度寝た後、目覚まし、何かにおびえるように「いやいやだ」と叫び、洗面台によ じ登ろうとする。蛇口をじっと見つめ指で押さえる。こうした行動を繰り返した。異常 行動(非重篤)出現。 2007/11/14 (朝)起床時やや興奮した様子。	No	
36	B07025860	5	年	女性	急性躁妄	2008/1/28	午後	×	—	—	1分	Yes	発熱持続中	—	No	Yes 詳細不明	—	No	No	2008/01/27 (夜)発熱40℃あり。 2008/01/28 受診時、インフルエンザ検査でA型陽性。本剤46mg×2回/日処方。同時 に処方したStrept AIは陰性。午後より内服開始。脱せん妄発現(非重篤)。服用後1時間 ぐらいたると視線が合わず、1分間隔ではあるが、ぐるぐると同じ所をまわる様になる 動作をした。脱せん妄(非重篤)発現。 (夜)閉鎖目も出現。 2008/01/28 脱せん妄回復。解熱後の同様の再発性はなし。けいれん歴なし。 2008/02/02 本剤午後内服後終了。	No	
37	B0013388	6	年	不明	意識	—	—	○	Yes	—	—	—	—	—	—	—	—	—	不明	(母親からの連絡)服用した夜、就寝中に暴れた。患者は顔をかむのが大嫌いで、以 前、他剤でも夜間に暴れたことがあったとのこと。	25	
38	B05021887	6	年	男性	①幻覚 ②興奮	2008/1/8 2008/1/9 2008/1/10 2008/1/11 2008/1/12	朝・夕 10:00・夕 朝・夕 朝・夕 朝・夕	2008/1/9 15:50	×	—	—	30分	Yes	発熱持続	No	No	No	No	No	No	(15:30)幻覚、興奮状態発現。急に意識もうろうとし、「母屋の間に黒い星を着た人が いる」とおびえるように話し、あばれた。(18:00)救急車で来院。来院時は不穏が 強かったが、すぐおとなしくなり、強血等もスムーズに行えた。	26
39	B05023789	6	年	女性	①幻覚 ②異常行動	2008/01/24 2008/01/25	夕 朝	①2008/01/24 23:00-24: 00 ②2008/01/24	—	—	—	Yes	Yes	発熱持続	—	No	No	—	No	No	2008/01/24 (19:00)高熱の為受診し、タミフル、シロップ剤、アンピシリン錠処方あり。 帰宅後食事し、タミフル(33mg/日)、シロップ剤服用。(20:00)就寝。(23-24:00)服用後時 間後に麻痺して寝かしている状態から「布団が飛んでいる」と走って出てくる。母親が なだめ、睡眠する。幻覚症状発現。(不明)はいかい発現。 2008/01/25 (午前)朝食後タミフル(33mg/日)、シロップ剤服用させるが直後に嘔吐。 23:30-40分あり。本日は幻覚症状無し。(18:30)母親より幻覚症状についての電話が来 届きあり。本剤の副作用がインフルエンザによるものかどうかの可能性がある。主治 医へ詳しい幻覚症状について伝え、今後の対処方法を聞く様に伝える。(19:40)主治医 へ電話し、本剤の副作用の可能性あるため服用中止の指示。また坐薬も使用のた め、使用するよう指示あり。 2008/1/28 (8:00)薬局より母親へ様子確認の電話。坐薬使用後解熱し口元も増えてき たとのこと。今後も注意して様子見るように伝える。幻覚ない旨確認する。(10:00)受診 し、アロモックス小児用錠剤、シロップ剤処方あり。 2008/1/27 母親が来局。様子確認する。席は必ず母親連日に電話するもの「誰かが いる」と幻覚症状があるとのこと。インフルエンザ服用の危険性を話し、受診を勧める。 2008/1/30 幻覚症状回復。(不明)はいかい回復。 2008/1/31 薬局より様子確認の電話を入れる。1/30より元気に通学し、幻覚等強い 薬を確認する。	27

異常な行動が記録されている事例の追加調査結果

※：継続投与後に異常行動を含む精神神経系症状を発現した事例
 *：継続投与後に異常な行動を含む精神神経系症状を発現しなかった事例

No	識別番号	年齢 数値	年齢 単位	性別	PT名称	タミフル 服用時刻	異常な行動発現時 刻	状態中か否 か (状態中:○、 状態中ではない:×)	発熱直 後に発現	状態中の場 合、状態発 現前からの発 現までの時間	回復までの 時間	一服して 完全回復	体温	患者の記憶	看護観察等 の状況	検査異常 値等の家 族史	発熱に対する 反応	他剤による 異常な行 動の既往 の有無	異常な行 動の既往 の有無	異常な行動の具体的な詳細 (例:幻覚については具体的に何が見えたか?本人が幻覚を見たのか、 誰が幻覚を見ていたよと云っているのか?)	追加料No
48	B07012398	6	年	男性	異常行動	2007/3/3 14:00 2007/3/3 21:00	2007/3/3 15:00 2007/3/4 0:00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2007/2下旬 湿性の咳出現。 2007 発熱する2-3日前、夜寝ているときに不意な運動があった。(ピクピク) 2007/3/1 発熱する前日の夜、おびえたように、大声でママ、ママと叫んだ。 2007/3/2 (夕方)かかっていたりした様子が目立ち、その後38°Cの発熱あり、この頃から、いつもの熱の出方ではないような、少しもうろうとしている様子があった。 2007/3/3 (朝)38°Cの発熱あり、(13:00頃)出院受診時、39.9°Cに上昇。インフルエンザA型の診断がつき、本剤処方。 この日より、すぐぐっすり寝ている様子あり、声をかけても、なかなか起きをせず、目を醒めない様子があった。(14:00頃)帰宅後すぐに本剤服用。(15:00頃)異常行動発現(非重篤)。突然、服用した薬や、アクリリアなど全てを嘔吐。この間も、ずっと横臥しているように、意識のような意味不明の言動も見られた。嘔吐後、まもなく30秒から1分間の意識を戻す。間代性で眼球の左偏位があり、チアノーゼも出たが、すぐに落ち書き取り始めた。意味不明の言動と深い睡り、何度か叫ばないと返事をしなかった。返事はしても目を醒めなかったり、目の焦点が定まらなかったりした。(夜)発熱と頭痛あり、(21:00)2回目の本剤服用。 2007/3/4 (0:00)2回目の本剤服用から3時間後、それまで寝ていたのに突然飛び起き、まるで飛び込むように階段の方へかかっていった。保護者が追いかけて止めた。その時はもう目が開いて、寒い、保護者の言うことはまったく耳に入らず、まるで何かにとりつかれているようだった。トイレをさせても愛などころへかけてしまし、手を洗おうとしても、ただ手を置えていて動けないような状態でおさえつけて落ち着くまでに5-10分かかった。その後、また寝た。その時の状況は本人は見えていなかった。 2007/3/5 熱も下がりが元気になるが、3回ほど声をかけないと返事をしない、焦点が定まらない症状は続いた。 2007/3/6 普通の状態になった。	36
49	B07022876	6	年	不明	異常行動	2008/1/12 1日2回	2008/1/12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2008/01/12 インフルエンザ治療のため、本剤(40mg×2/日)投与開始。 同日、支離まで突然走っていた。異常行動(非重篤)が発現。 2008/01/15 転帰不明。	
50	B07026153	6	年	男性	異常行動	2008/2/6 午後 2008/2/7 夜 2008/2/8	2008/2/7 夜	-	-	5-10分	Yes	発熱持続	No	No	No	-	-	-	No	2008/02/06 インフルエンザAに對して、本剤30.8mg×2回/日処方。午後より内服開始。 2008/02/07 (夜)39.7°Cの高熱があり、突然起き上がり、家の中を走り回った。服のわからないことを話し、5-10分間眠った。異常行動(非重篤)発現。その後症状回復。 2008/02/08 (12:30)診察。体温38.7°C。反応は普通で異常なし。本剤午前内服後、投与中止。	
51	B08026307	6	年	男性	異常行動	2008/12/21 12:00	2008/12/21 15:00	○	Yes	3時間以内	-	Yes	-	-	-	-	-	-	No	2008/12/21 (10:00)点滴施行に際し、日頃にならぬめく感じあり。 (12:00)本剤40mg投与。 (15:00頃)異常行動発現。眠りから急にムサッと起きて部屋をグルグルまわる。 (16:00頃)2階から1階に降りて、外に出ようとして母が制止し、意識清明となる。 異常行動の転帰:回復	
52	B08026327	6	年	男性	異常行動	2008/1/20~ 2009/1/24	2008/1/22 2008/1/23	-	○	-	-	No	-	No	No	-	-	-	No	2008/01/20 頭痛、気分不良で当院受診。インフルエンザと診断。本剤43.8mg×2回/日服用(計9回服用)。 ムカムカ(医師重篤度:非重篤)発現。初診後一日中ムカムカしているとお訴えあり。 2008/01/22 興奮(医師重篤度:非重篤)発現。幻覚(医師重篤度:非重篤)発現。幻が見えるという幻視。 2008/01/23 異常な行動(医師重篤度:非重篤)発現。うなされ、怖い夢を見た。走り回ったりした。よくしゃべる。 2008/01/26 ムカムカの転帰:回復、興奮の転帰:回復、幻覚の転帰:回復、異常な行動の転帰:回復	
53	B08031693	6	年	女性	異常行動	2008/3/4	2008/3/4	-	-	-	-	-	発熱持続	-	-	-	-	-	-	2008/03/04 インフルエンザ治療のため本剤投与。 (服用後およそ3時間半後)異常行動(医師重篤度:非重篤)発現。急に家の中を走りまわったり、置いている物を投げた。熱は38.2度4分、本剤1回服用まで確認している。その後の臨床状況(中止したか否かを含めて)は不明。転帰も不明。	
54	B09020834	7	年	女性	①幻覚 ②異常行動	2005/12/12 11:00、18:00	2005/12/12 19:00、24:00	○	Yes	1時間、約5時間	5-6分	-	発熱持続	No	-	-	-	-	No	2005/12/12 朝、他剤にてタミフルドロソップ4mg/kg/日処方される。(11:00)タミフル2mg/kg内服。(18:00)タミフル2mg/kg内服後、寝かせる。(19:00)突然起き出し、ドアノブを強く回し続ける。又、左手に黒い点が見えるとお訴え。(18:10)就寝。(24:00)突然起き上がり、同様の行動をとり、(0:10)就寝。 救急車で当院搬送。 2005/12/13 朝、何事もなかったように起床。MPP、血液検査を実施するが、異常は認められなかった。次のために入院したが、異常行動は起こらなかった。	37
55	B09022992	7	年	男性	①興奮 ②失見当識	2006/1/18 夕 2006/1/19 朝・夕	2006/1/19 21:00 1:30、12:30、 18:00	○	Yes	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2006/01/18 (タミフル)インフルエンザ治療に對して、タミフル50mg投与開始。 2006/01/19 (朝)タミフル50mgずつ投与。(21:00)寝落ちした後に突然起き上がり、そこにいない友人の名前を呼びながら徘徊。急に笑ったり、物を投げる。せん妄(非重篤)。見当識障害(非重篤)発現。(22:00)入院。精神神経科病棟。せん妄以外は意識清明で、発熱、感冒症状は見えていたが、全身状態は落ち着いていた。 2006/01/20 (1:30)(12:30)(18:00)眠っていた後朝醒後、意味不明な事を言い笑う。間いかけの返事はあいまい。5-6分経てて覚醒。せん妄、見当識障害回復。 2006/01/21 解熱。以後は意識明せん妄なし。	38